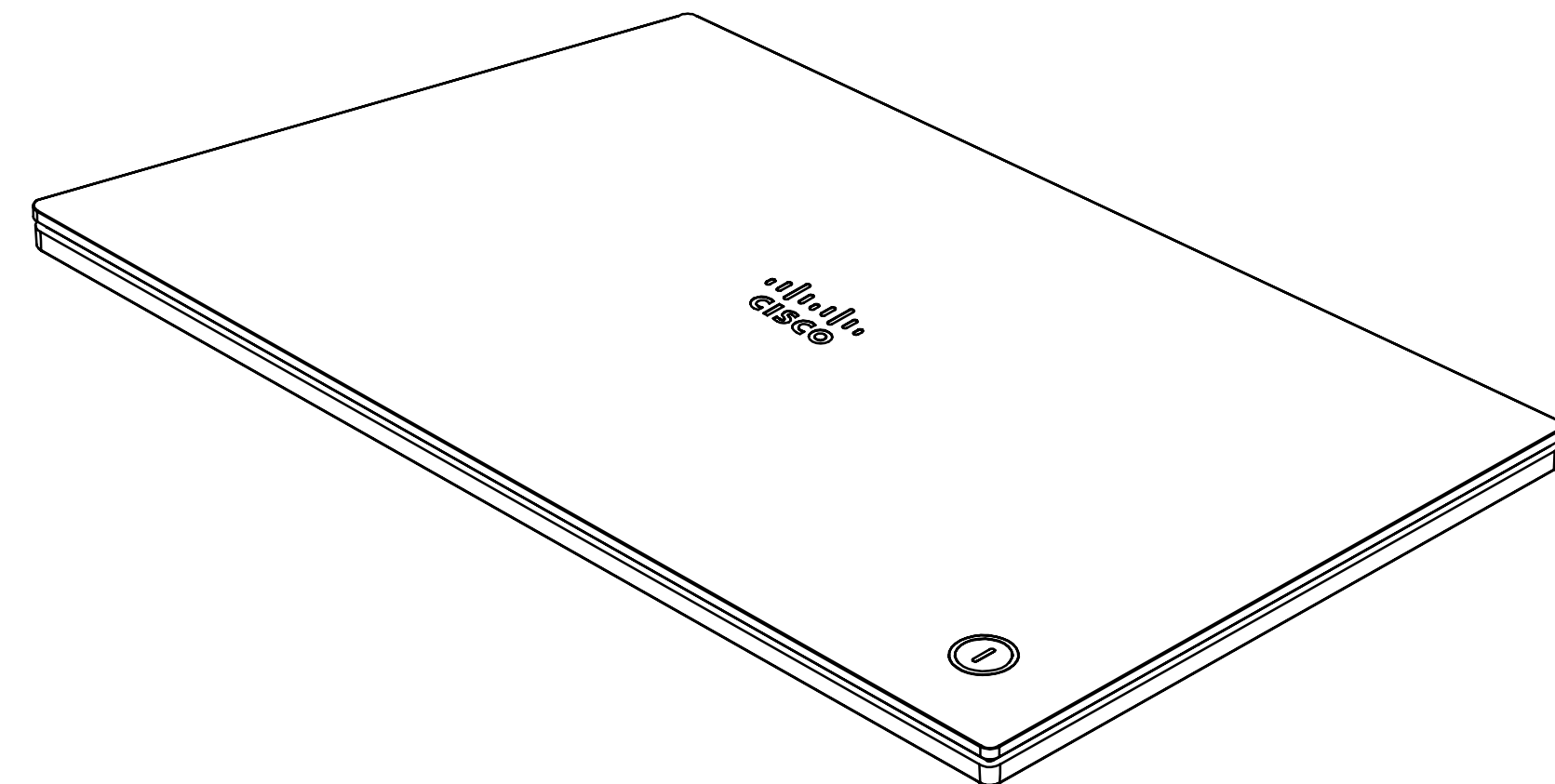
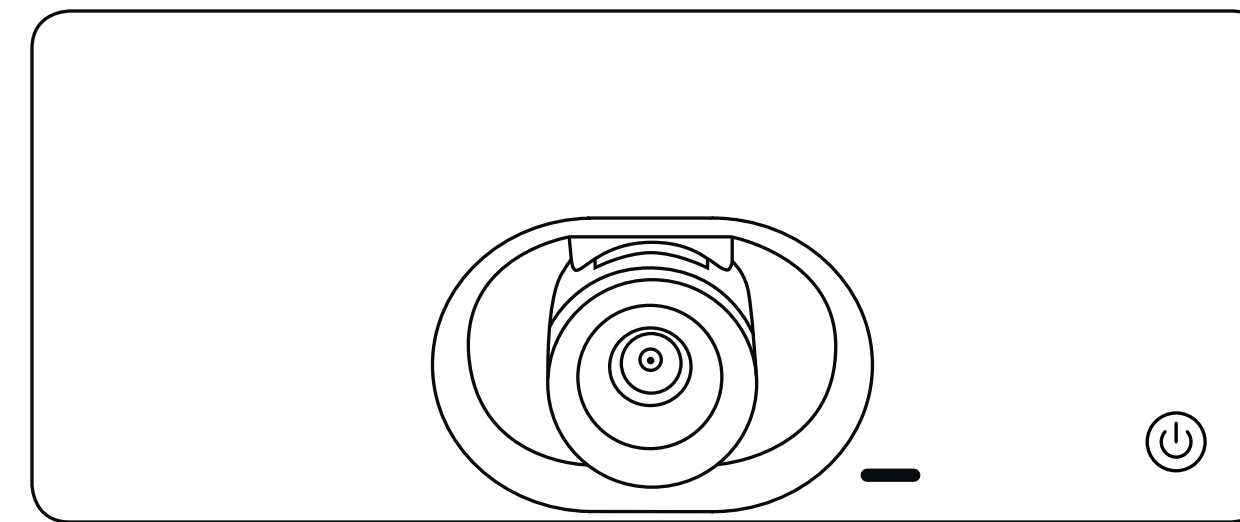


CE 9.6 Cisco TelePresence ユーザーガイド SX10、SX20



内容

このユーザ ガイドの内容

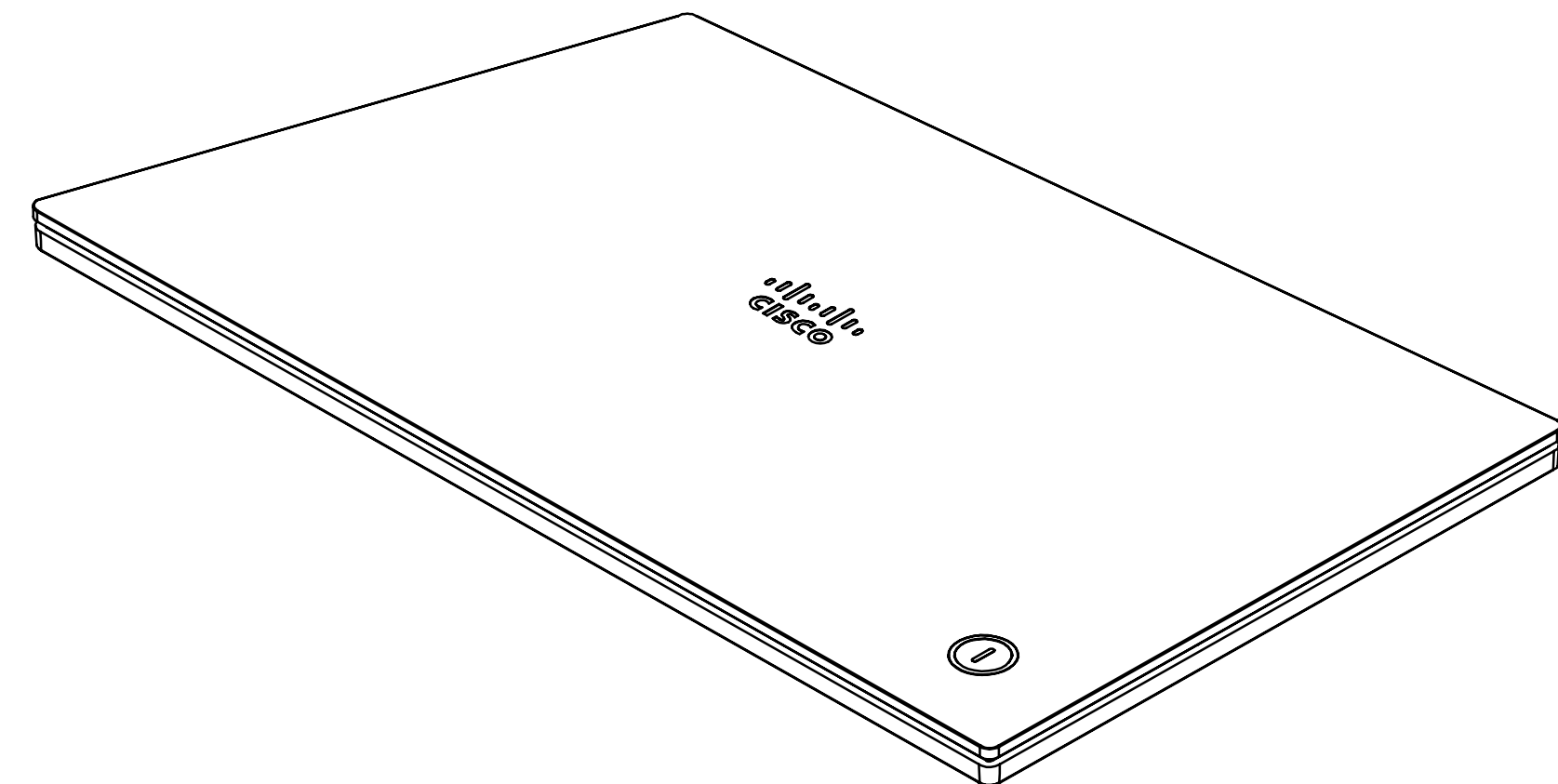
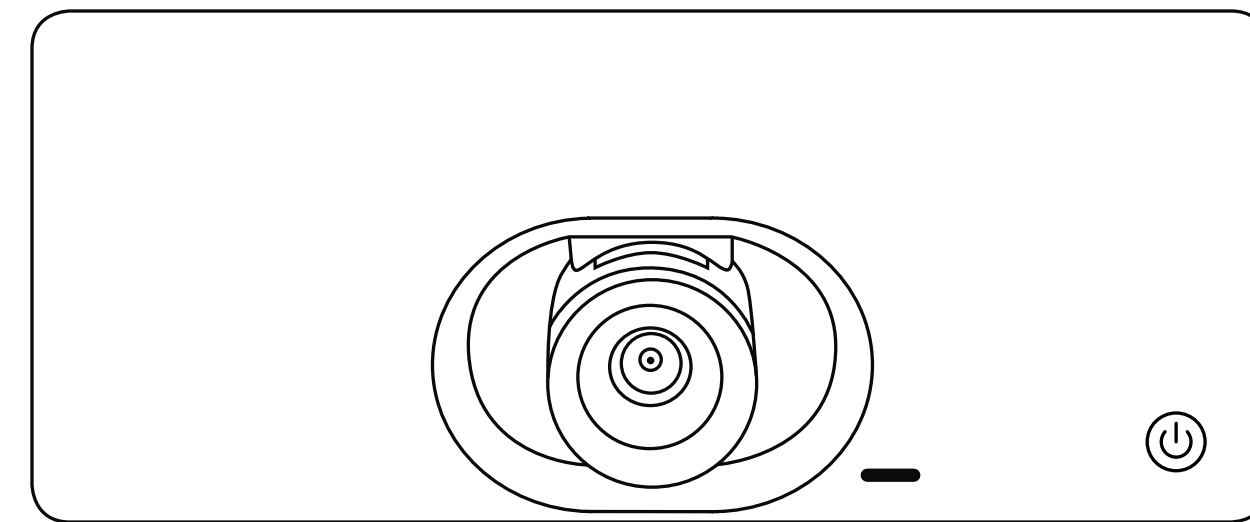
ビデオ会議：概要		
画面の説明	4	
操作のヒント	4	
リモートコントロールの説明 (I)	5	
操作のヒント	5	
ビデオ コール		
連絡先リストから電話をかける	8	
連絡先リストについて	8	
発信する前に連絡先を編集する	9	
編集機能について	9	
帯域を編集して発信する	10	
帯域について	10	
名前、電話番号、または IP アドレスを使用して発信する	11	
発信について	11	
既存の通話に参加者をさらに追加する	12	
ビデオ会議について	12	
会議から参加者を切断する	13	
ビデオ会議について	13	
着信	14	
着信があった場合	14	
通話中に追加の着信を受ける	15	
通話の拡張	15	
対応中の通話の転送	16	
スクリーンのレイアウトの変更	17	
レイアウトについて	17	
[応答不可 (Do Not Disturb)] を有効にする	18	
応答不可について	18	
スタンバイを有効にする	19	
スタンバイについて	19	
すべてのコールを転送する	20	
転送について	20	
インテリジェント プロキシミティ		
Cisco Proximity の超音波信号について	22	
プロキシミティについて	22	
コンテンツ共有		
プレゼンテーションの開始と中止	24	
コンテンツ シェアリン		
グについて	24	
通話中のプレゼンテーション レイアウトの変更	25	
プレゼンテーション レイアウトについて	25	
スケジュールされた会議		
スケジュールされた会議に参加する	27	
会議への入室	27	
連絡先 (Contacts)		
通話中ではないときに [お気に入り (Favorites)] に追加する	29	
[ディレクトリ (Directory)], [発着信履歴 (Recents)],		
[お気に入り (Favorites)] について	29	
通話中に [お気に入り (Favorite)] に追加する	30	
お気に入りについて	30	
カメラ制御 (Camera Control)		
カメラ設定の表示 (ローカル カメラ)	32	
カメラ設定について	32	
相手先カメラ操作	33	
相手先カメラ操作について	33	
自画面 PiP の移動	34	
セルフビューを移動する理由	34	
設定		
設定にアクセスする	36	
バージョン情報管理	36	

この目次のすべての項目はハイパーリンクになっており、該当記事に移動できます。

章間で移動するには、サイドバーのアイコンをクリックしてください。

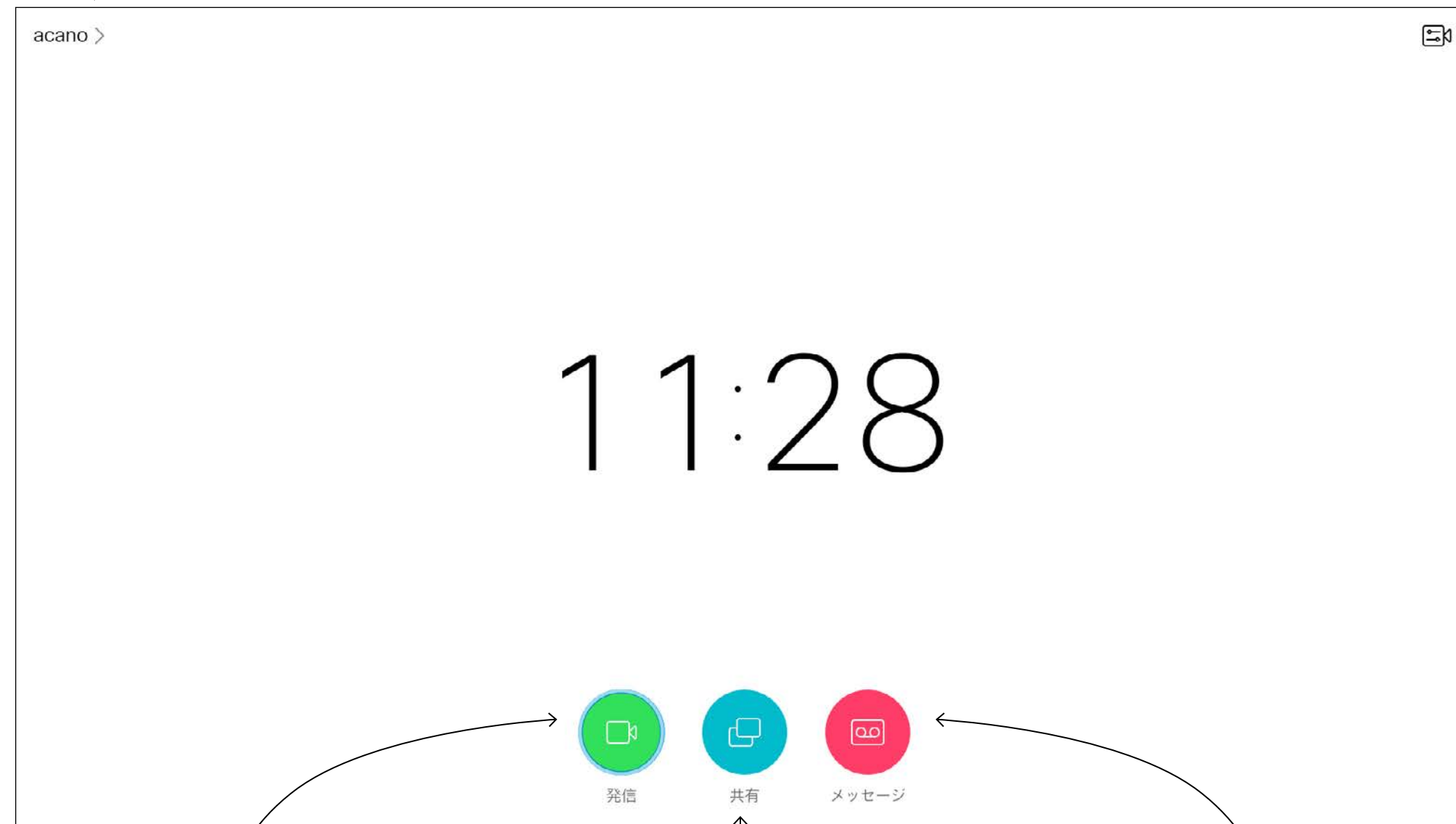
注: このユーザ ガイドで説明する機能の一部はオプションであるため、ご使用のシステムには存在しない場合があります。

ビデオ会議：概要



はじめに 画面の説明

画面の左上隅には、[スタンバイモード (Standby mode)], [システム情報 (System information)] および、[応答不可 (Do Not Disturb)] の各機能にアクセスできる [その他 (More)] アイコン (>) があります。



画面の右上隅には、[カメラ制御 (Camera Control)] メニューアイコンがあります。

ディスプレイ下部左側には [発信 (Call)] ボタンがあります。

ディスプレイ下部右側には [コンテンツ共有 (Share)] ボタンがあります。

システムにメッセージングシステムがある場合、ここからメッセージにアクセスできます。

操作のヒント

画面の中を移動するには、方向キーを使用します。選択したメニュー フィールドを開くには、OK/Enter を押します。

キャンセル キーを使用するとメニューを終了し(ホーム画面に戻ります)、変更内容を取り消します。戻るキーを使用して1つ前のステップに戻ります。

以降のページではリモート コントロール ボタンについて説明します。

インテリジェントプロキシミティ機能を使用すれば、手元のデバイスでワイヤレスにビデオ システムのコンテンツを共有、表示、キャプチャできます。またビデオ システムの通話を制御することもできます。ページの「[インテリジェントプロキシミティ](#)」21をご覧ください

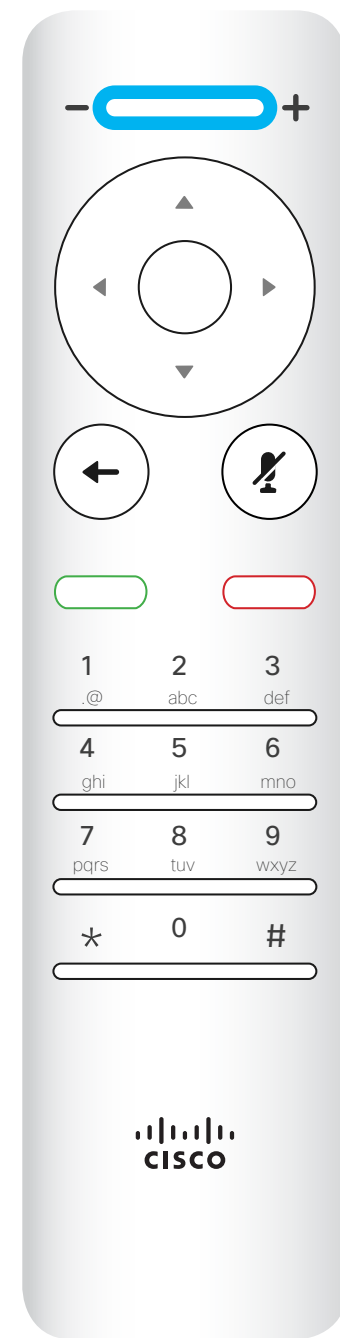
ヒント: [応答不可 (Do Not Disturb)] に設定すると、着信音はミュートになり、他者からの着信は不在着信として表示されます。ただし、こちらからは必要時にいつでも発信することができます。

デフォルトでは、応答不可には 60 分のタイムアウトがあります(この後、システムは通常動作に戻ります)が、ビデオ サポート チームによって異なる設定に変更されている場合があります。

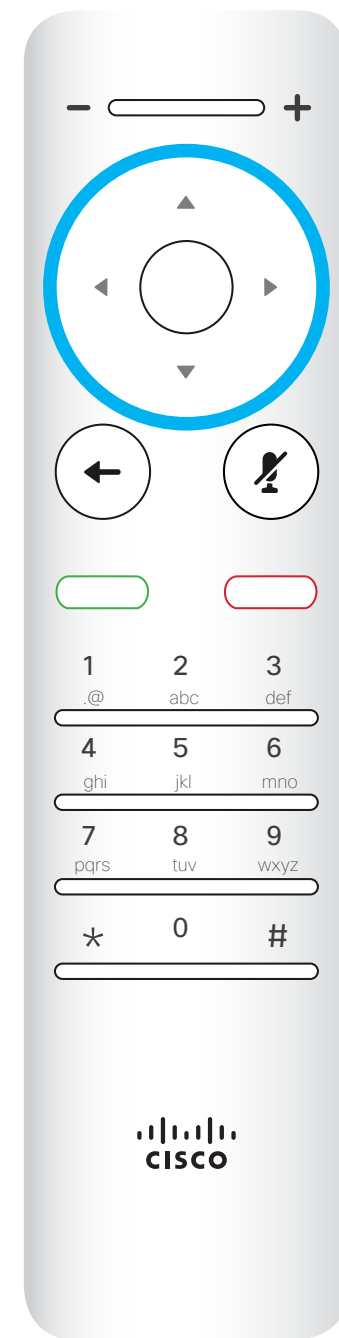
はじめに

リモート コントロールの説明 (I)

操作のヒント



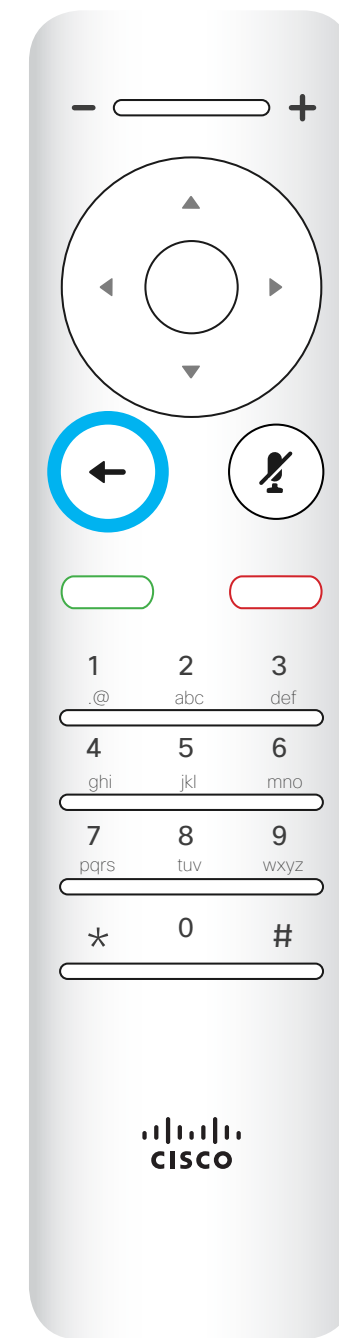
一番上のボタンの左側を押すと、音量下がります(減)。
一番上のボタンの右側を押すと、音量が上がります(増)。



フィールドの選択/方向キーを操作するには、円形フィールドの外周キーを使用します(左/右/上/下)。



OK/Enter は、中央の円形キーで実行されます。



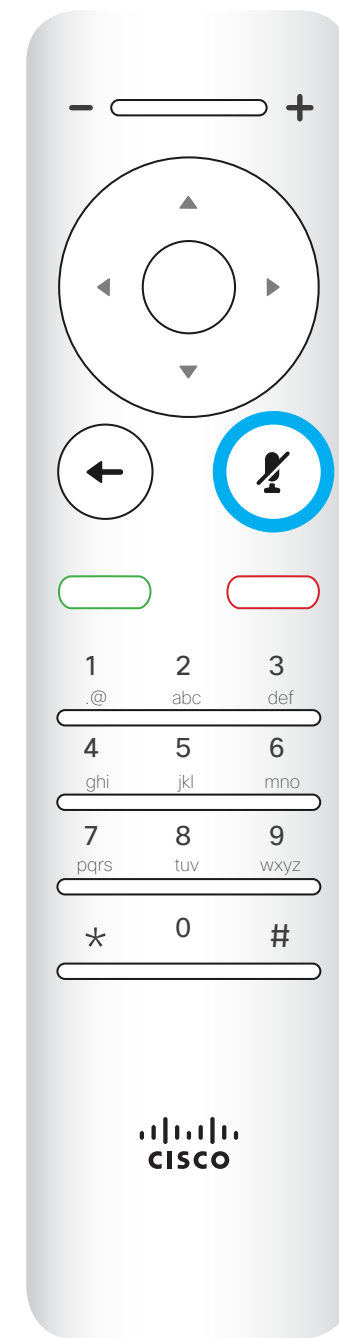
1 つ前のステップに戻るは、左の円形キーで実行されます。

画面の中を移動するには、方向キーを使用します。選択したメニュー フィールドを開くには、OK/Enter を押します。変更を実行せずにメニューを終了するには、キャンセル キーを使用します ([ホーム (Home)] 画面に戻ります)。戻るキーを使用して 1 つ前のステップに戻ります。|

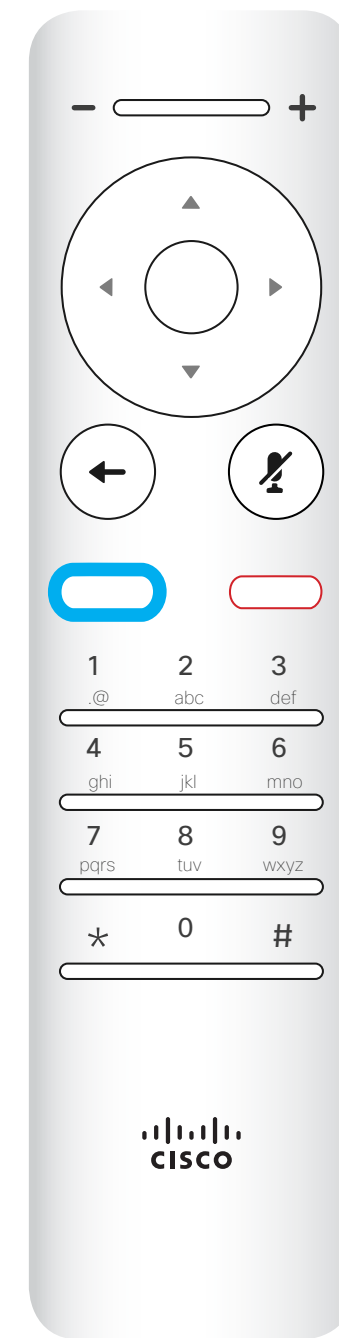
はじめに

リモート コントロールの説明 (II)

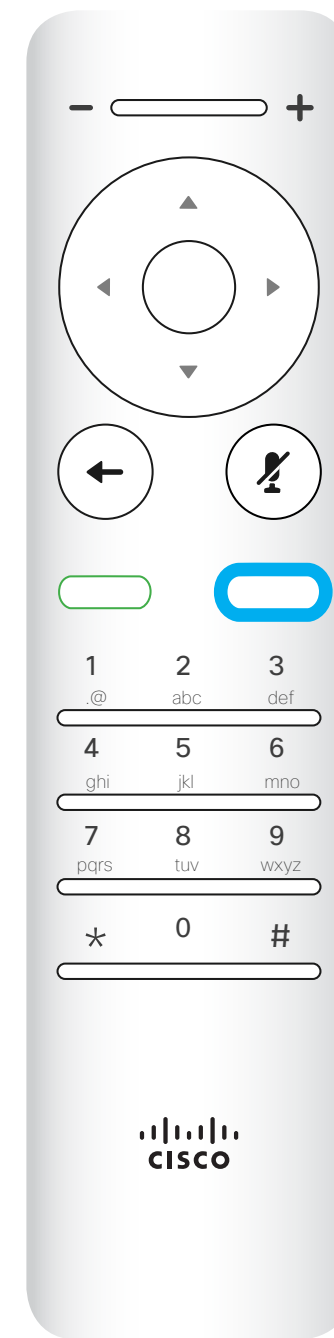
操作のヒント



マイクのミュート/ミュート解除は、右の円形キーで実行されます。



戻るの下キーは、緑色の発信/着信通話の許可ボタンです。



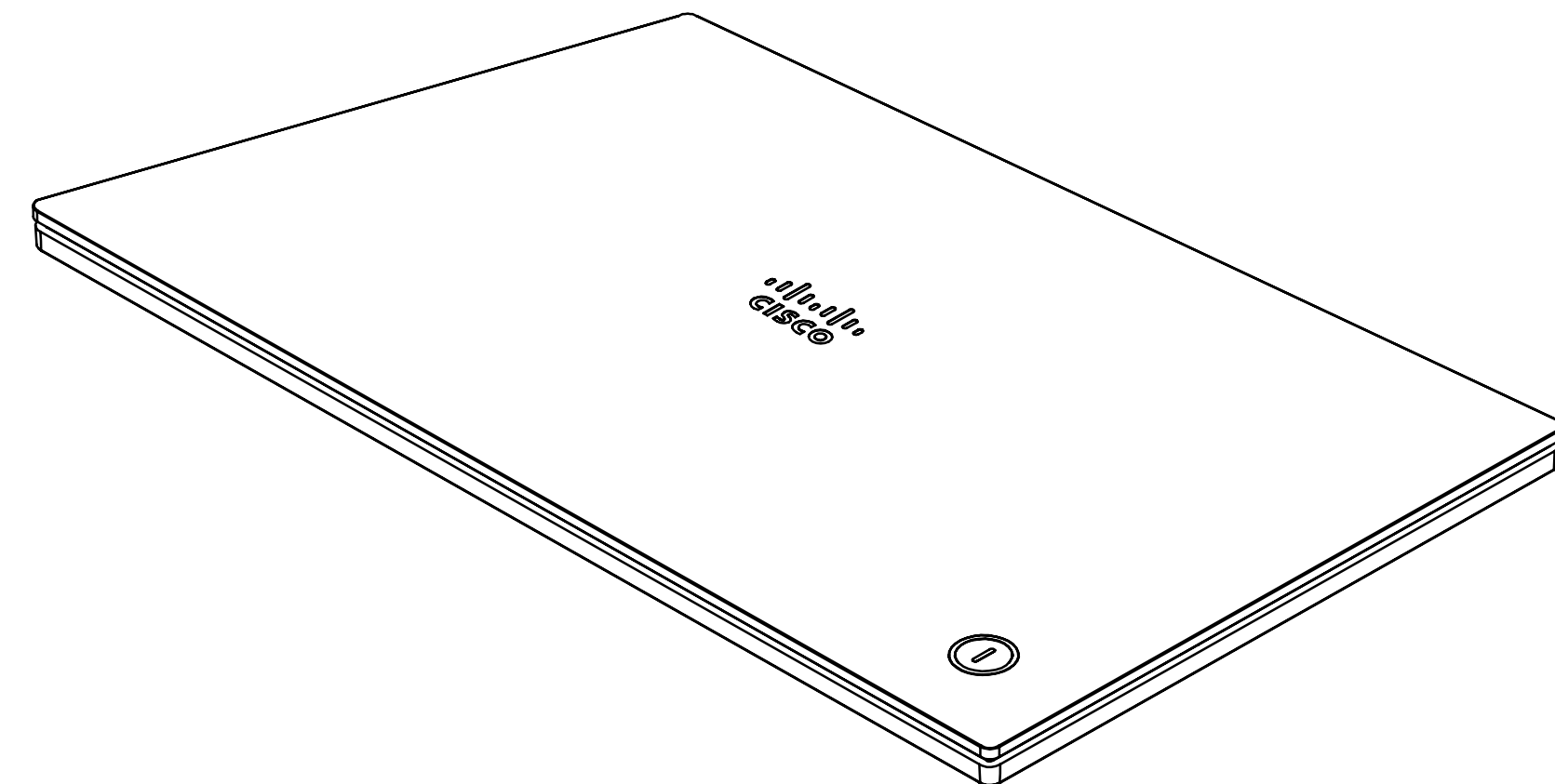
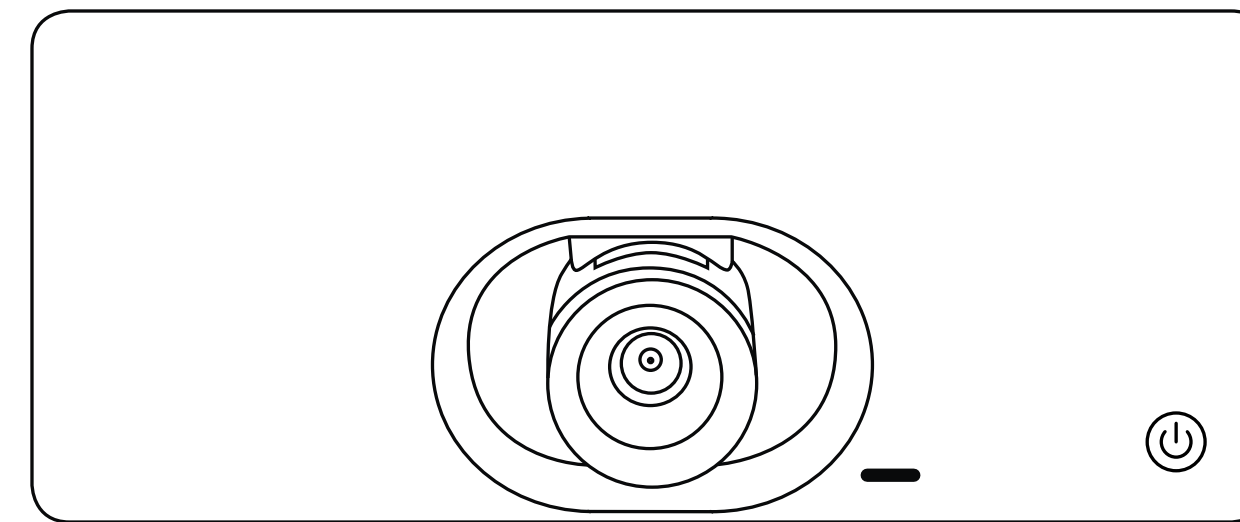
ミュート キーの下にあるキーは、着信拒否/通話終了 / キャンセル/ホーム画面に戻る (外部発信) ボタンです。



キーパッドは、電話をダイヤルするときや数字を入力するときに使用します。数字の 5 には突起があり、キーの位置がわかるようになっています。

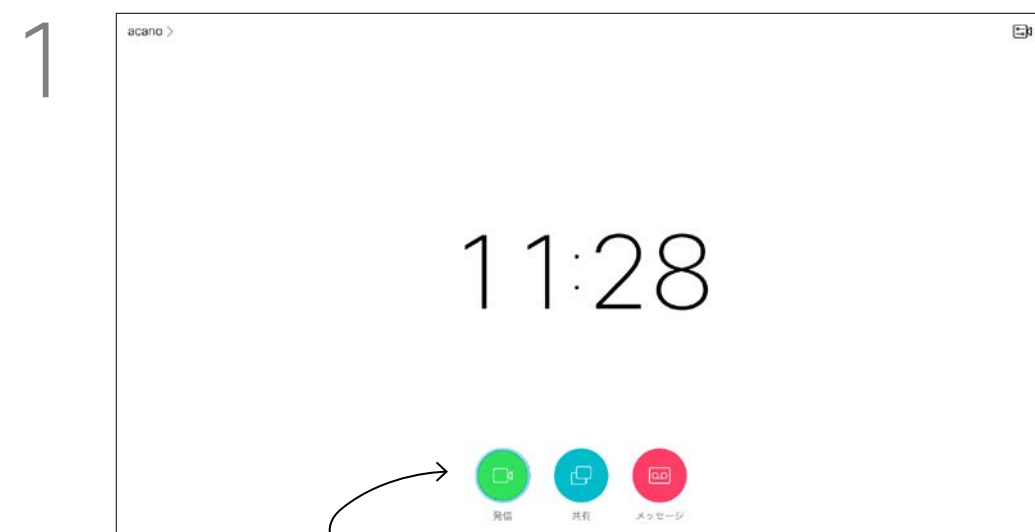
画面の中を移動するには、方向キーを使用します。選択したメニュー フィールドを開くには、OK/Enter を押します。変更を実行せずにメニューを終了するには、キャンセル キーを使用します ([ホーム (Home)] 画面に戻ります)。戻るキーを使用して 1 つ前のステップに戻ります。|

ビデオ コール

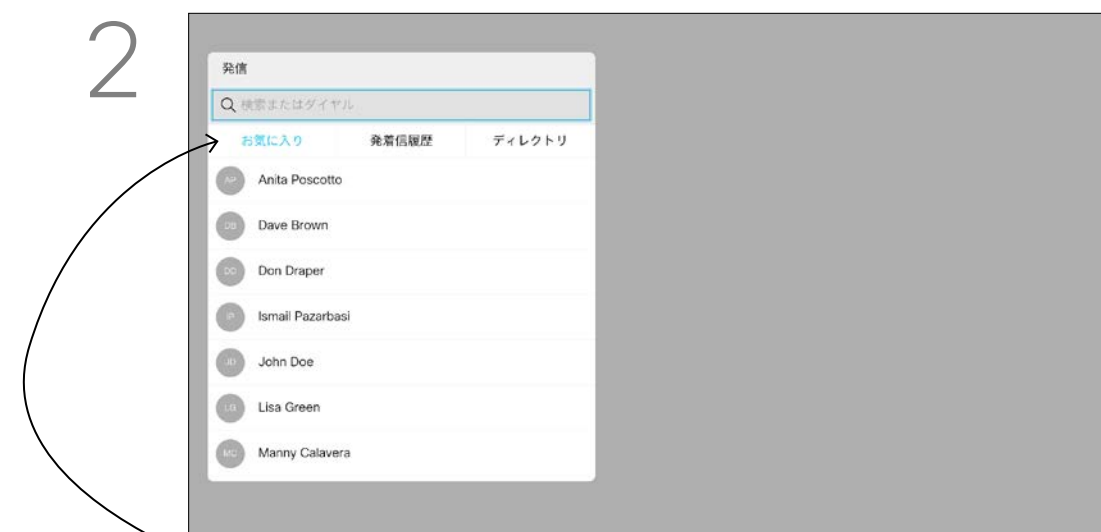


連絡先リストから電話をかける

連絡先リストについて



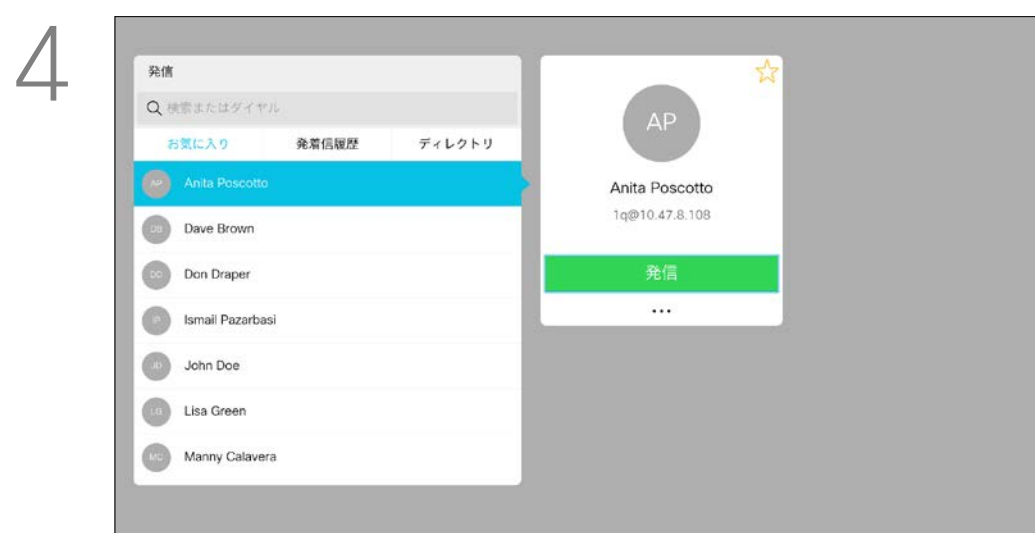
1 [発信 (Call)] (画面下部の一番左のアイコン) が選択され、リモートコントロールの OK が押されているか、またはリモートコントロールの緑色の発信ボタンが押されていることを確認します。



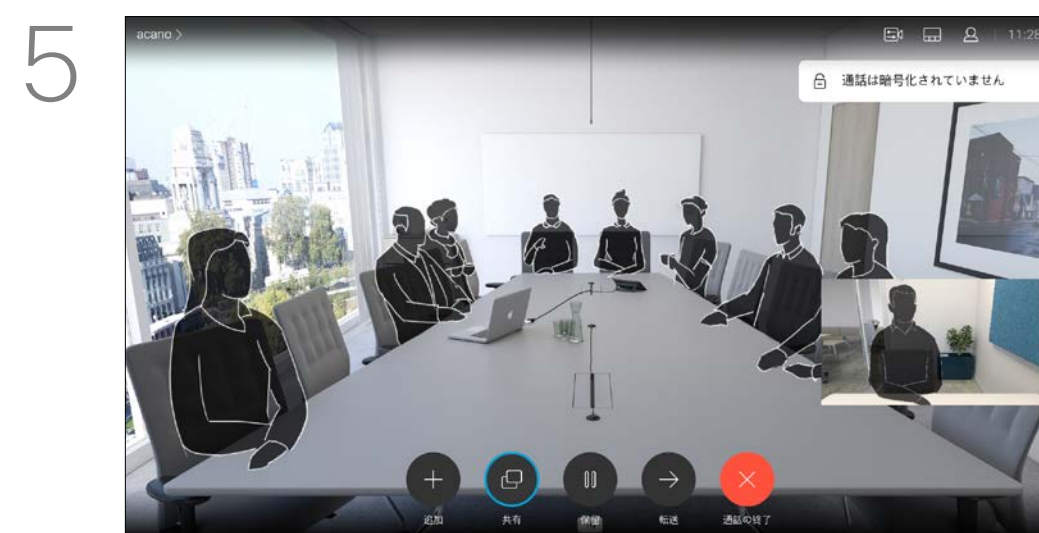
2 連絡先リストが表示されます。リモコンの方向キーを使用すると、[お気に入り (Favorites)]、[発着信履歴 (Recents)]、[ディレクトリ (Directory)] が切り替わり (横方向)、選択できます。



3 特定のエンタリが見つかったら、リモートコントロールの OK を押して、[発信 (Call)] メニューを開きます。



4 [コール] メニューで [OK] を押すか、またはリモコンで緑の [発信 (Call)] ボタンを押して通話を発信します。



5 リモコンの赤い通話終了ボタンを押すか、方向キーを使用して画面の [終了 (End)] を選択してから、OKを押して通話を終了します。

連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

お気に入りこれらの連絡先は、自分でお気に入りとして登録したものです。通常、頻繁に通話する連絡先や、素早く簡単にアクセスする必要がある連絡先を、お気に入りとして登録します。お気に入りは金色のアスタリスクで表示されます。

ディレクトリ (Directory) は通常、ビデオサポートチームがシステムにインストールした社内ディレクトリになります。

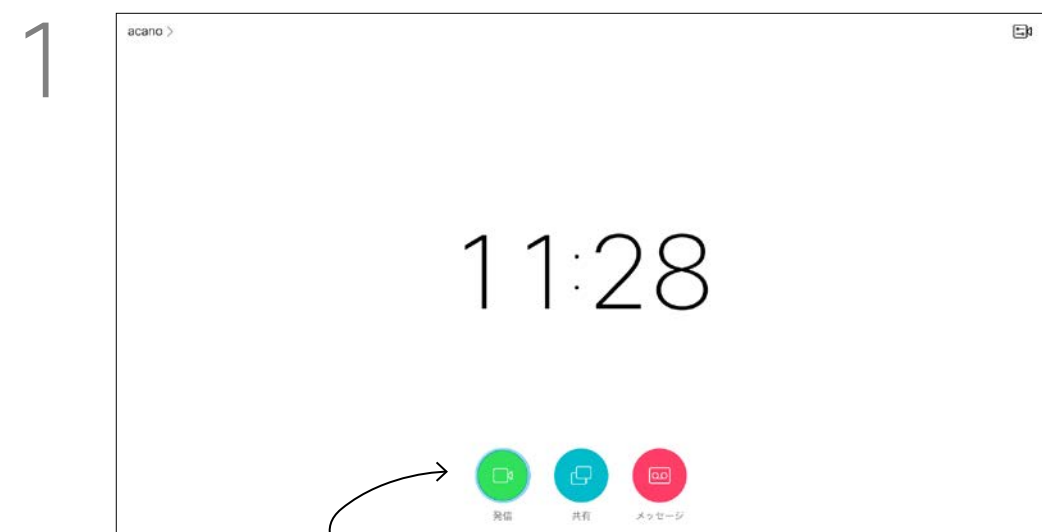
発着信履歴 (Recents) は、発信、受信、不在着信のリストです。

次のオプションが適用されます。

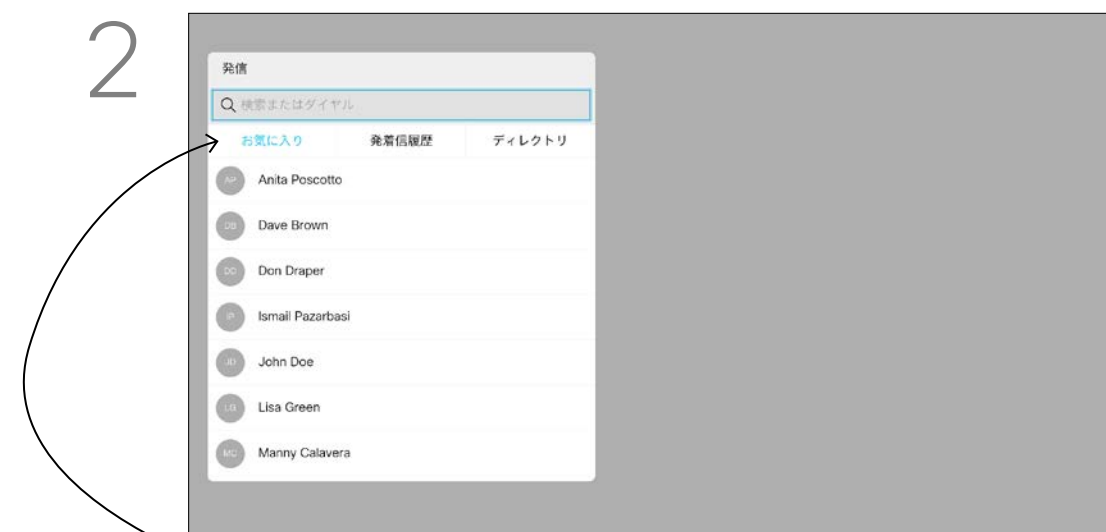
- ・ 名前、番号、または IP アドレスを入力すると、システムが自動的にすべてのリストを検索します。
- ・ タブをタップして、リストをスクロールしたり、名前や番号を入力したりできます。検索は、その特定のリストに制限されます。
- ・ [お気に入り (Favorites)] リストに追加したエンタリは、発信の前に編集したり、帯域 (通話に適用された帯域幅) を変更したりすることができます。

発信する前に連絡先を編集する

編集機能について



1 [発信 (Call)] (画面下部の一番左のアイコン) が選択され、リモートコントロールの OK が押されているか、またはリモートコントロールの緑色の発信ボタンが押されていることを確認します。



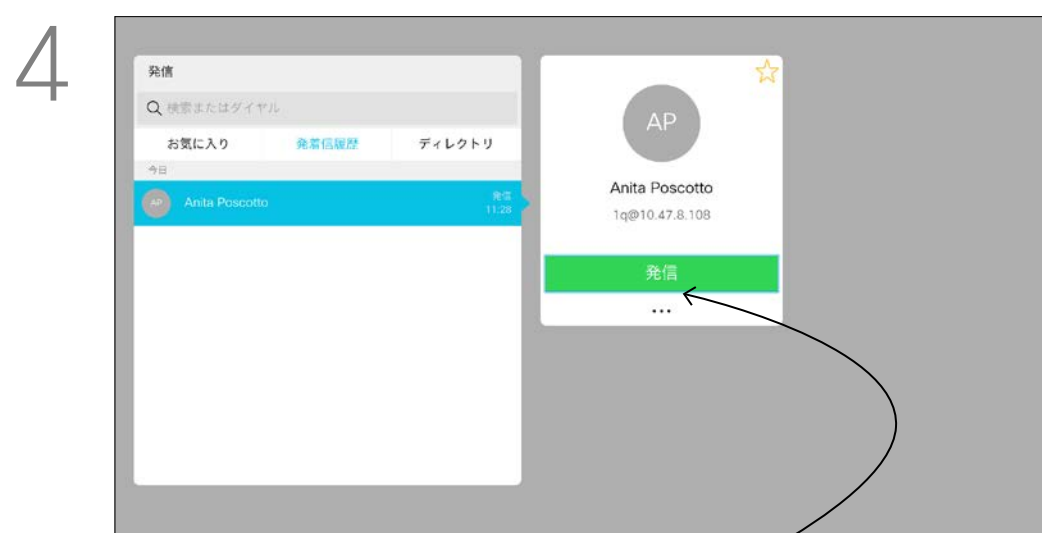
2 リモコンの方向キーを使用すると、[お気に入り (Favorites)]、[発信履歴 (Recents)]、[ディレクトリ (Directory)] を切り替え、いずれかのリストを選択できます。



3 特定のエンタリが見つかったら、リモートコントロールの OK を押して、[発信 (Call)] メニューを開きます。

連絡先リストの詳細については、前のページを参照してください。

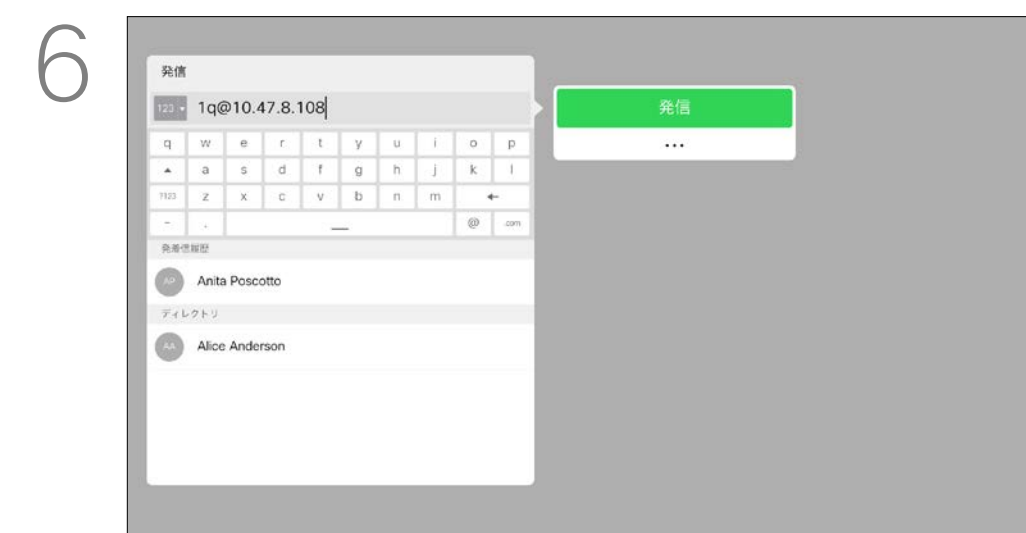
必要に応じて、リスト内の連絡先に発信する前に編集(プレフィックスやサフィックスを追加するなど)できます。



4 リモコンの方向キーを使用して、**その他フィールド (...)** を選択して OK を押します。



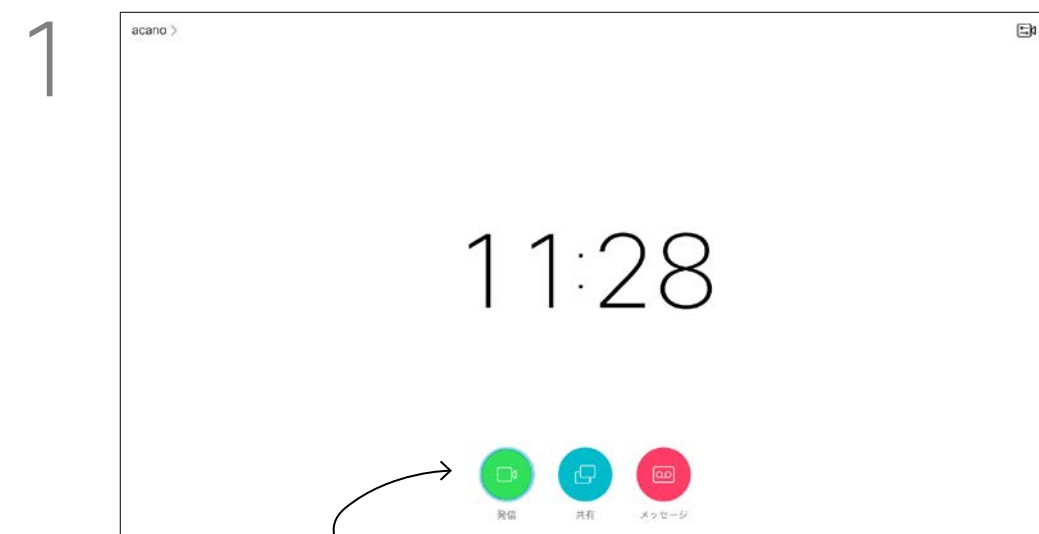
5 下の [編集して通話 (Edit and Call)] に移動し (その他メニューの中央のフィールド)、OK を押します。



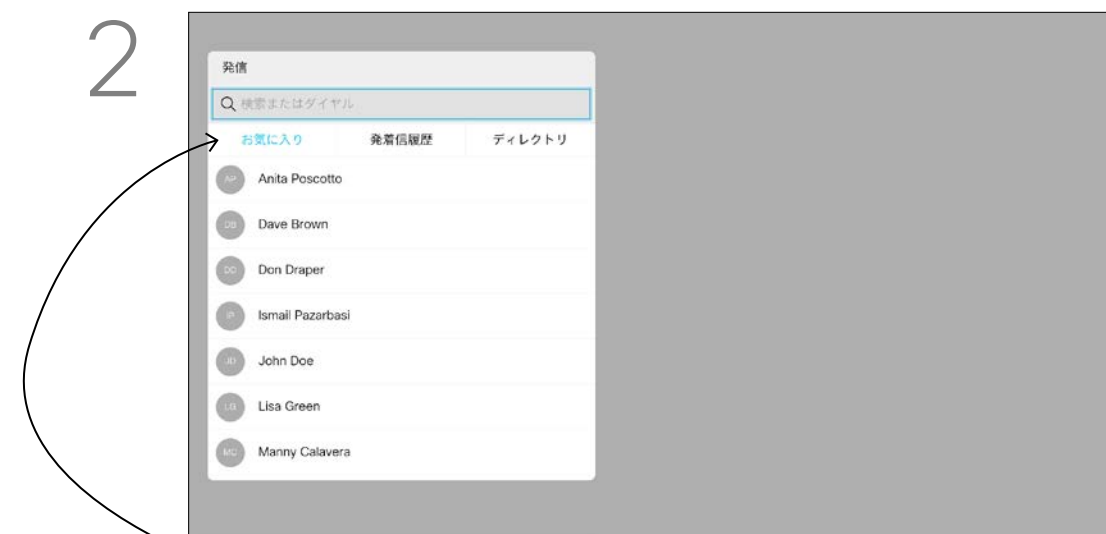
6 必要に応じてエンタリを編集した後、リモートコントロールの緑色の発信ボタンを押して発信します。

帯域を編集して発信する

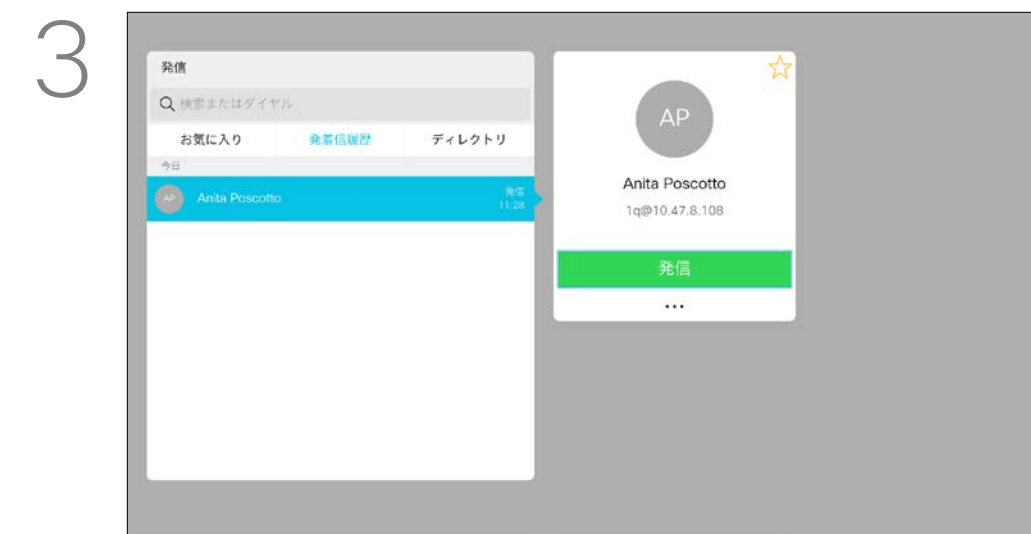
帯域について



1 [発信 (Call)] (画面下部の一番左のアイコン) が選択され、リモートコントロールの OK が押されているか、またはリモートコントロールの緑色の発信ボタンが押されていることを確認します。



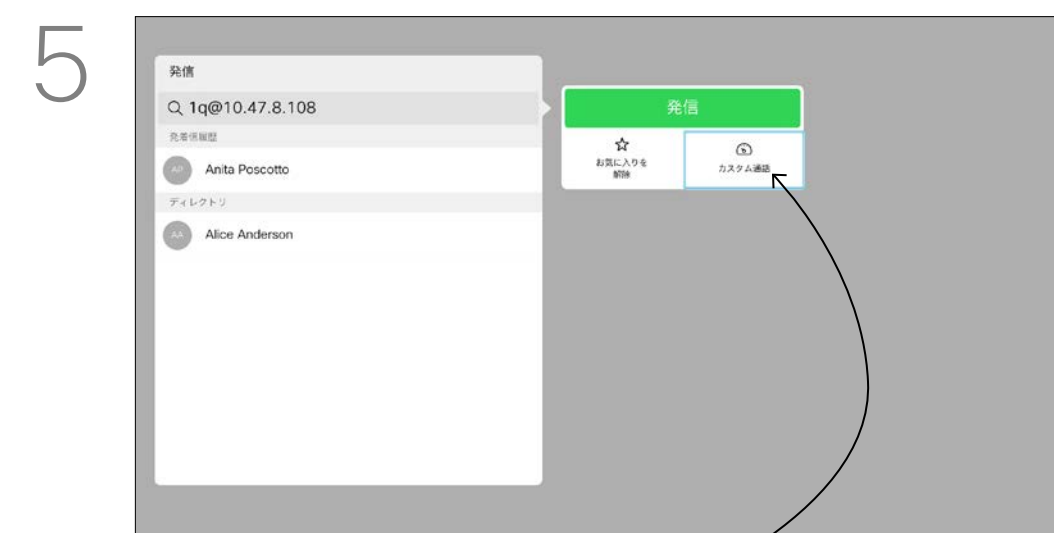
2 リモコンの方向キーを使用すると、[お気に入り (Favorites)]、[発信履歴 (Recents)]、[ディレクトリ (Directory)] を切り替え、いずれかのリストを選択できます。



3 特定のエンタリが見つかったら、リモートコントロールの OK を押して、[発信 (Call)] メニューを開きます。



4 リモコンの方向キーを使用して、**その他フィールド (...)** を選択して OK を押します。



5 下の [カスタム発信 (Custom call)] に移動し、OK を押します。



6 必要に応じて方向キーを使用し、リモコンの緑色の発信ボタンを押して発信します。

「帯域」とは、通話に割り当てられている帯域幅を示すために使われる用語です。これは kbps(キロビット/秒)で測定されます。

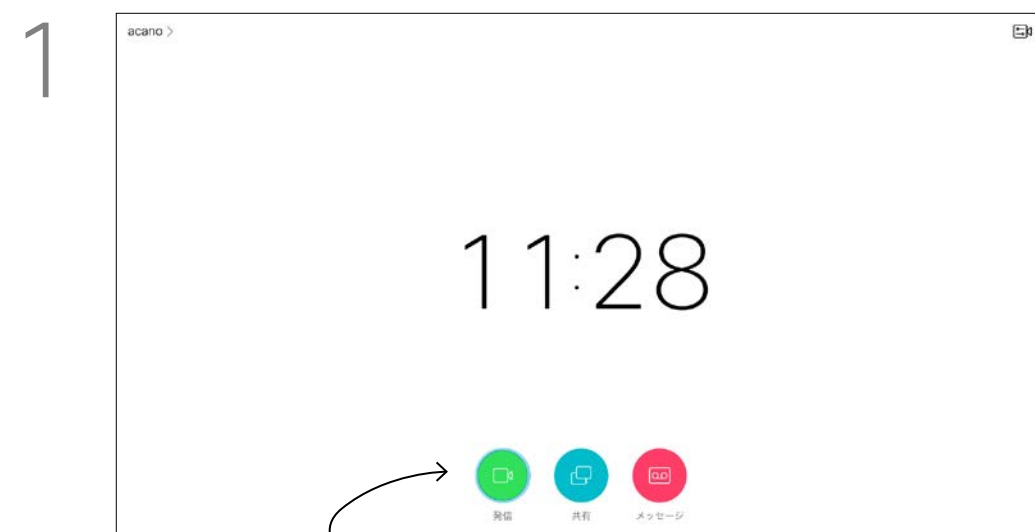
帯域を高くするほど音質がよくなりますが、帯域幅使用量の料金も高くなります。システムにはデフォルトの帯域が用意されています。これは通常ビデオ サポート チームが設定します。通常の条件では、帯域は必要に応じてシステムによって自動的に調整されます。この調整は、システムと接続がサポートしている帯域よりも大きい帯域で誰かと通話しようとするときにビデオ通話のチョークを避けるために行われます。

何らかの理由によって、自動帯域設定に失敗した場合、最終手段として手動で調整することも可能です。

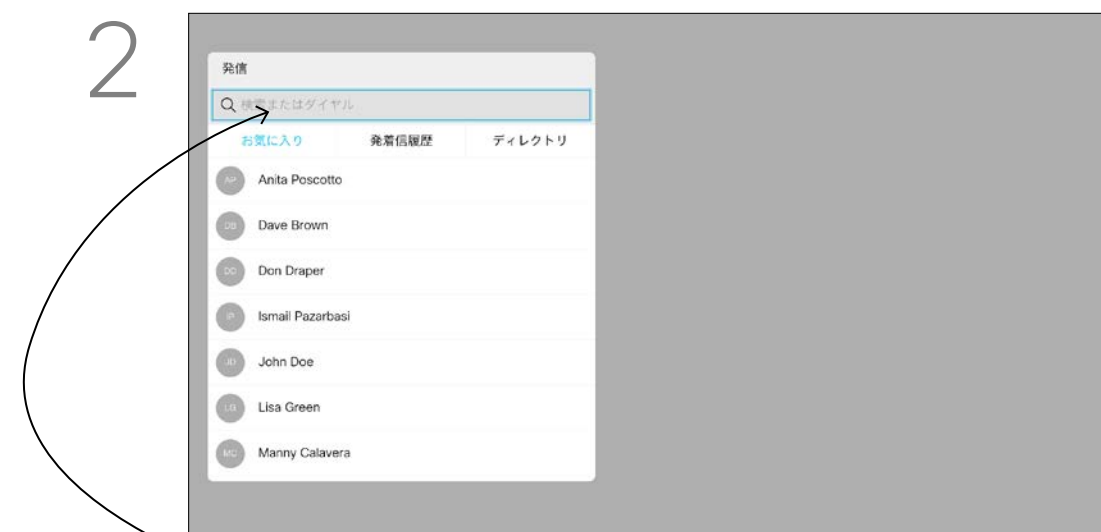
通話中に帯域を変更することはできませんが、左で示されているとおり、発信の直前に変更することはできます。

名前、電話番号、または IP アドレスを使用して発信する

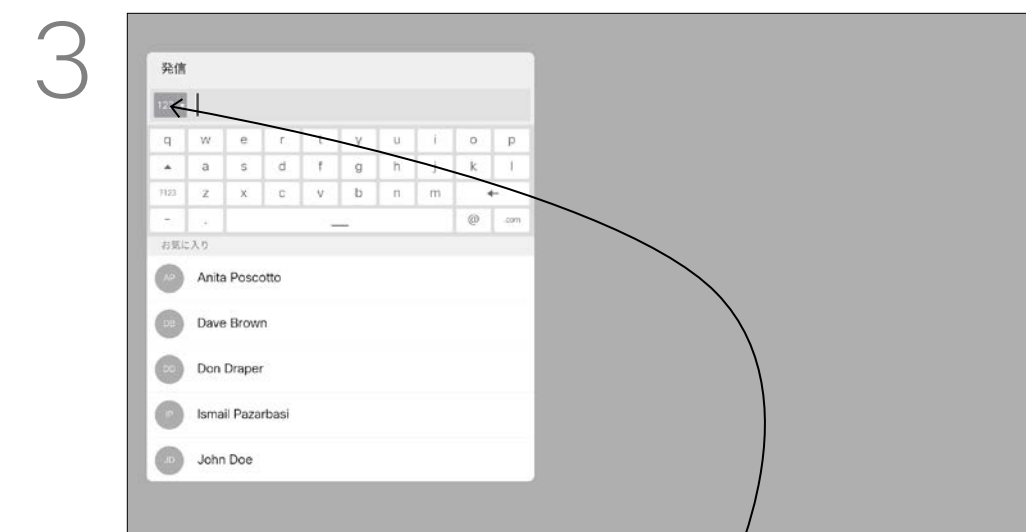
発信について



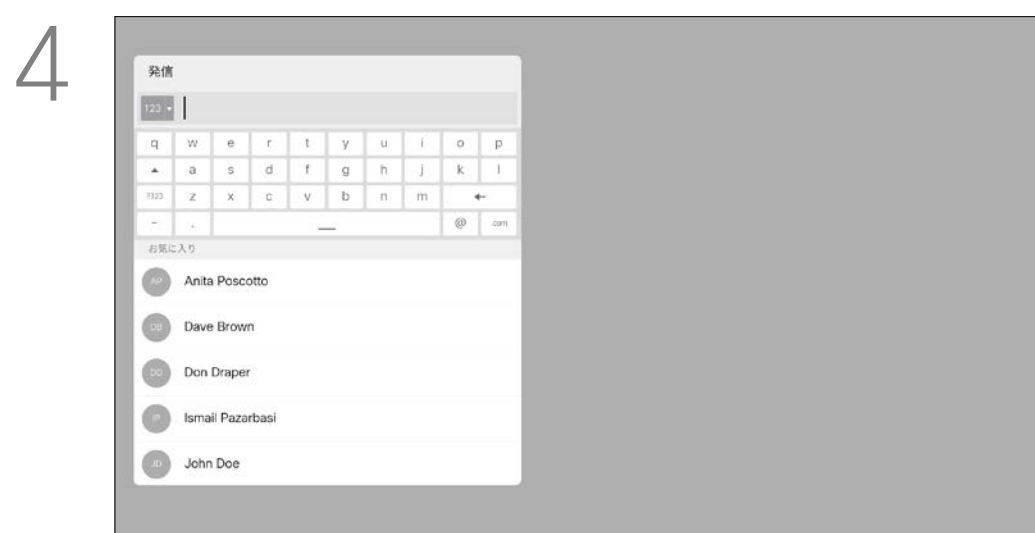
1 [発信 (Call)] (画面下部の一番左のアイコン) が選択され、リモートコントロールの OK が押されているか、またはリモートコントロールの緑色の発信ボタンが押されていることを確認します。



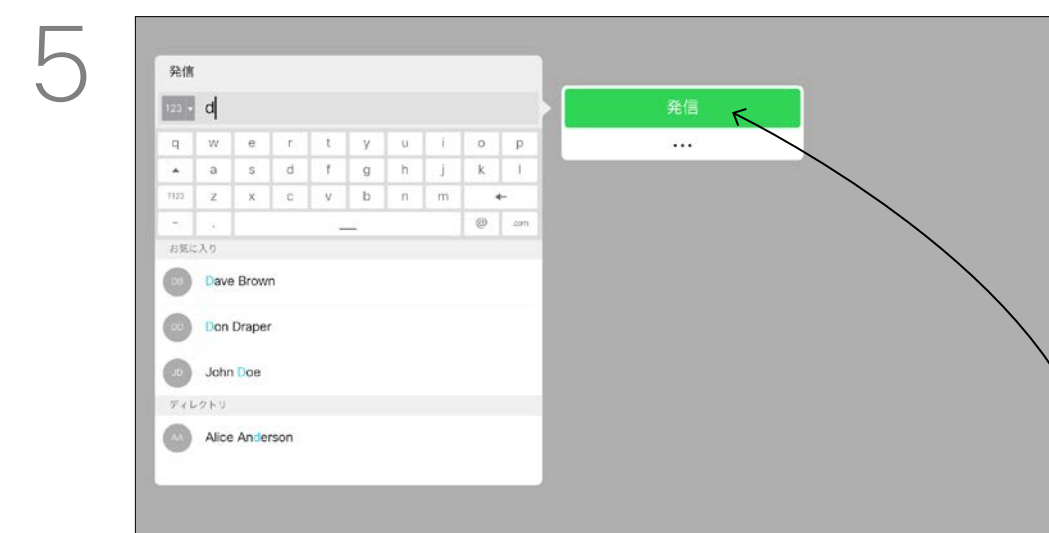
2 方向キーを使用して、メニューの一番上にある [検索またはダイヤル (Search or Dial)] フィールドに移動します。[OK] を押します。



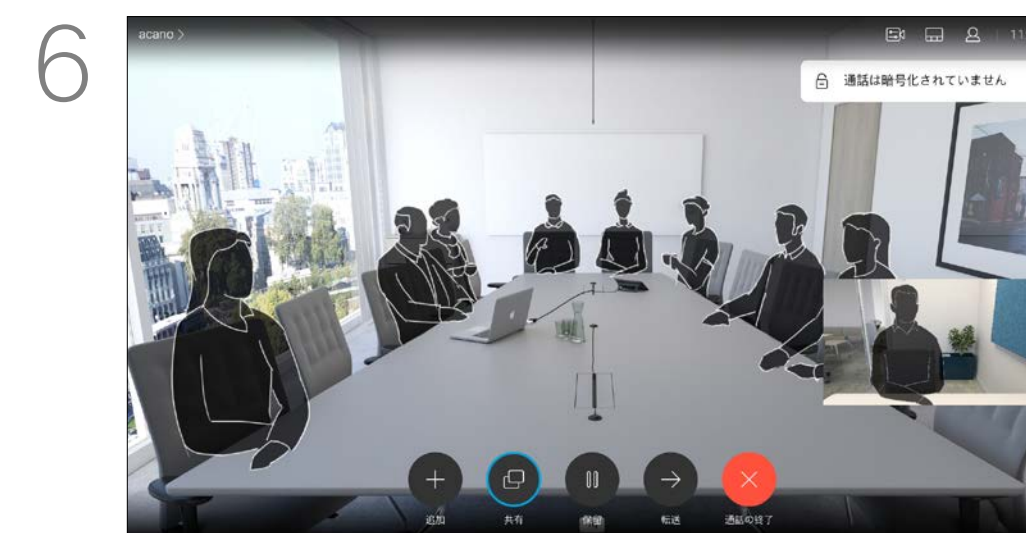
3 123 を選択して番号を入力します。



4 仮想キーボードを使用するには、キーボードに移動して文字を選択します。OK を押して、文字を選択します。



5 次に、リモコンの緑色の発信ボタンを押して発信します。また、発信アイコンに移動し、[OK]を押す方法でも発信できます。



6 リモートコントロール赤い通話終了ボタンを押すか、方向キーを使用して [通話終了 (End Call)] を選択し、OKを押して通話を終了します。

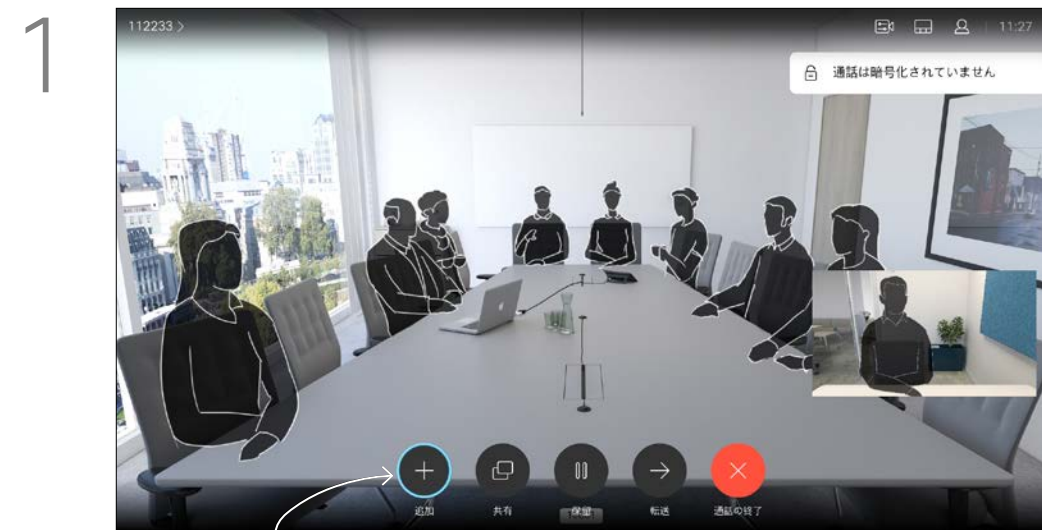
連絡先リストに載っていない相手に発信するには、仮想キーボードを使用して名前、アドレス、または番号を入力します。これまでのすべての発信先が [発信履歴 (Recents)] リストに表示されます。これらの発信先は [お気に入り (Favorites)] リストに転送できます。これについては、「連絡先」で説明しています。

ビデオ アドレスを使用した発信

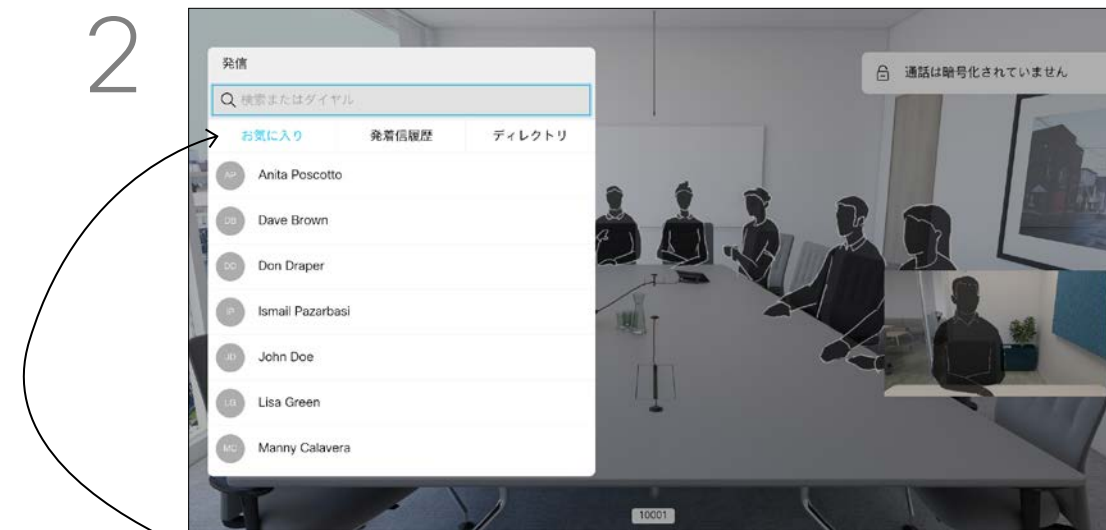
IP タイプのビデオ アドレスを使用する場合も、発信手順は同様です。アドレスを入力し、*(リモートコントロールの左下隅にあるアスタリスク ボタン)をセパレータとして使用します。システムは、これを有効な IP アドレスのセパレータとして解釈し、入力したとおりに正しくビデオ アドレスが表示されます。

既存の通話に参加者をさらに追加する

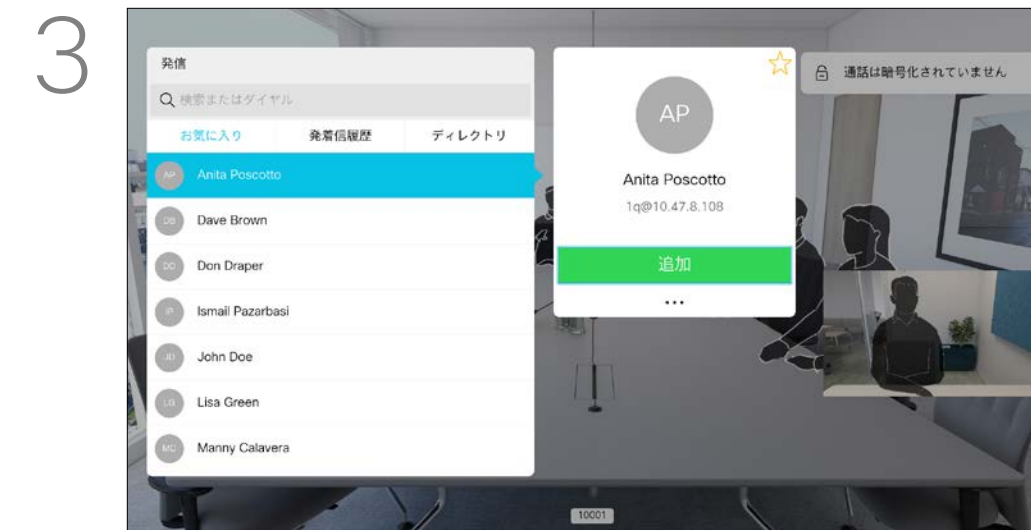
ビデオ会議について



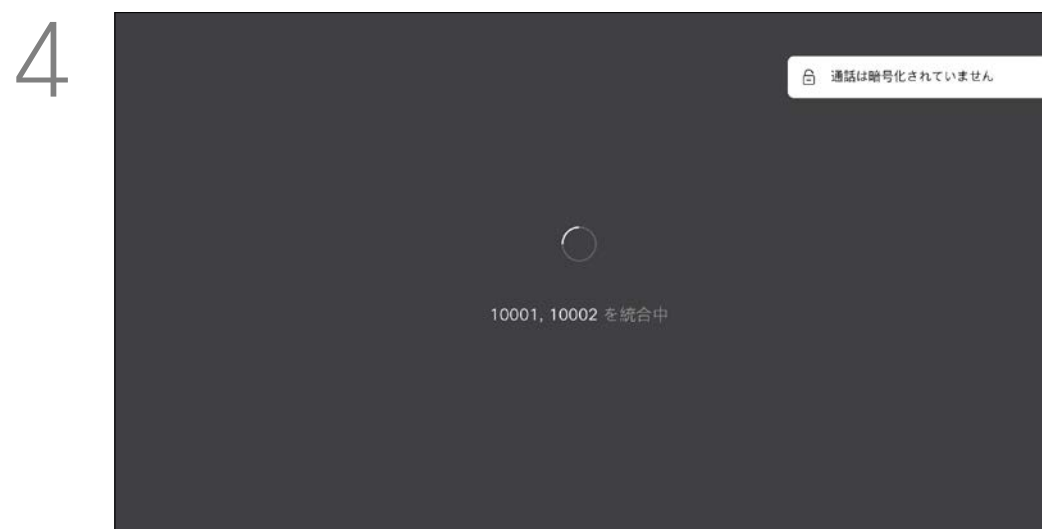
1 通話中に [追加(Add)] に移動し、リモコンの OK を押します。現在の通話が保留になります。



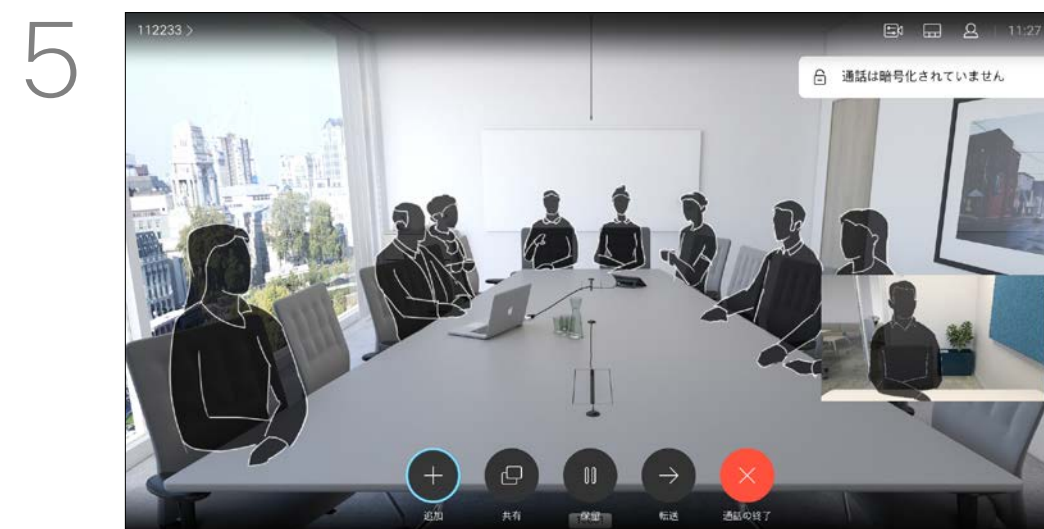
2 いつもと同じ方法で、追加する参加者を探します。[OK] を押します。



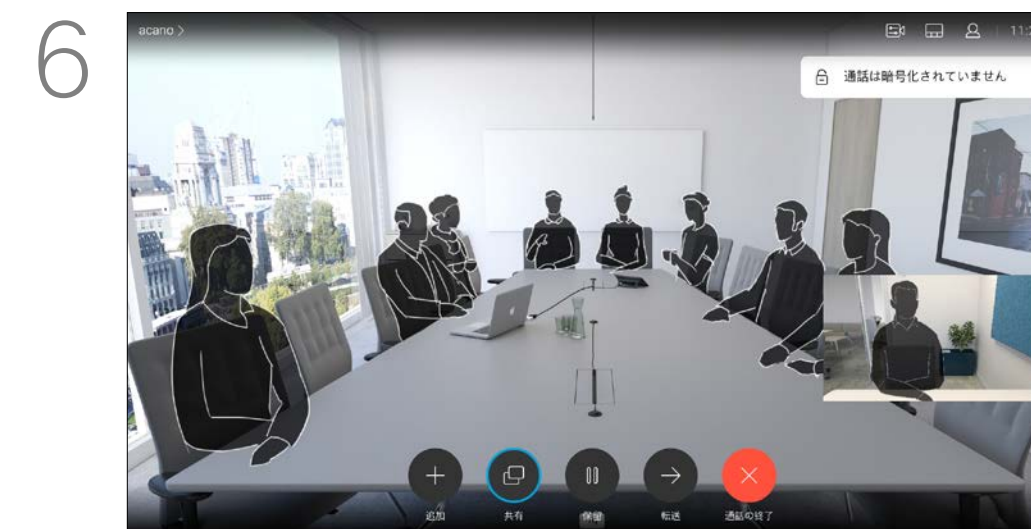
3 [追加(Add)] に移動し、OK を押して通話を会議に追加します。



4 通話がマージ(合流)します。



5 必要に応じて手順を繰り返し、参加者を追加します。



6 リモートコントロール赤い通話終了ボタンを押すか、方向キーを使用して[通話終了(End Call)]を選択し、OKを押して通話を終了します。

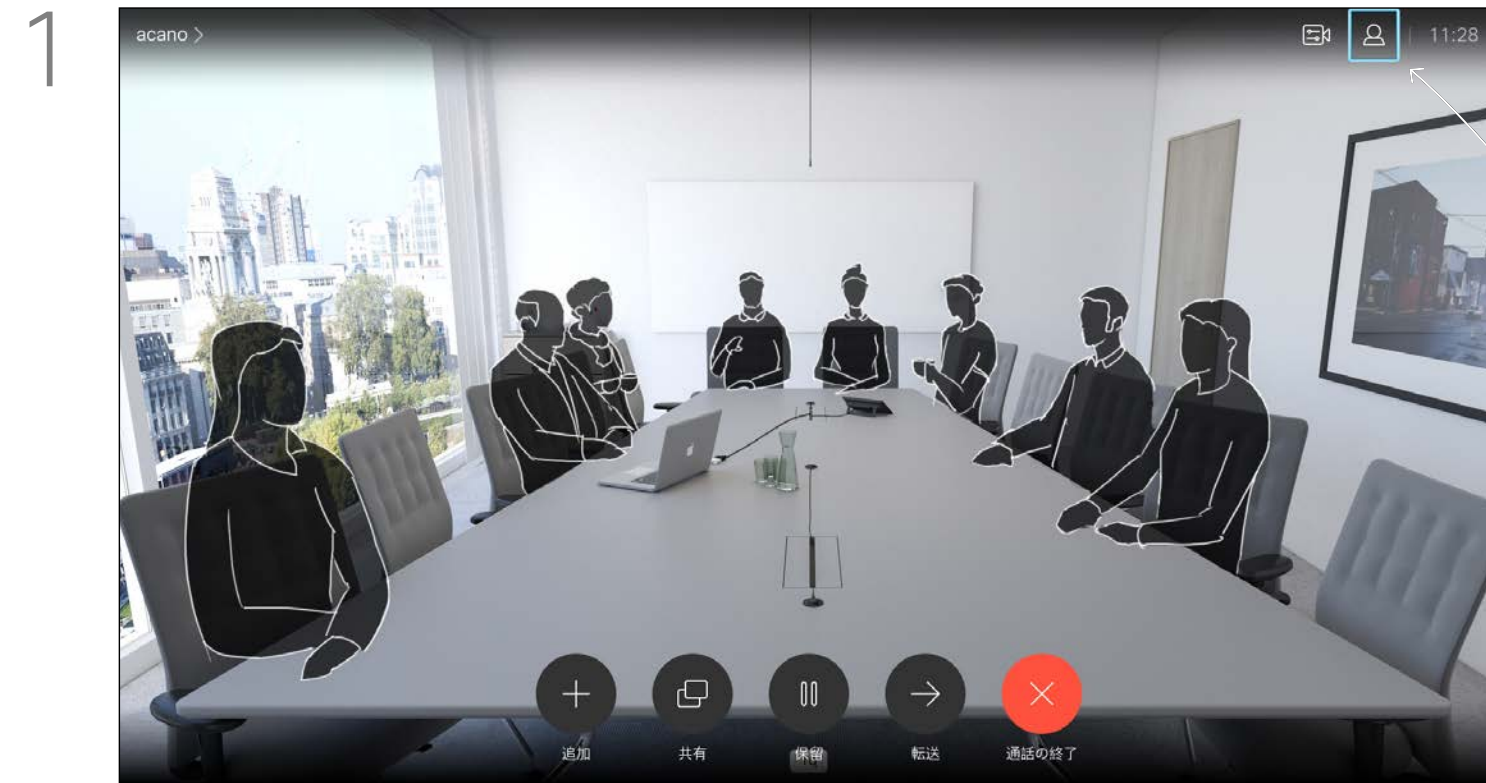
お使いのビデオ システム ネットワークが、参加者が複数いるビデオ会議を開始する機能をサポートしている必要があります。

ビデオ システムでサポートされる参加者の最大人数は、システム設定およびビデオ インフラストラクチャによって決まります。これを確認するには、ビデオ サポート チームへ問い合わせてください。ビデオ会議を開始する場合は、参加者に一人ずつコールする必要があります。会議を開始した参加者は、会議全体を終了することができます。他の参加者は、会議から自分の接続のみを切断できます。

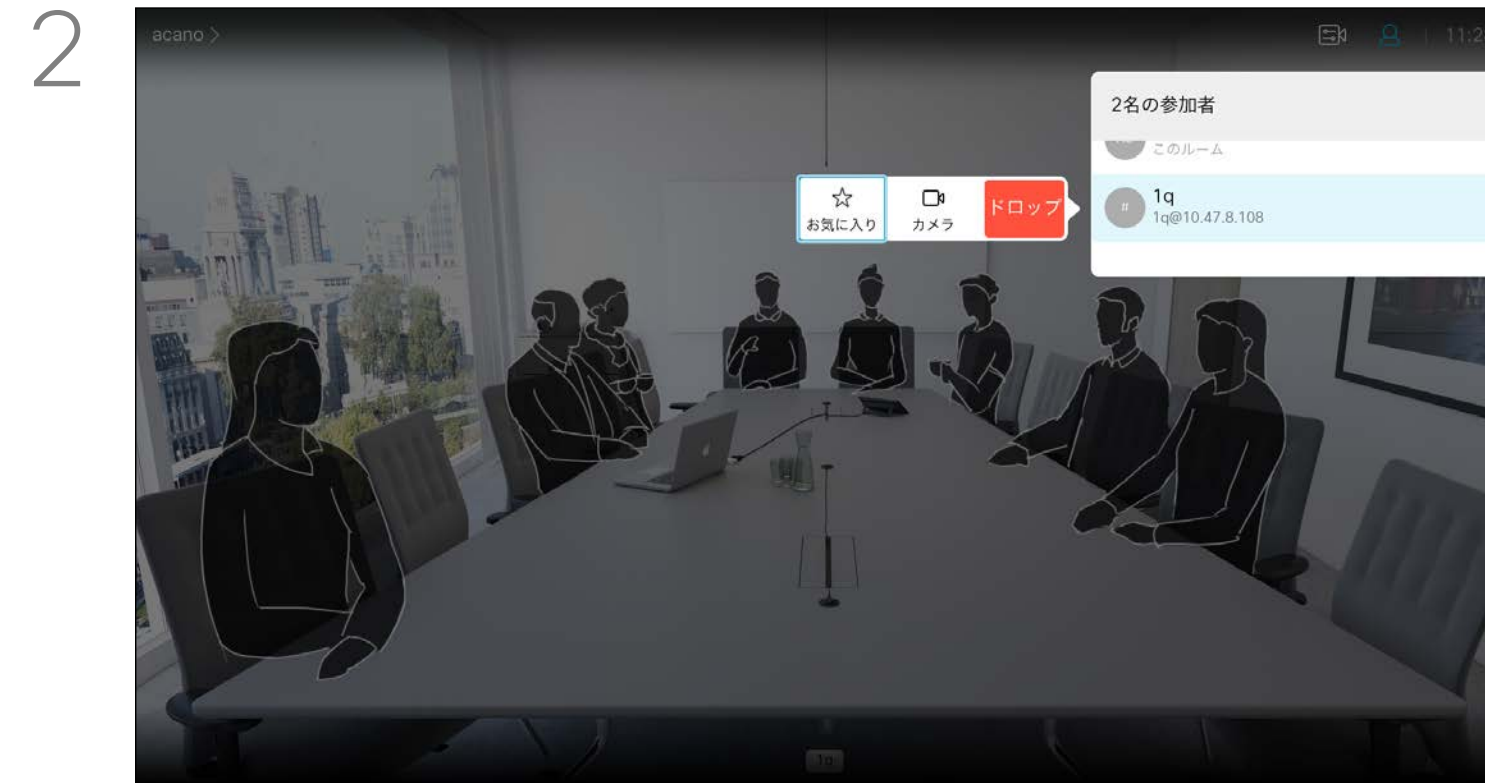
会議から参加者を切断する

ビデオ会議について

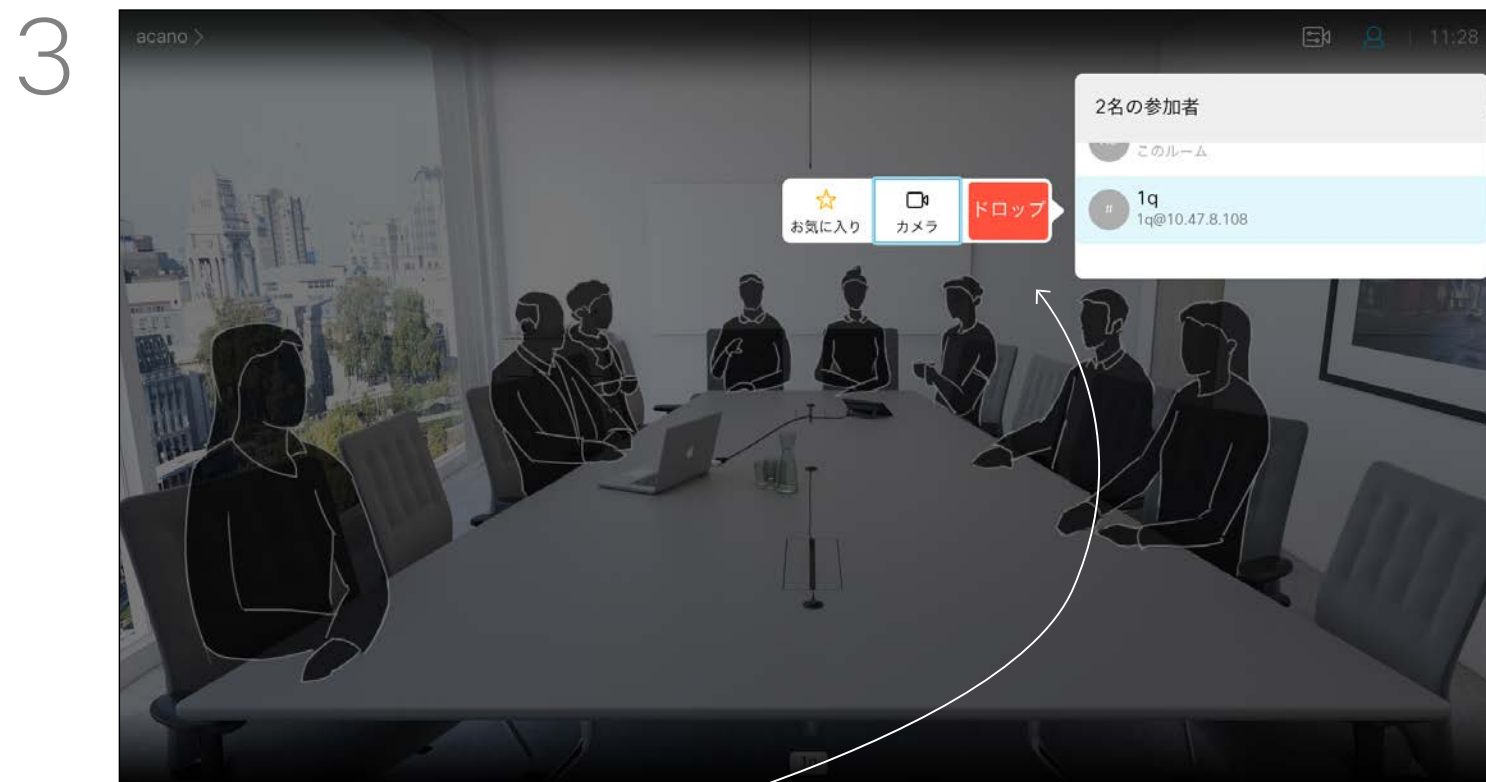
ビデオシステムからビデオ会議を実行する機能はオプションであるため、システムによっては使用できない場合があります。



通話中に、図のように右上隅の参加者アイコンをタップし、OK を押して参加者リストを呼び出します。



会議から退出させる参加者のところまで下に移動し、OK を押します。

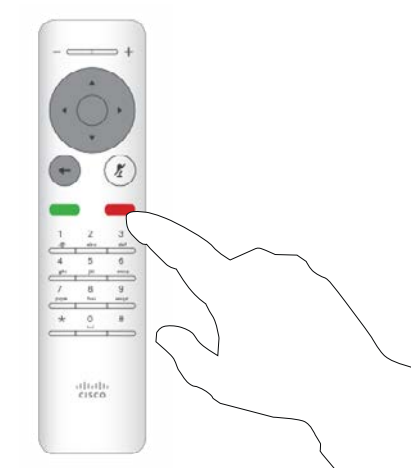
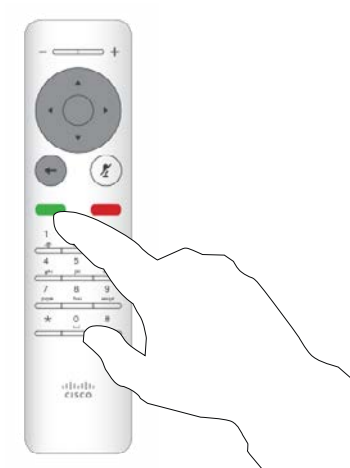
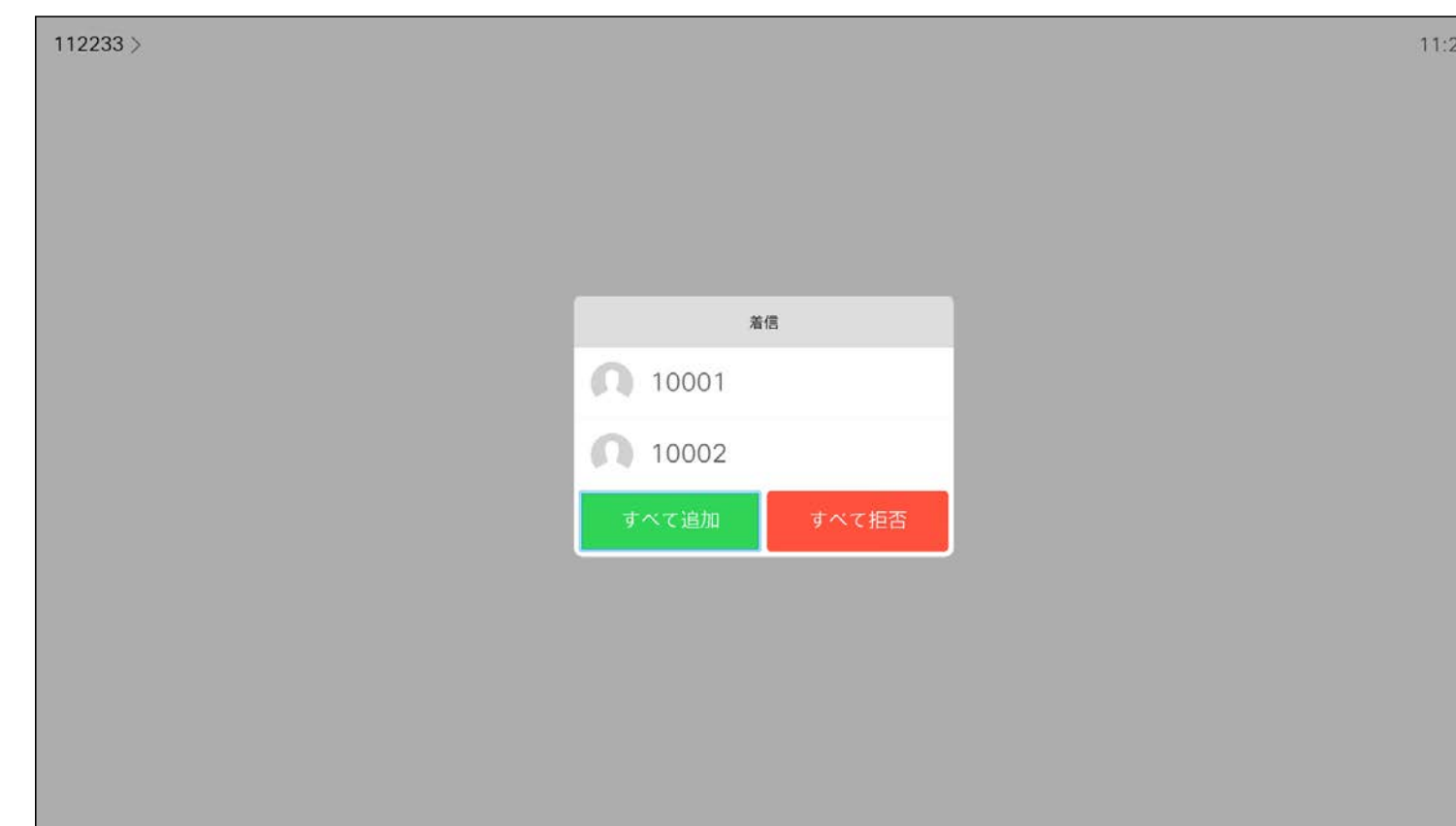
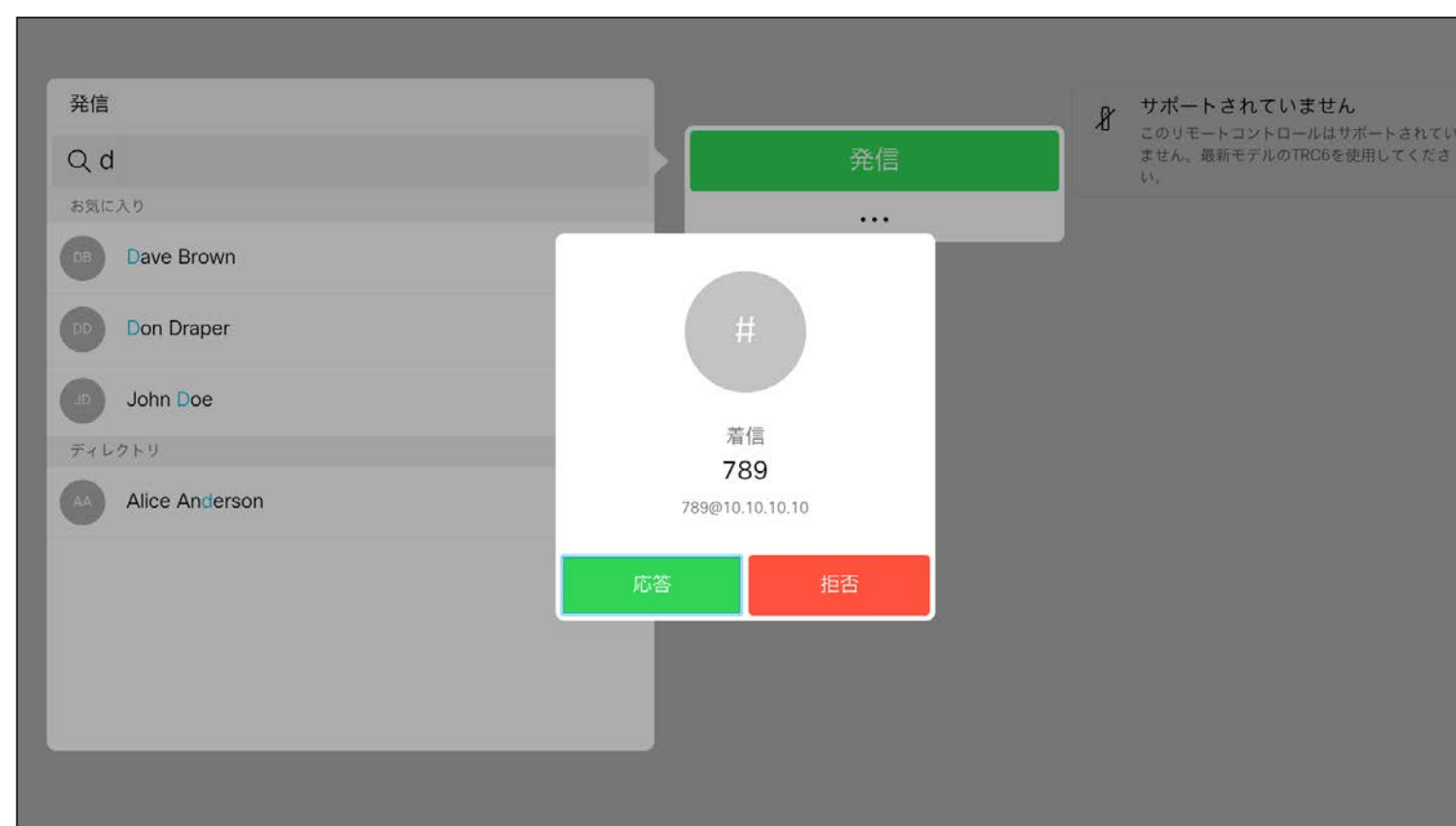


[退出(Drop)]に移動して OK を押します。

着信

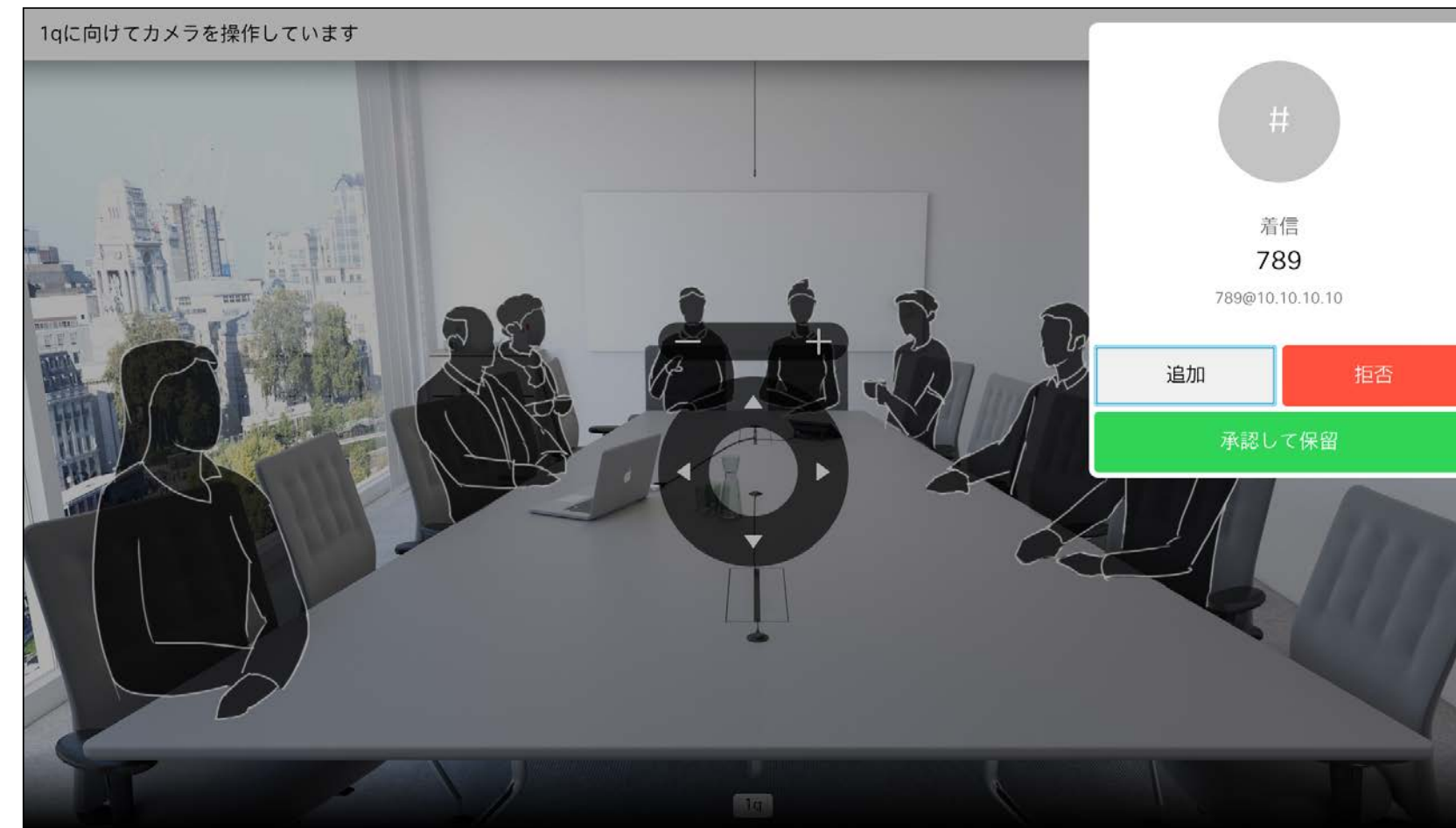
着信があった場合

- ・ 着信があった場合は、通話を許可、拒否、または無視できます。
- ・ 通話を拒否した場合、ビジーであるという情報が発信者に送信されます。
- ・ 通話を無視した場合、発信者は相手が存在しない(相手がコールをピックアップしなかった)と認識します。
- ・ ビデオ インフラストラクチャによっては、複数の着信コールを受信できます。必要に応じて、貴社のビデオサポートチームにお問い合わせください。



リモコンの円形ボタンの下にある**発信**キーを直接使用することもできます(緑色の左のキーは通話の許可、赤色の右のキーは拒否)。

通話中に追加の着信を受ける

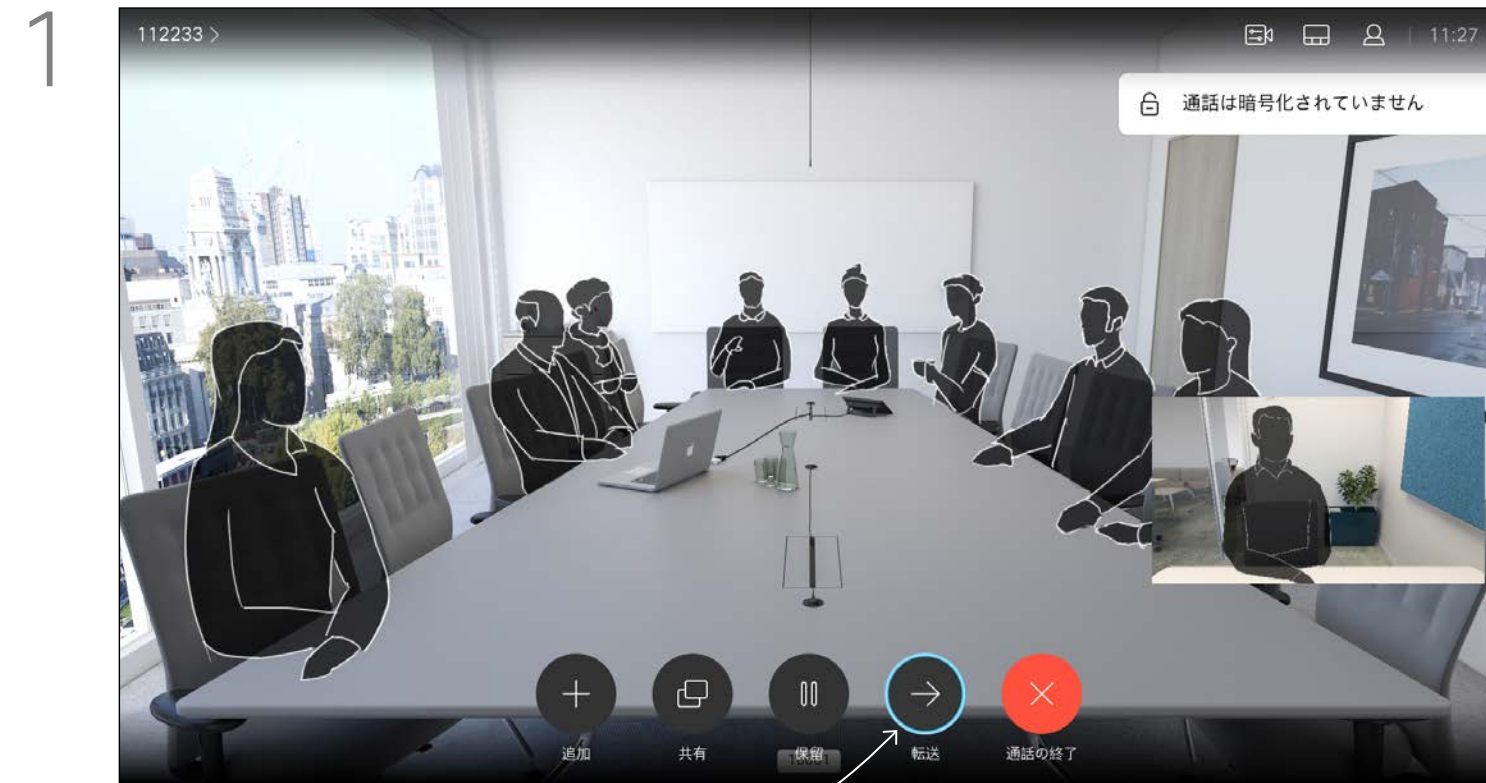


通話中に着信があった場合には、通話を拒否、発信者を現在の通話に追加、または現在の通話を保留にして応答することができます。

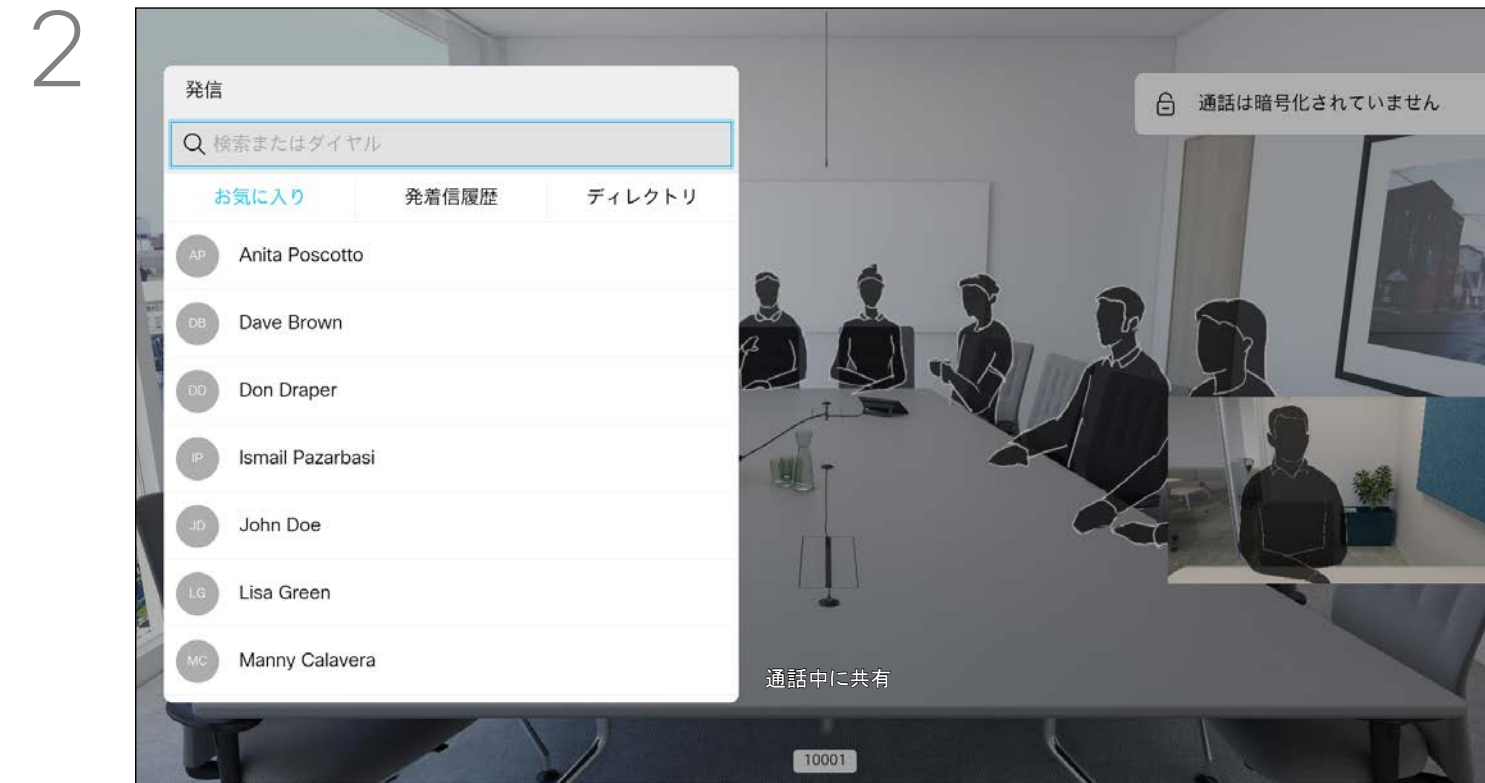
通話の拡張

- ・ 着信があった場合は、通話を許可、拒否、または無視できます。
- ・ 通話を拒否した場合、ビジーであるという情報が発信者に送信されます。
- ・ 通話を無視した場合、発信者は相手が存在しない(相手がコールをピックアップしなかった)と認識します。
- ・ ビデオ インフラストラクチャによっては、複数の着信コールを受信できます。必要に応じて、貴社のビデオサポートチームにお問い合わせください。

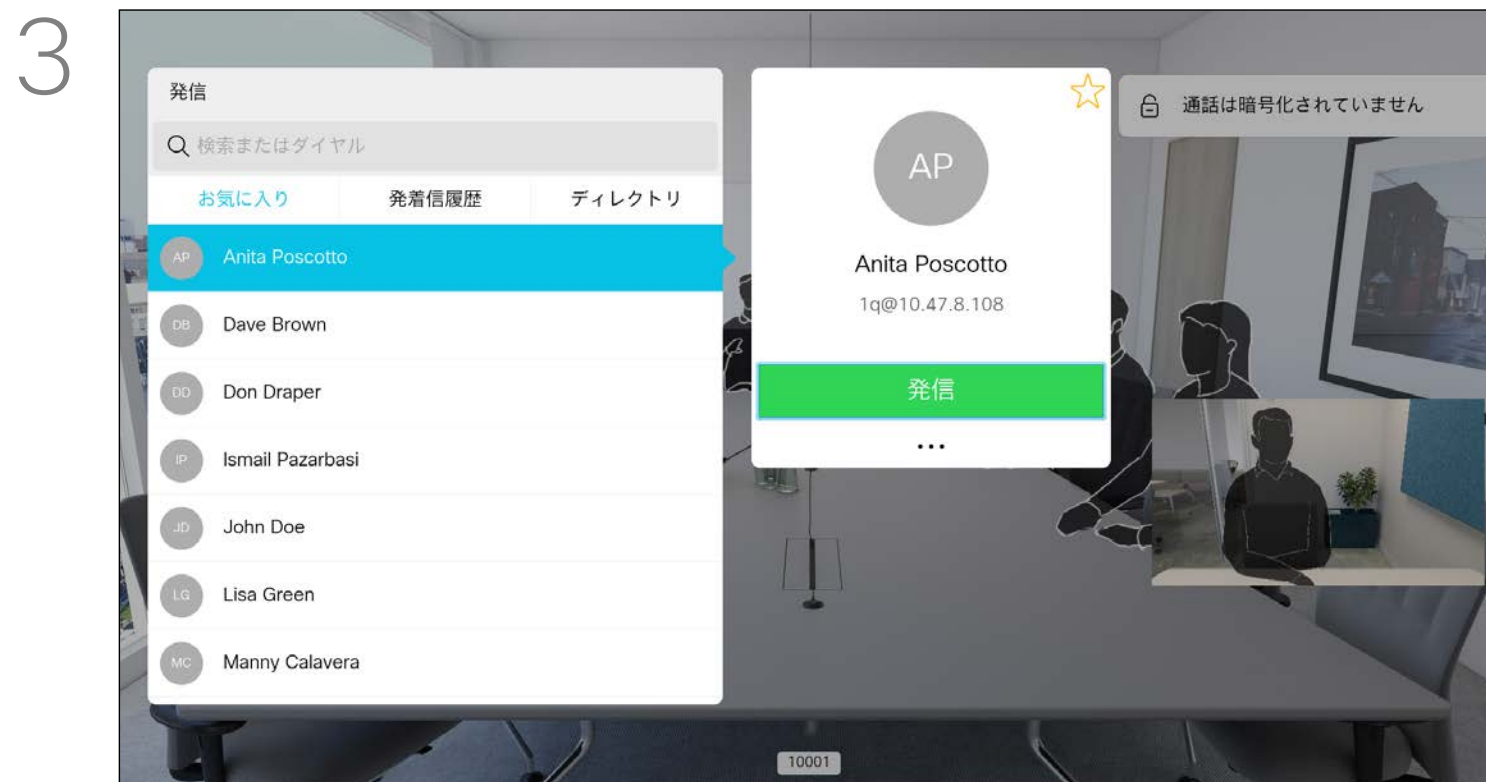
ビデオ コール 対応中の通話の転送



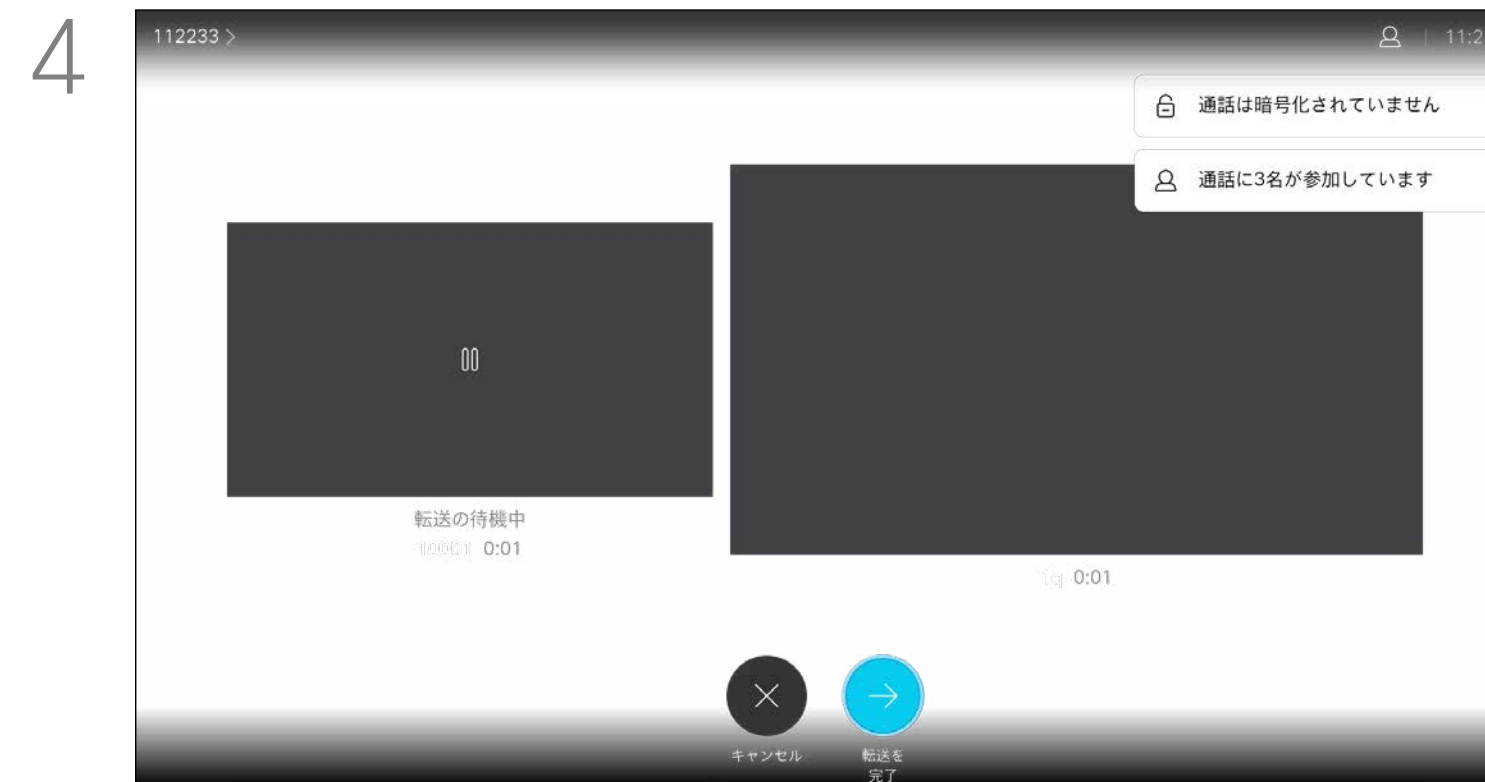
[転送 (Transfer)] に移動し、リモコンのOKを押します。この操作で、現在の通話が保留になります。



いつもと同じ方法で、発信先を探します。



緑色の [発信 (Call)] アイコンを選択して OK を押すか、リモコンの緑色の発信ボタンを押します。

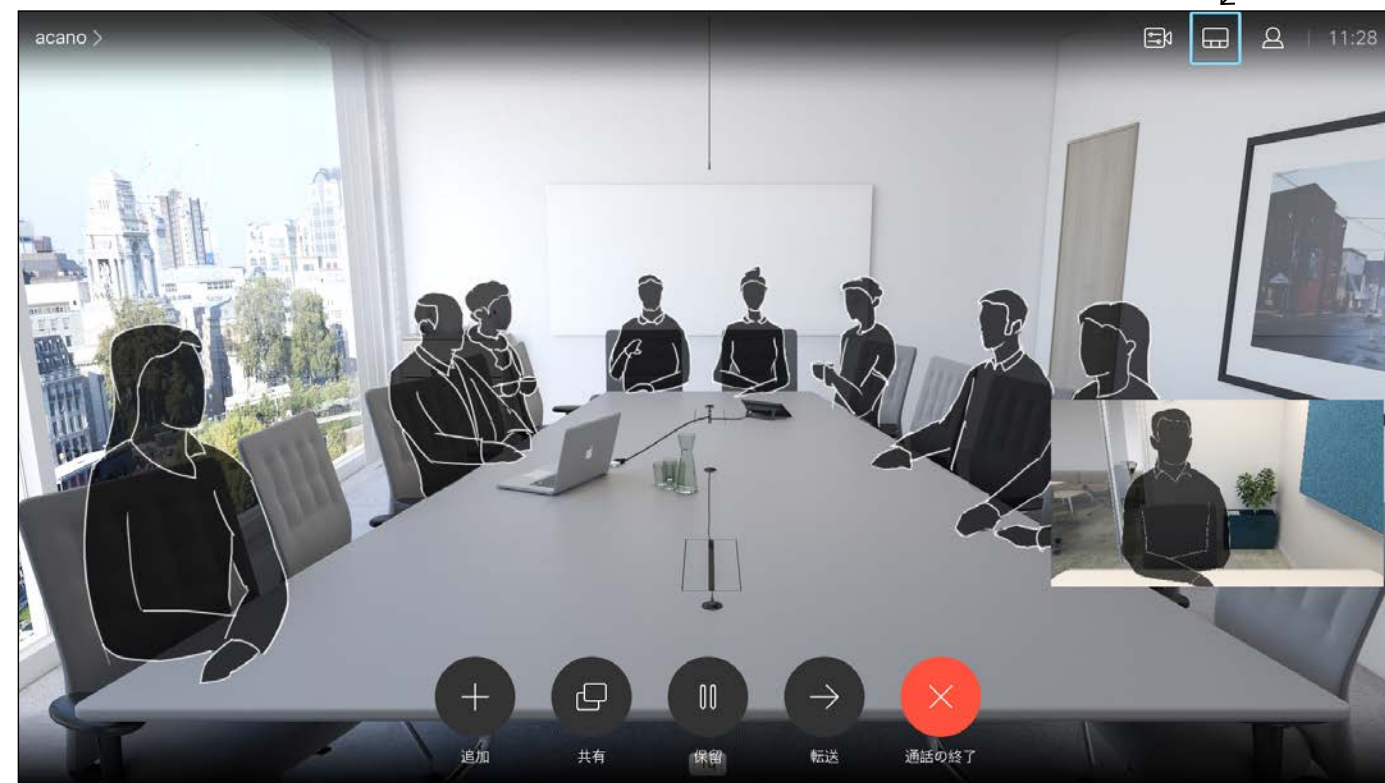


相手と話して転送をしてもよいか確認してください。転送する相手は、保留のままになります。[転送完了 (Complete Transfer)] を選択して、リモコンの OK を押します。

スクリーンのレイアウトの変更

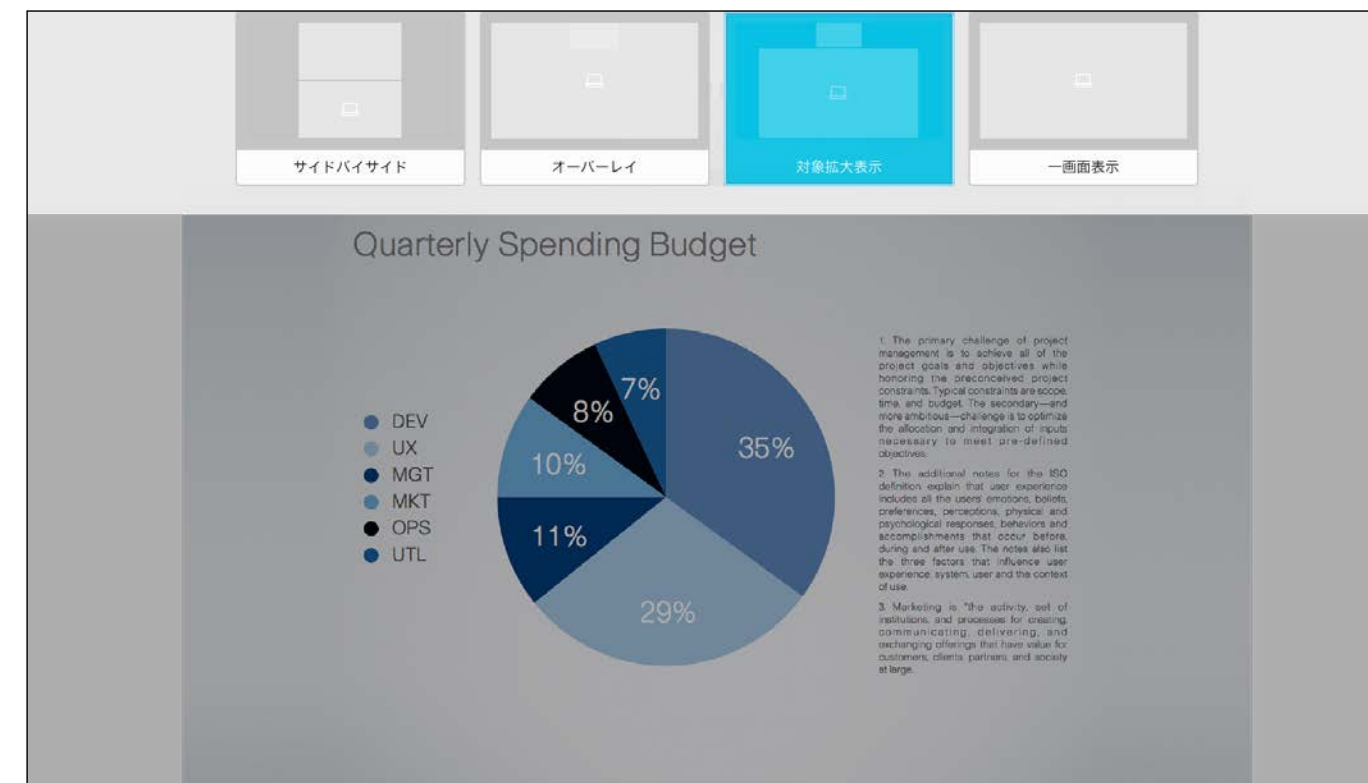
レイアウトについて

1



右上隅の [レイアウト(Layout)] に移動し、リモコンの [OK] を押します。該当する場合にだけ、このアイコンが表示されます。

2



方向キーを使用して新しいレイアウトに移動し、OK を押します。

コンテンツの共有中やビデオ会議の参加中は、画面に表示されるビデオのレイアウトを変更できます。

ビデオ会議は、組織に一定のインフラストラクチャがないと開始できません。不明な点がある場合は、ビデオ サポート チームにお問い合わせください。

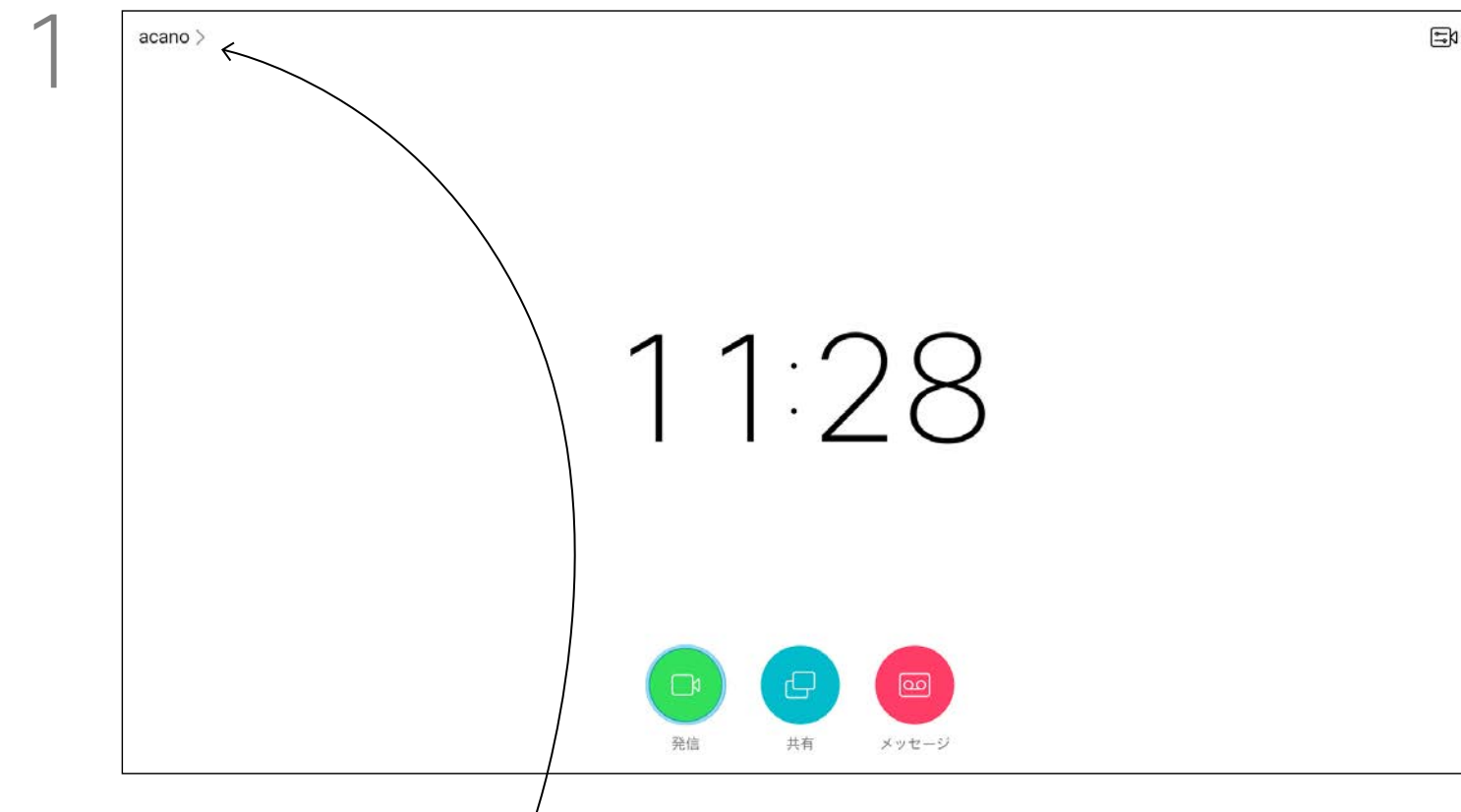
ただし、他のユーザからビデオ会議に招待されることはあります。その場合は、画面レイアウトを変更することができます。

システムによって提供されるレイアウト変更オプションは、コンテキストおよび参加者数によって決まります。

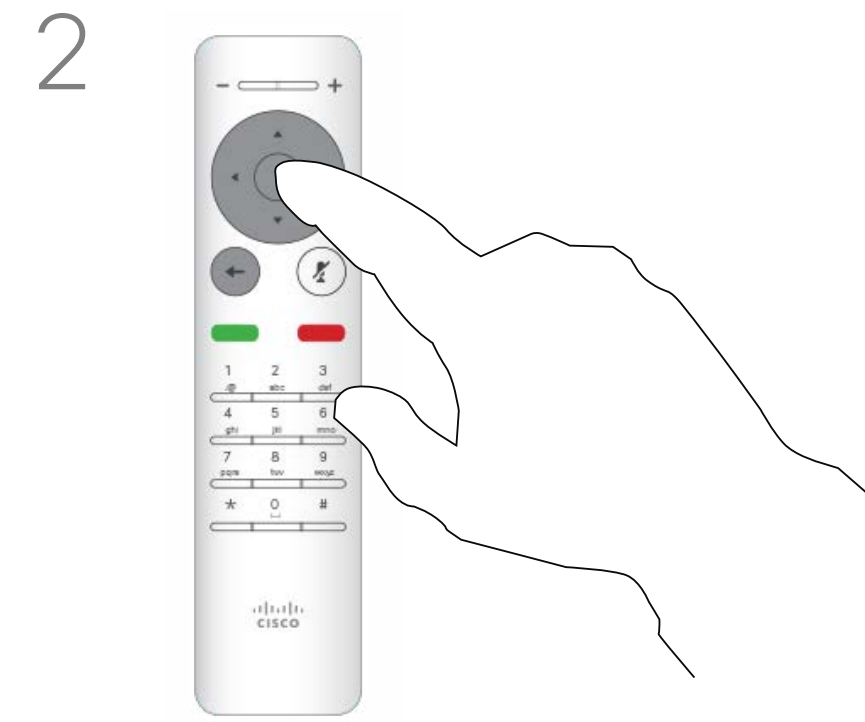
ここでの変更内容は、他の通話には反映されません。

[応答不可 (Do Not Disturb)] を有効にする

応答不可について



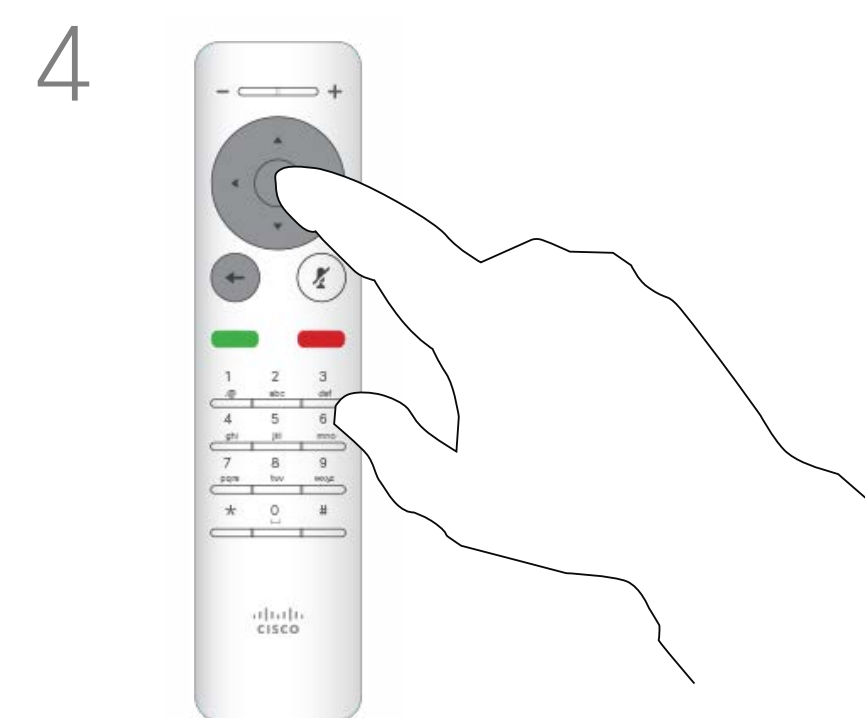
1 [ホーム (Home)] 画面でリモコンの方向キーを使用して、画面の左上隅にある [その他 (More)] > アイコンを選択します。



2 リモート コントロールの OK を押します。



3 リモコンの下方向キーを押して [応答不可 (Do Not Disturb)] に移動し、リモコンの OK ボタンでオンまたはオフに設定します (切り替え)。



4 リモート コントロールの OK キーを押してメニューを終了させると、変更が有効になります。

システムを着信コールに応答しないように設定することができます。

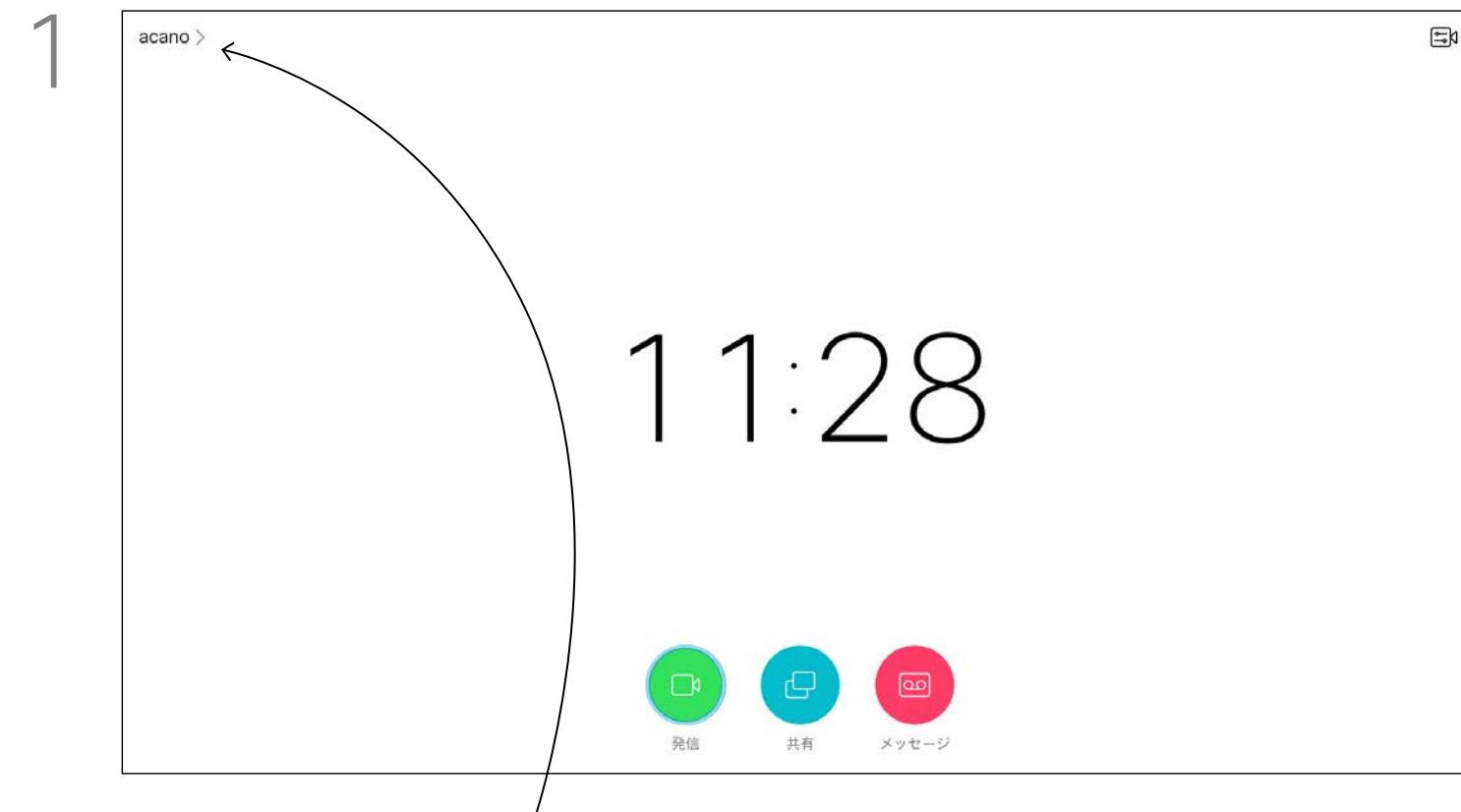
[応答不可] に設定すると、着信音はミュートになり、他者からの着信は不在着信として表示されます。ただし、こちらからは必要時にいつでも発信することができます。

デフォルトでは、応答不可には 60 分のタイムアウトがあります (この後、システムは通常動作に戻ります) が、ビデオ サポート チームによって異なる設定に変更されている場合があります。

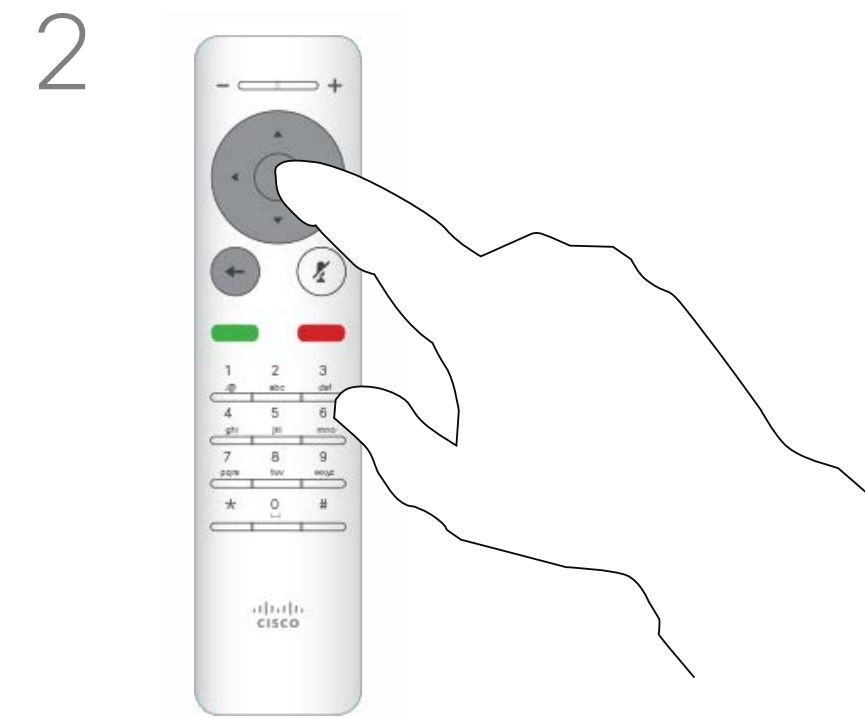
スタンバイを有効にする

スタンバイについて

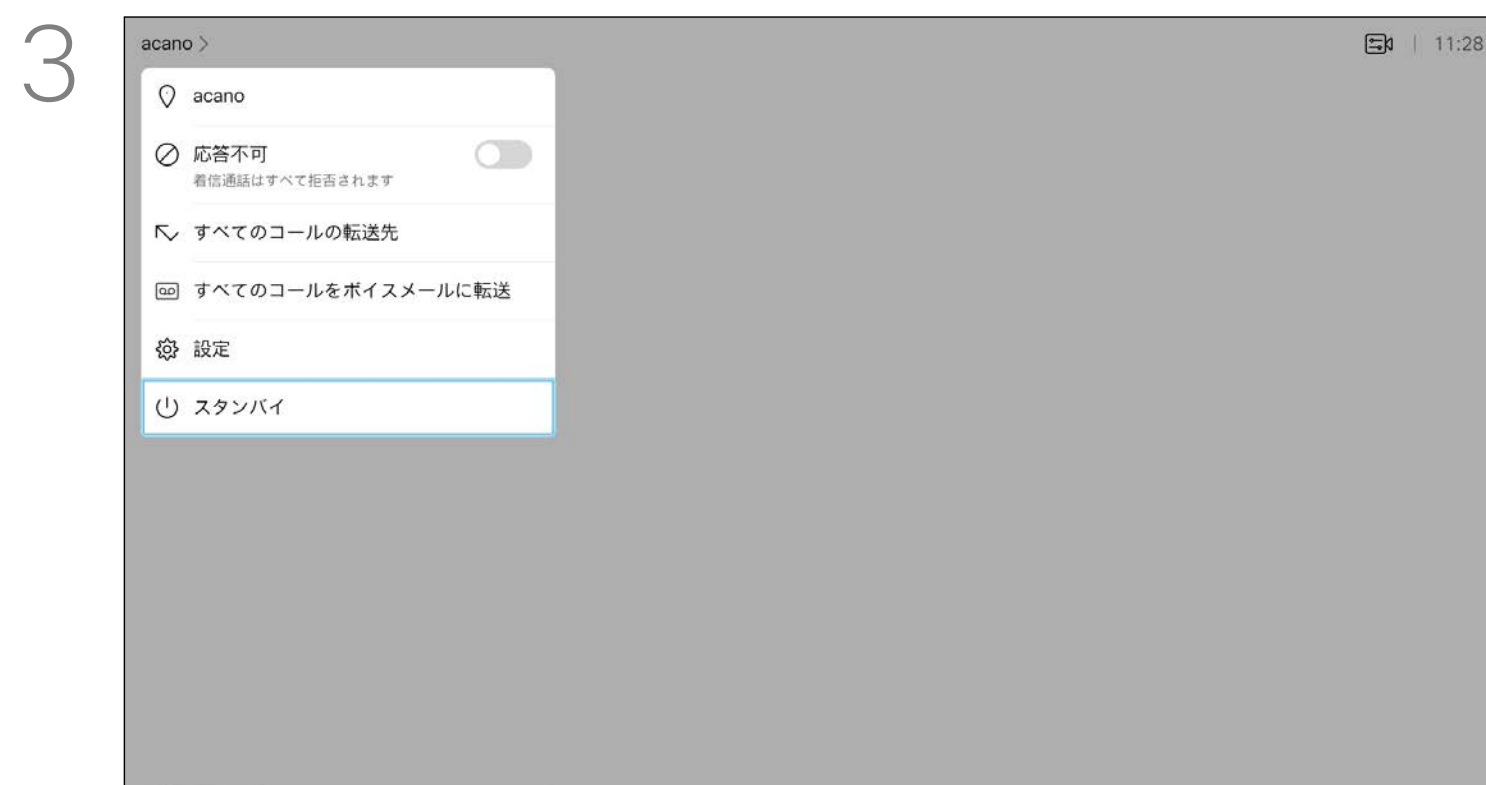
システムを [スタンバイ (Standby)] に設定すると、電力を節約できます。この場合も、通常どおりに着信できます。



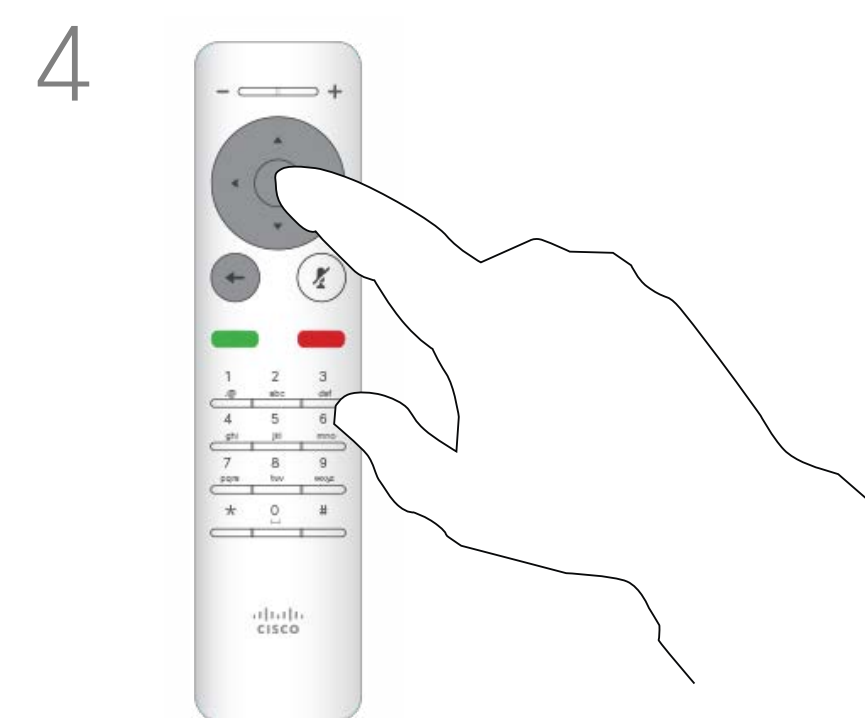
1 [ホーム (Home)] 画面でリモコンの方向キーを使用して、画面の左上隅にある [その他 (More)] > アイコンを選択します。



2 リモートコントロールの OK を押します。



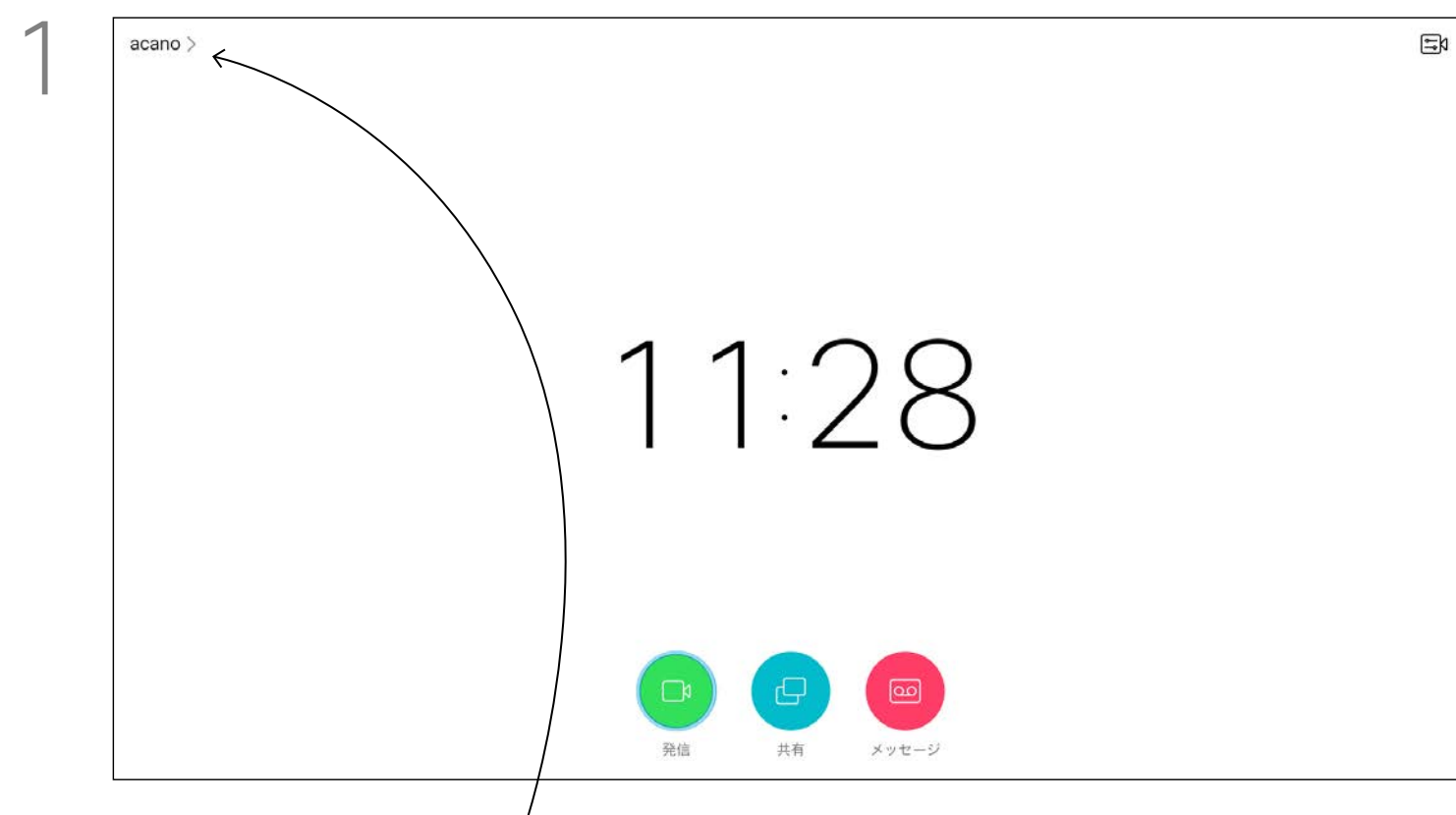
3 下方向キーを押して [スタンバイ (Standby)] に移動します。



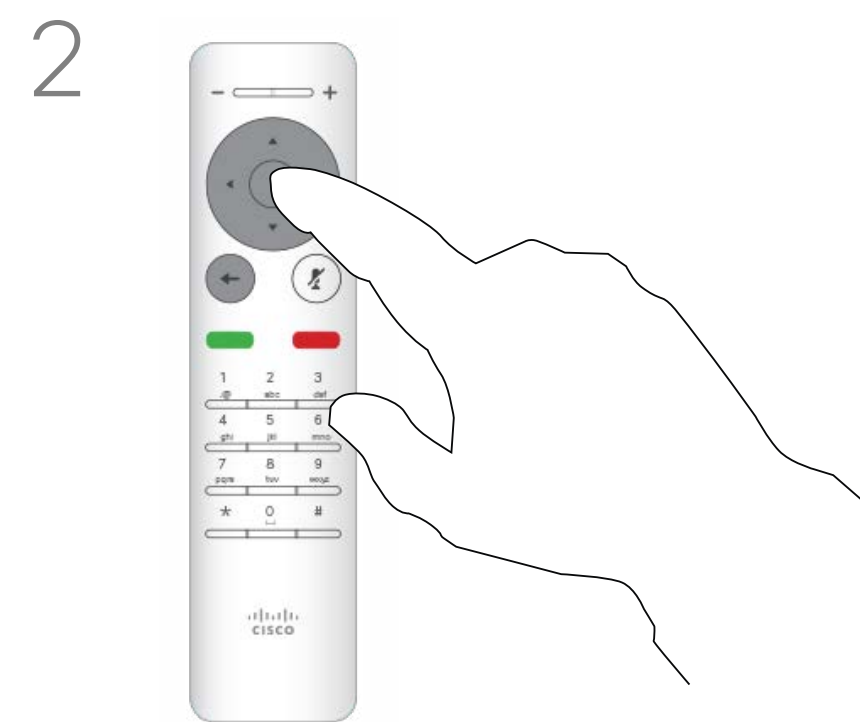
4 リモートコントロールの OK キーを押してメニューを終了させると、変更が有効になります。

すべてのコールを転送する

転送について



[ホーム (Home)] 画面でリモコンの方向キーを使用して、画面の左上隅にある [その他 (More)] > アイコンを選択します。



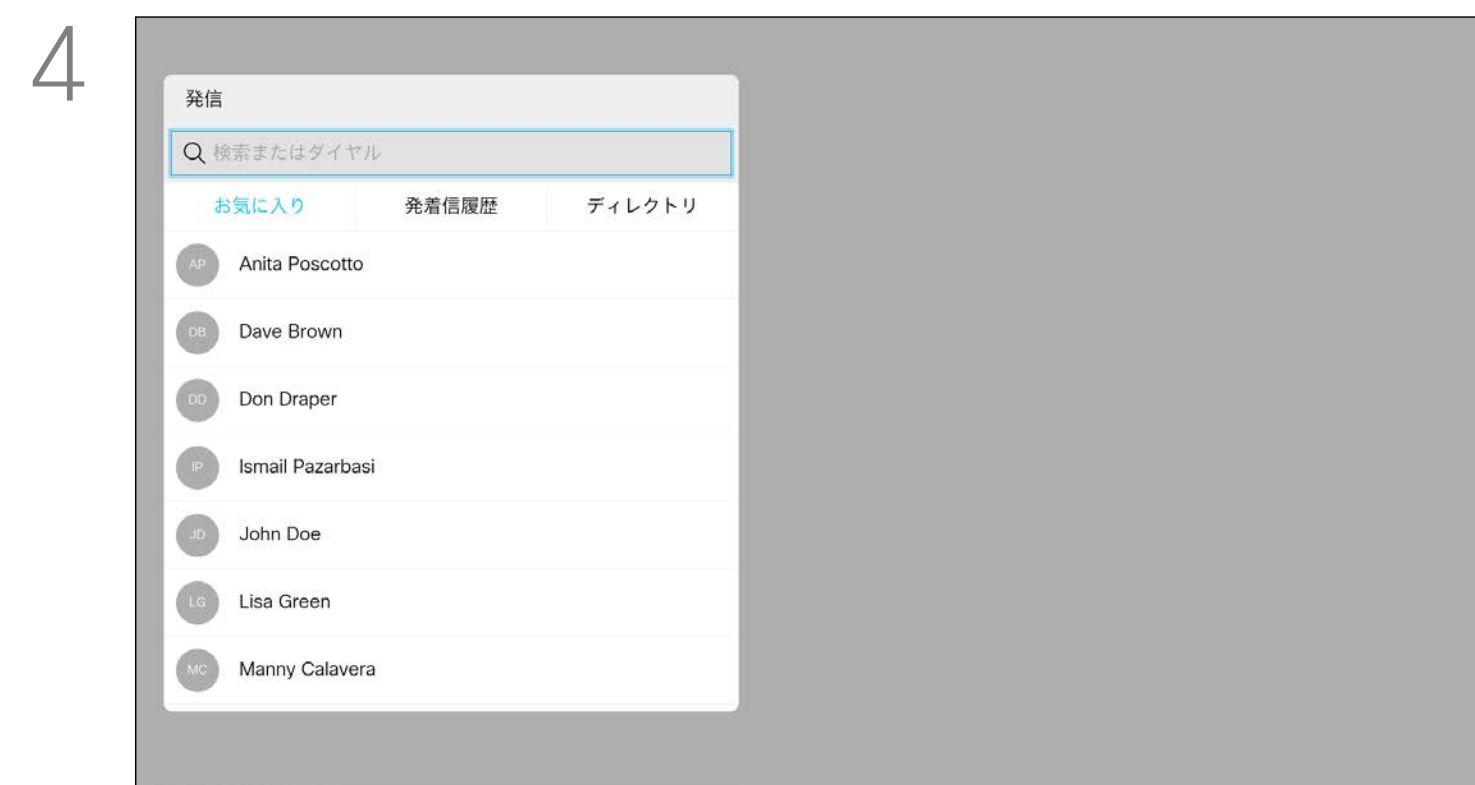
リモートコントロールの OK を押します。

ビデオ サポート チームがすべての受信コールを転送するオプションを有効にしている場合もあります。ボイスメールに転送するか、受信者を指定して転送するかを選択できます。

[すべての通話の転送先 (Forward all calls)] を選択すると、いつもの [発信 (Call)] メニューが表示され、受信者を指定できます。

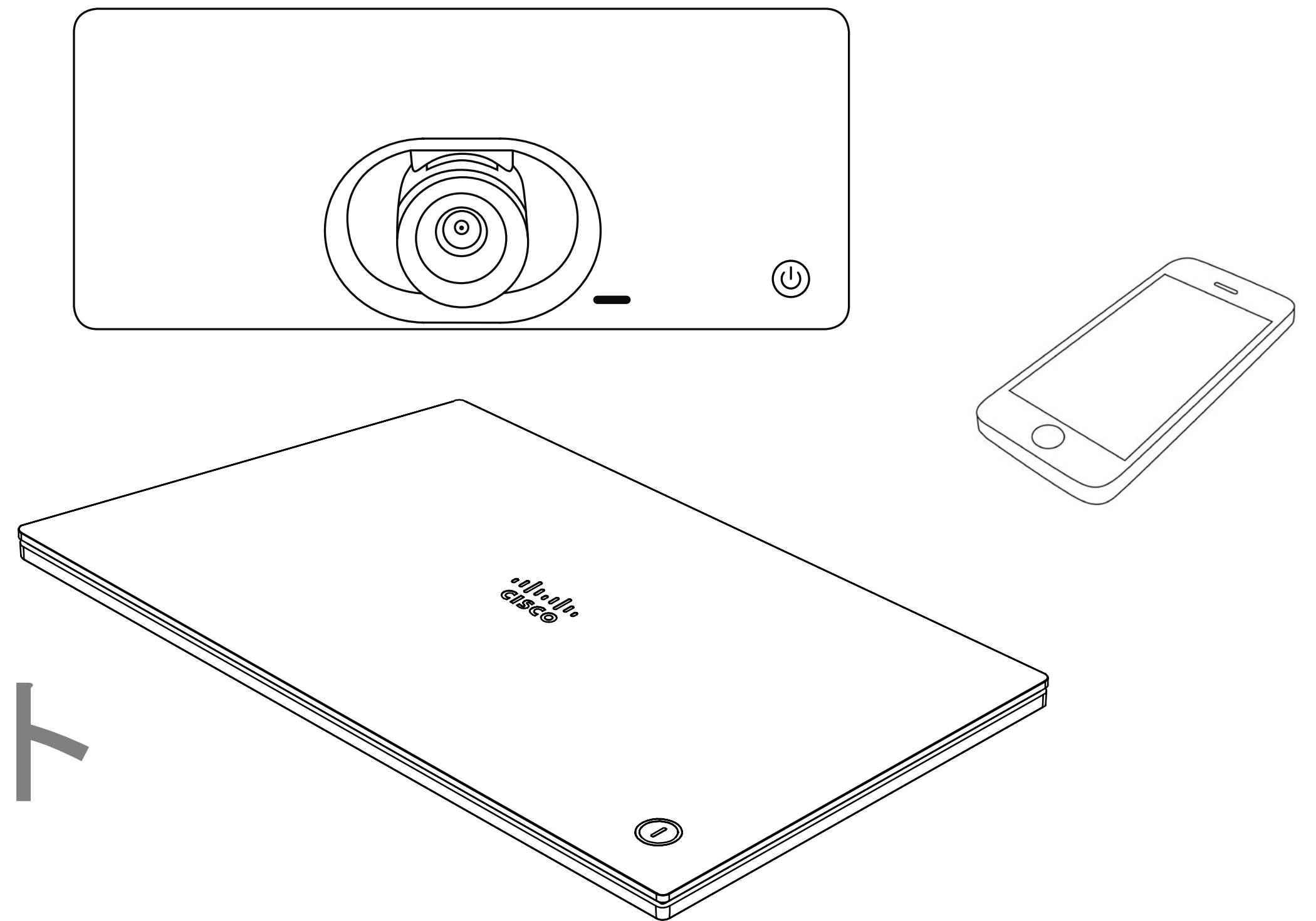


方向キーを押して [すべての通話を転送 (Forward all calls to...)] に移動します。すべての通話をボイスメールに転送するには、[すべての通話をボイスメールに転送 (Forward all calls to Voicemail)] に移動し、OK を押します。



[すべての通話を転送 (Forward all calls to...)] を選択すると、[発信 (Call)] メニューに移動します。発信する相手を選択するのと同じ方法で、すべての通話を転送する相手を選択します。

インテリジエント プロキシミティ



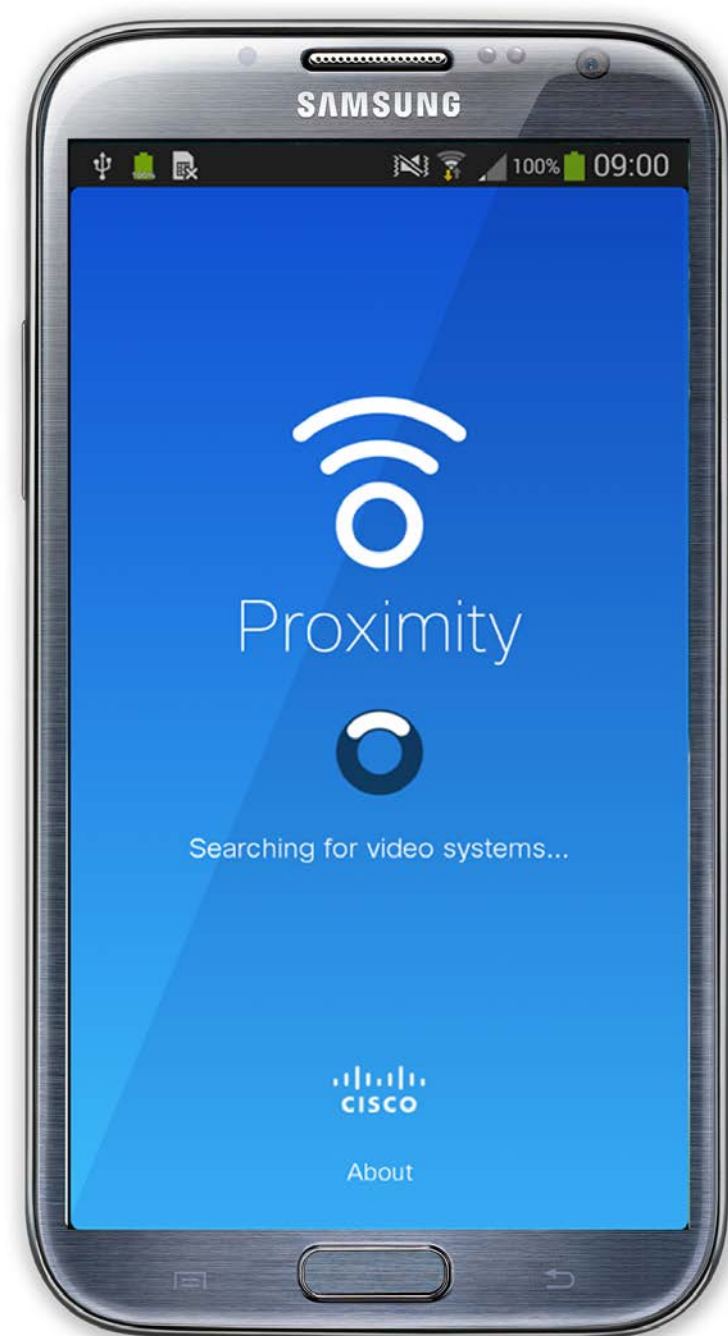
Cisco Proximity の超音波信号について

プロキシミティについて

シスコのビデオ システムは、Proximity 機能の一部として超音波を発します。業務用または商用アプリケーション、家電製品など、ほとんどの人は毎日さまざまな環境で、程度の差はあれ超音波にさらされています。

人によっては空中の超音波によって何らかの影響を自覚する場合がありますが、75 dB 未満の音圧レベルで影響が生じることはほとんどありません。超音波の制限に関するガイドラインは国によって大きく異なります。Cisco 近接信号が出力される20 kHzあたりの周波数帯で検出される 75 dBの音圧レベルは、現在の制限における最小値となっています。

この情報の参考資料として、カナダ保健省のガイドライン http://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/safety-code_24-securite/index-eng.php#a2.2.2 (英語)をご覧ください。



120 dB未満の音圧レベルでは永続的または一時的な難聴はどちらも発生していないと、このガイドラインでは述べられています。

グループで使用するためにスピーカーが組み込まれているシスコのビデオ システムでは、スピーカーから 50cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 75 dB 未満になっています。

個人で使用するためのシスコのビデオ システムでは、スピーカーから 20cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 70 dB 未満になっています。

Cisco Webex Boards では、ディスプレイの前方 20cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 75 dB 未満になっています。このレベルはディスプレイの真下では、スピーカーが下向きであるため若干高くなる可能性があります。

ほとんどの現実的なケースでは、ユーザの耳の位置でのレベルは、スピーカーの指向性、距離減衰、一般的な会議室での高い高周波数吸収率によって、これらの最大レベルよりはるかに低くなります。このレベルは、可聴音について会議スペースの一般的なバックグラウンド/環境ノイズ レベルから通常のスピーチのいわゆる会話レベルまでさまざまです。

したがって、人間が Proximity の信号に連続的にさらされても安全であると考えられます。ほとんどの人は、信号の存在に気付かず、信号の影響を受けません。ただし、特に急性の高周波聴力を持つ一部の個人は、この信号が聞こえます。この状況はほとんどの場合、スピーカーの正面かつ近傍で起こります。

犬のような動物は、可聴周波数範囲が広いいため、Proximity の信号が聞こえます。

ただし、音の影響はレベルに依存し、犬の可聴レベルの範囲は人と大きくは異なります。20 kHz での犬の可聴しきい値は 0-10 dB と低く、最も感度の高い周波数範囲での人の耳のしきい値と変わりません。

シスコは、信号が犬に影響を及ぼす可能性についてテストや検証を行っていません。レベルが制限されているため、犬に信号が聞こえることが明らかであっても、犬にとってわずらわしいものではないと信じられています。

オフィスまたは会議室にいる犬は、通常のバックグラウンド ノイズと同等のレベルまたはほとんどの会話レベルの超音波を受けることになります。当社の製品にこの機能を搭載したここ数年間で、信号によって動物が影響を受けたという報告はありません。

ただし、超音波を使用する犬撃退デバイスが存在していることから、超音波が犬に及ぼす影響について疑問を持つことは当然のことです。これらのデバイスは通常、不快ではあるが無害な超音波を使用していると主張しています。シスコは、犬撃退デバイスの設計について見識はありませんが、このようなデバイスの仕様を調べると、そのレベルが 100 dB 以上であることが多いことがわかります。

シスコのビデオ コーデックをサードパーティ製のスピーカー システムと組み合わせて使用するソリューションについては、シスコは超音波の音圧レベルを制御できません。ほとんどの場合、必要なスピーカー感度および周波数応答によって、音圧レベルは 75 dB の制限未満になります。しかし、過剰な信号の外部増幅を行う、またはスピーカーシステムが高周波を強調するものであった場合、この制限を超えた音圧が出力される可能性があります。

Intelligent Proximity 機能を使用すれば、手元の端末でワイヤレスにビデオ システムのコンテンツを共有できます。スマートフォンやタブレットでは、共有コンテンツを自分の画面に直接表示することもできます。

自分のスマートフォン、タブレット、PC、または MAC を使って、ビデオ システムの通話を制御することもできます。

次の条件に従ってください。

App Store または Google Play から、Cisco Intelligent Proximity アプリケーション(無料)をダウンロードする必要があります。

Windows または OS X を使用している場合は、<https://proximity.cisco.com/> (英語)にアクセスしてください。

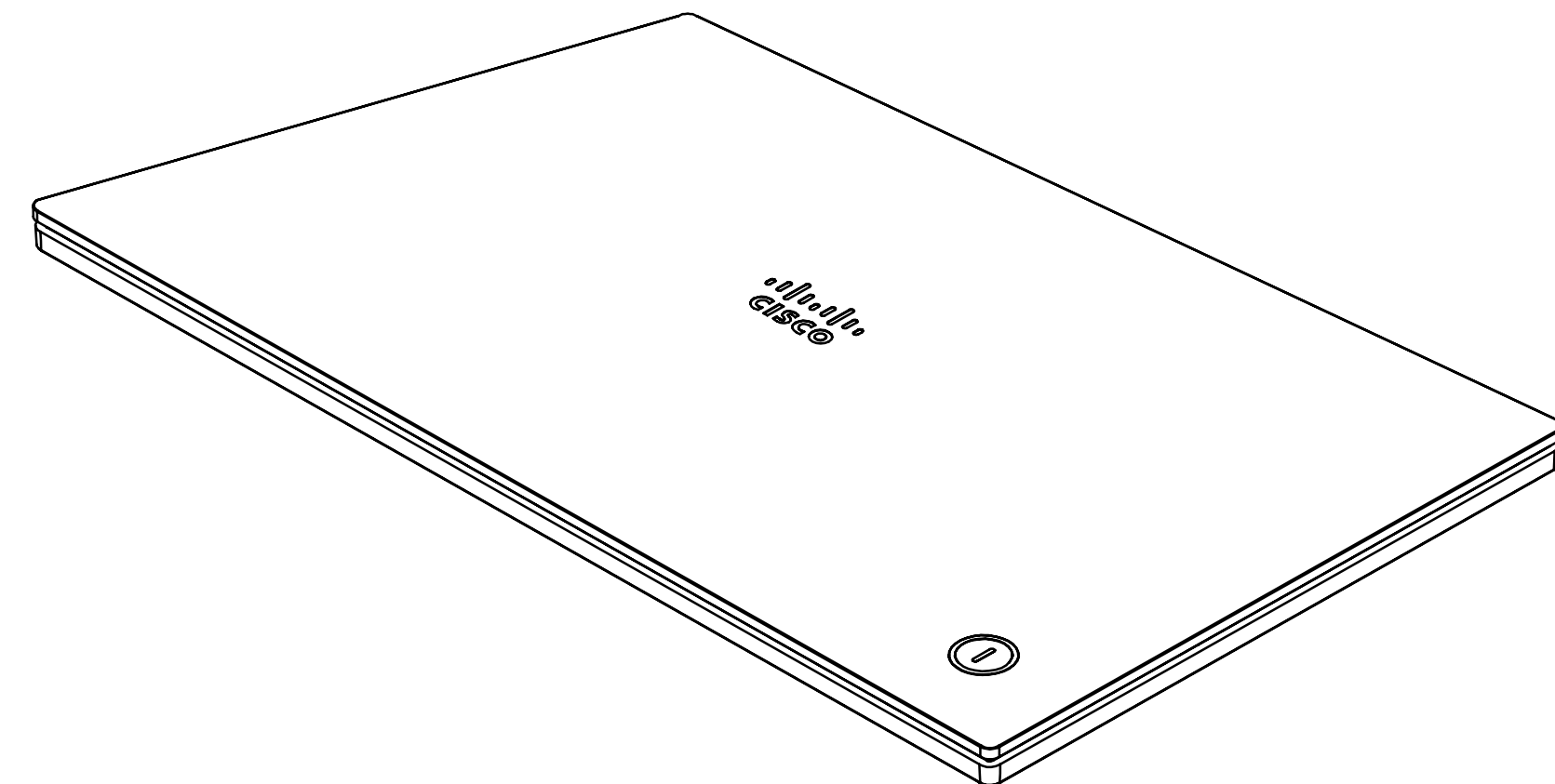
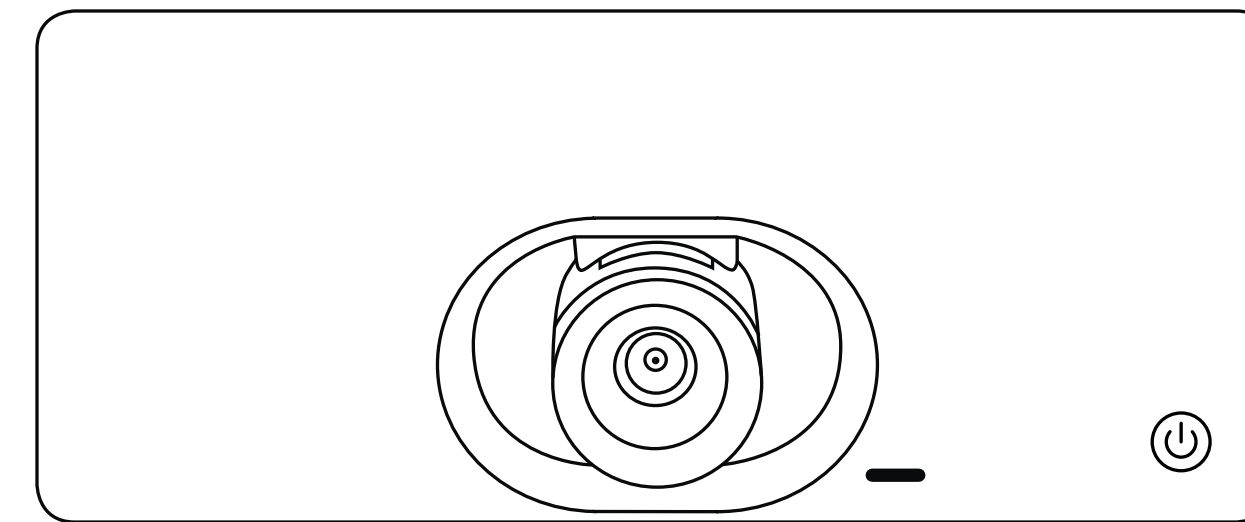
ビデオサポートチームは、すべての機能を有効にしている場合も、無効にしている場合も、一部の機能だけを有効にしている場合もあります。

Intelligent Proximity は、ユーザの接続時に超音波を利用します(詳細は左記参照)。コンピュータやスマートフォン、タブレットのマイクをふさがないようにしてください。

Intelligent Proximity は、会議室のドアが閉じられた状態では、会議室の外側では機能しないように設計されています。この機能を使用するには、ビデオ エンドポイントの近くにデバイスを置く必要があります。

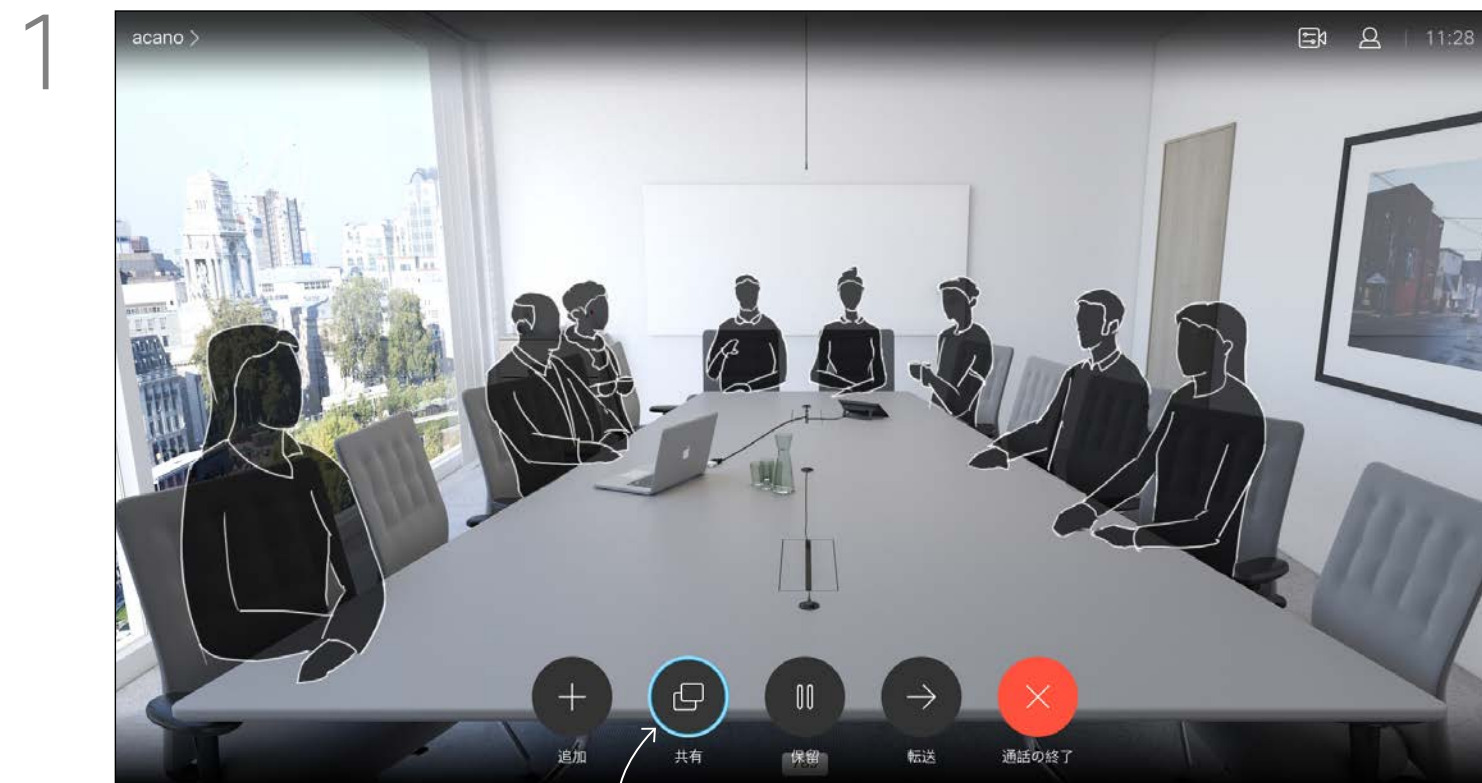
プライバシーの保護が必要な場合は、常に会議室の扉を閉めて、隣室に音が漏れないように配慮してください。

コンテンツ共有

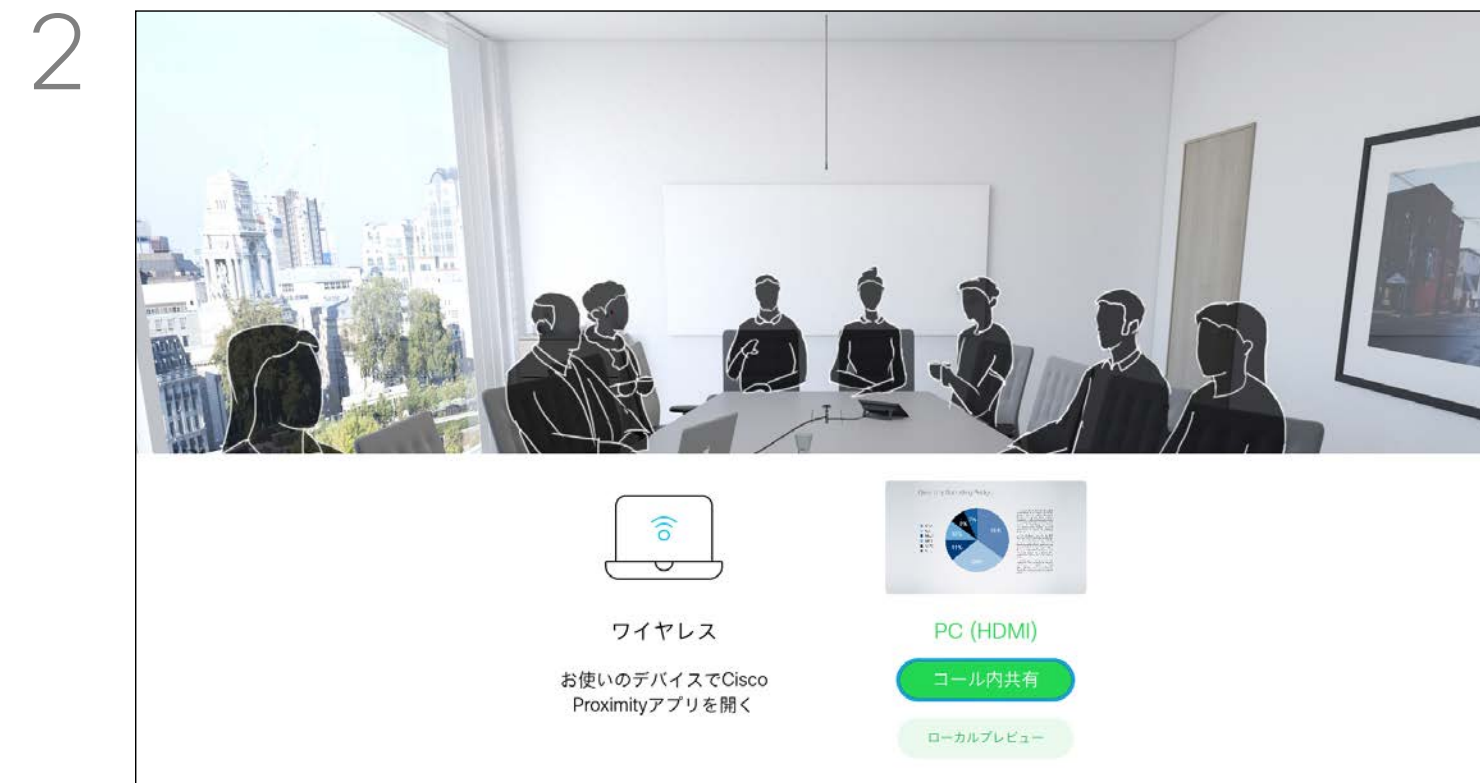


プレゼンテーションの開始と中止

コンテンツ シェアリングについて



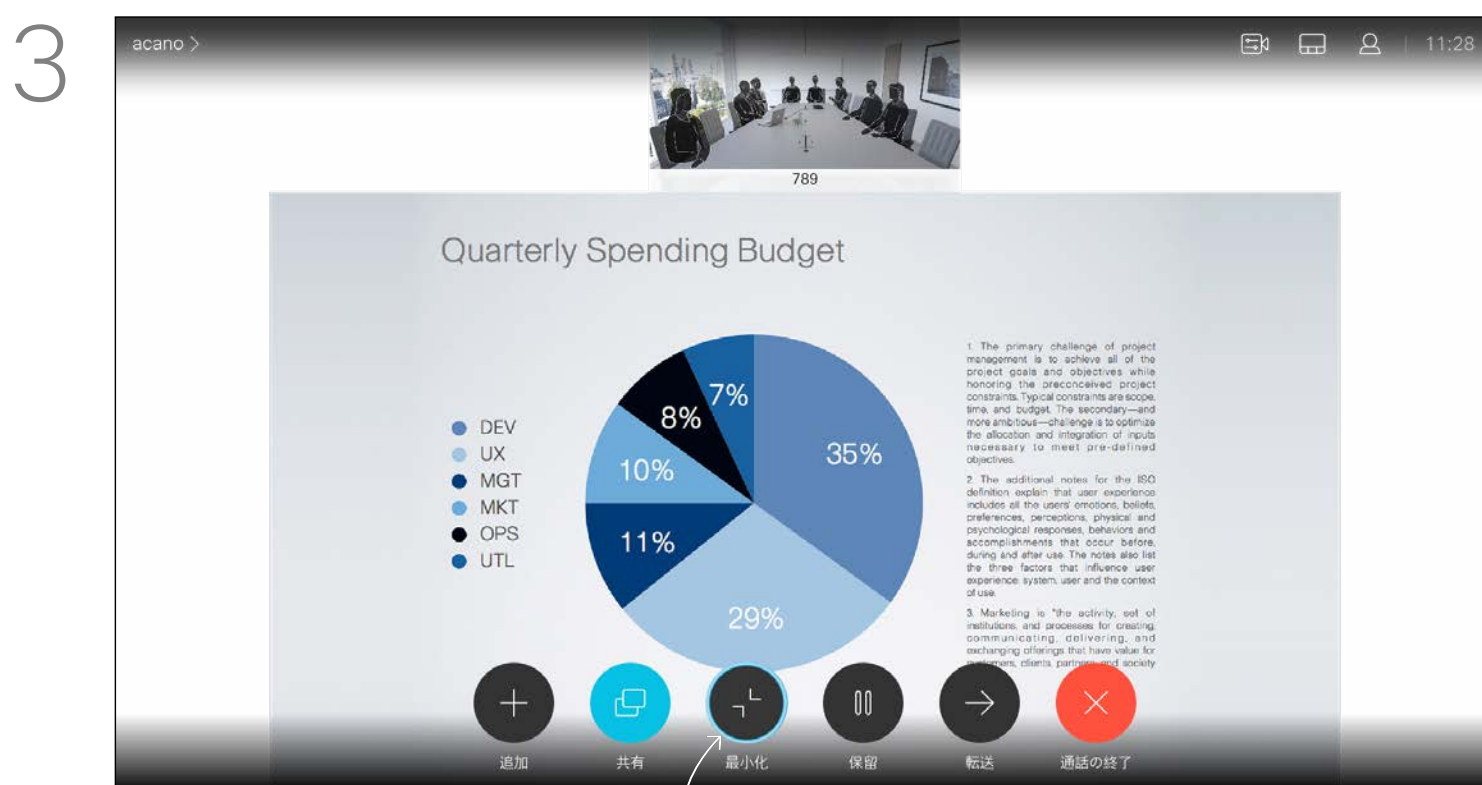
1 プレゼンテーション ソースが接続されてオンになっていることを確認します。場合によっては、[共有 (Share)] を選択し、リモコンの OK を押す必要があります。



2 [通話中に共有 (Share in call)] を選択する前に[ローカル プレビュー (Local preview)]を選択すると、他の参加者と共有せずにコンテンツを確認できます。

通話中または通話外で、この機能を使用して PC のコンテンツを共有します。手順は同じですが、ここで説明するのは通話中の方法だけです。

Proximity を使用してコンテンツを共有するには、プレゼンテーション ソースに Cisco Proximity がインストールされていて、アクティブ化されていることを確認します。ペアリングが開始するまで数分かかります。画面の指示に従います。



3 共有画像のサイズは、[最小化 (Minimize)]/[最大化 (Maximize)] アイコンで操作します。必要に応じて、このフィールドを選択し、リモートコントロールの OK を押します。

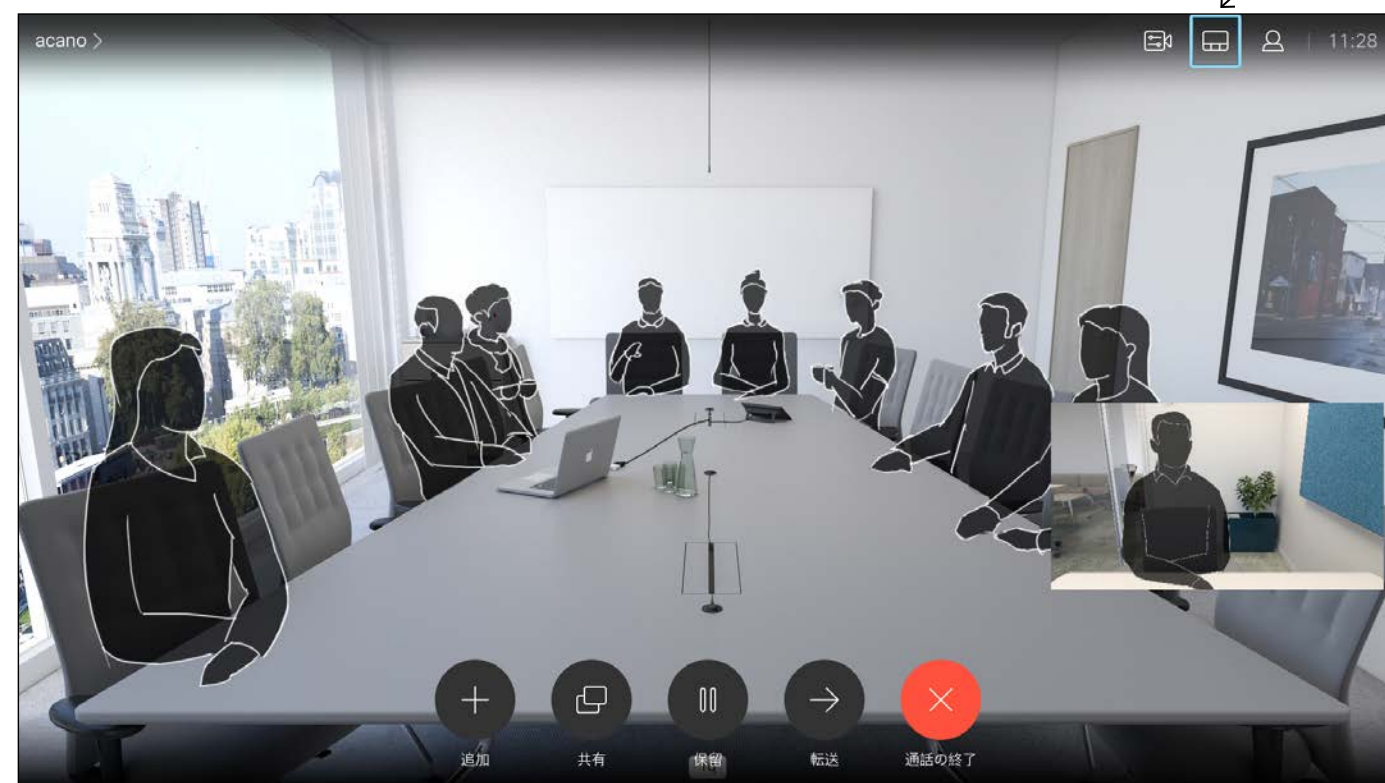


4 コンテンツの共有をやめるには、[共有を中止 (Stop sharing)] を選択し、リモートコントロールの OK を押します。

通話中のプレゼンテーション レイアウトの変更

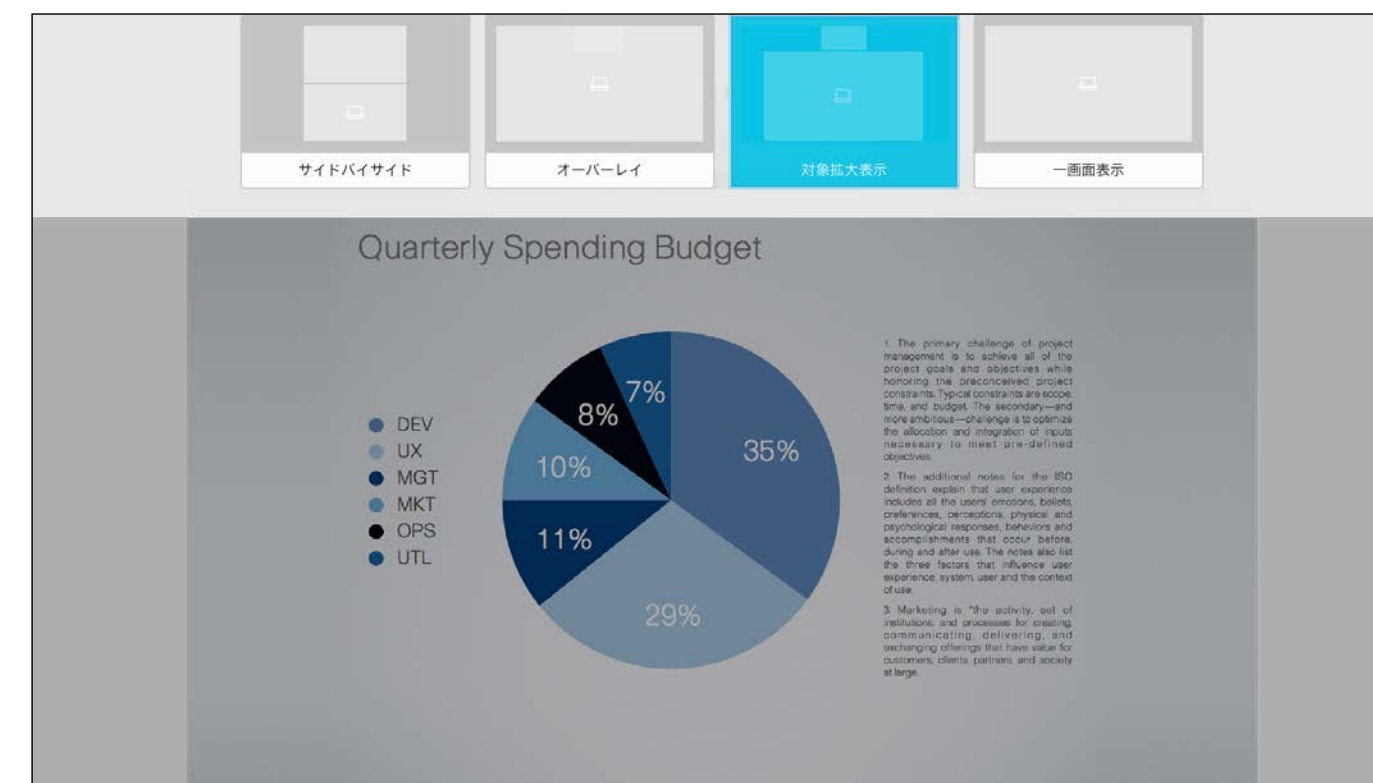
プレゼンテーション レイアウトについて

1



右上隅の [レイアウト(Layout)] に移動し、リモコンの [OK] を押します。該当する場合にだけ、このアイコンが表示されます。

2

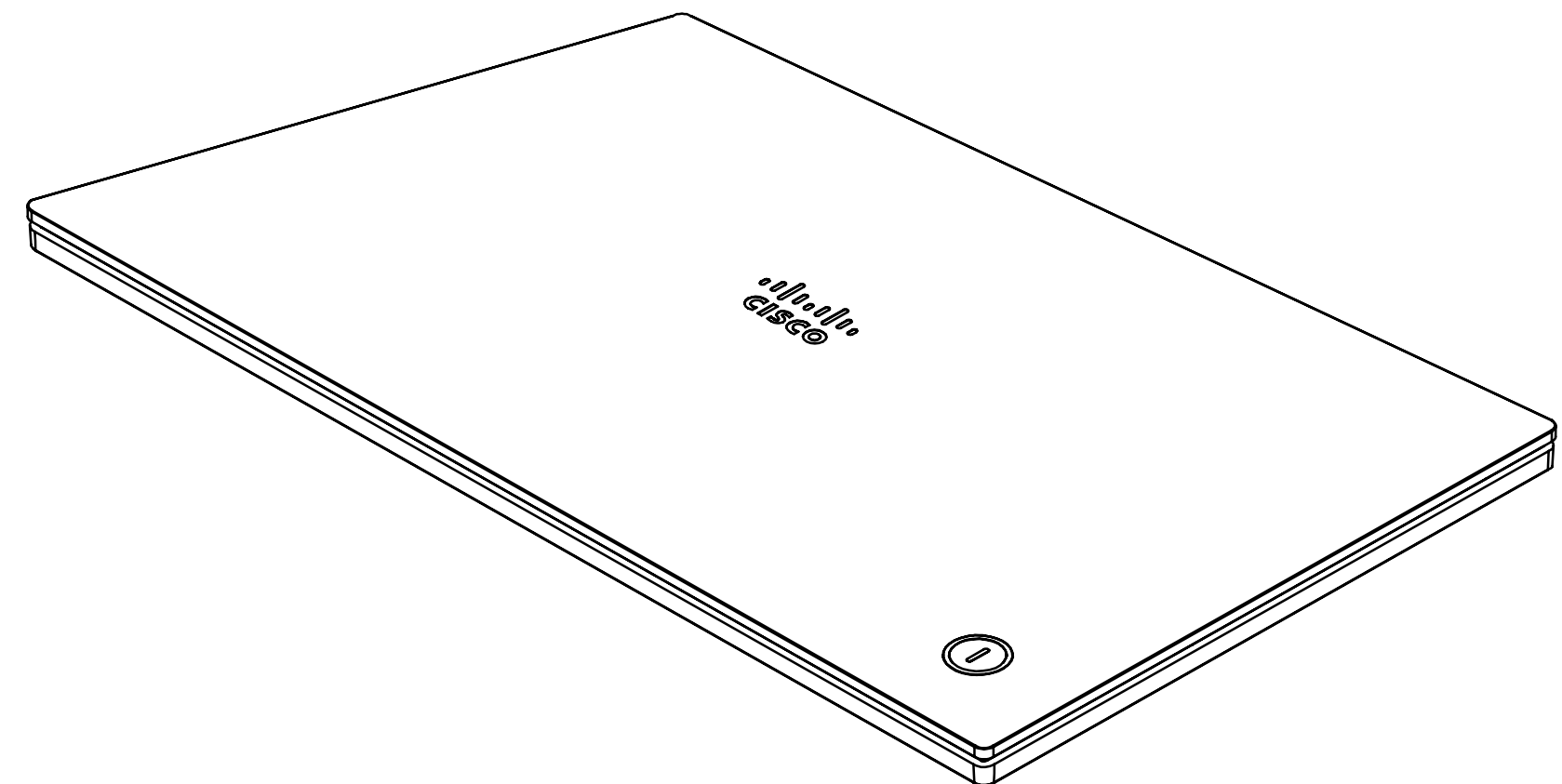
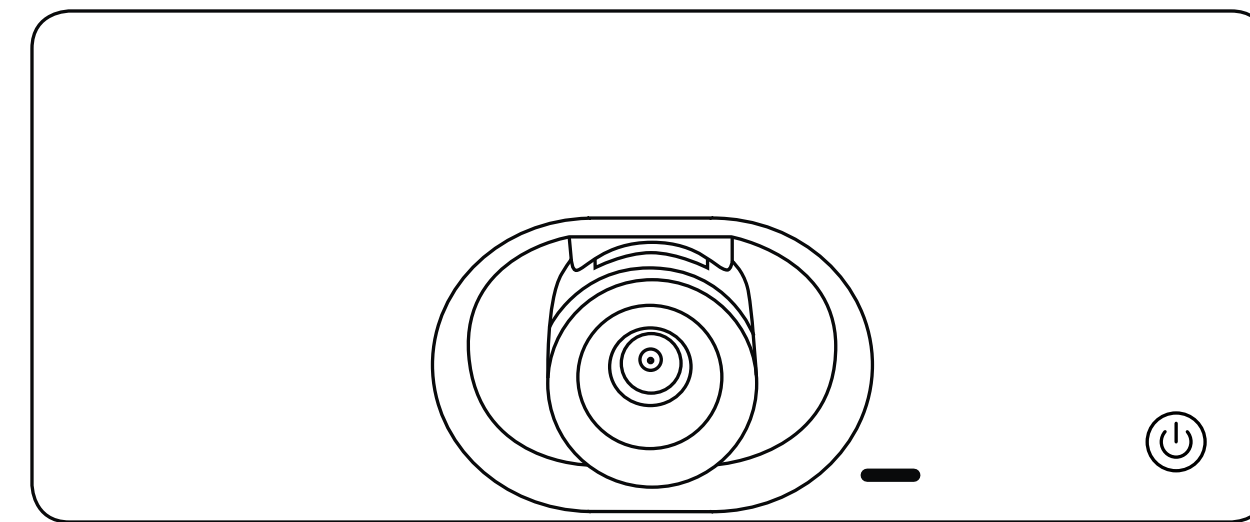


方向キーを使用して新しいレイアウトに移動し、OK を押します。

プレゼンテーション中に画面のレイアウトを変更できます。通常使用できるオプションは、プレゼンターの表示あり/なし、およびプレゼンターを PiP(ピクチャ インピクチャ)か PoP(ピクチャ アウトサイドピクチャ)のいずれかとして表示する、というものです。

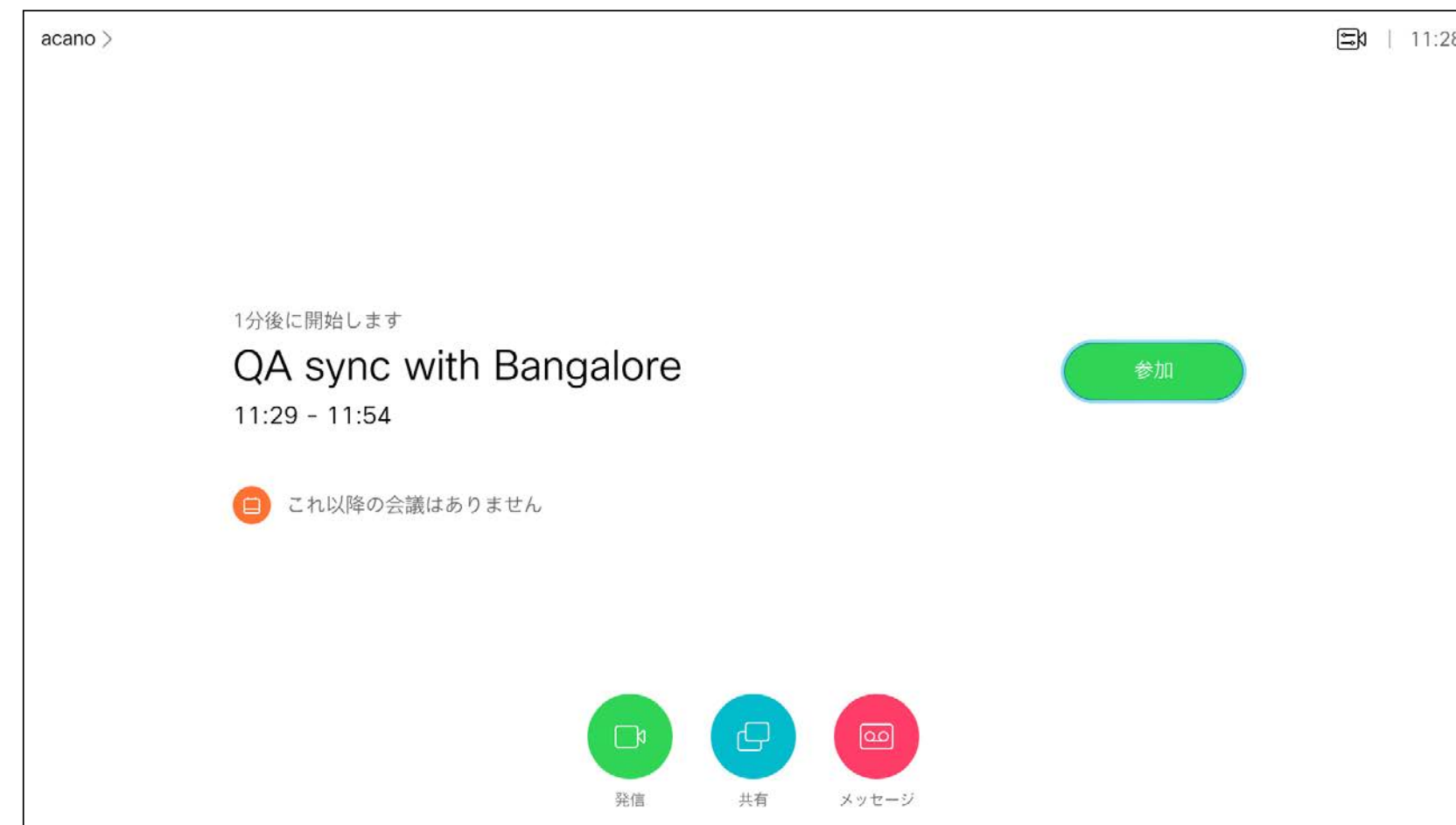
ご利用のシステムで有効なレイアウトオプションは、ここで示されているものと異なる場合がありますが、示されているレイアウトは常にいずれかを選択できます。

スケジュール された会議



スケジュールされた会議に参加する

参加可能な会議に参加するには、緑色の [参加 (Join)] アイコンに移動します。次にリモコンの OK を押します



会議への入室

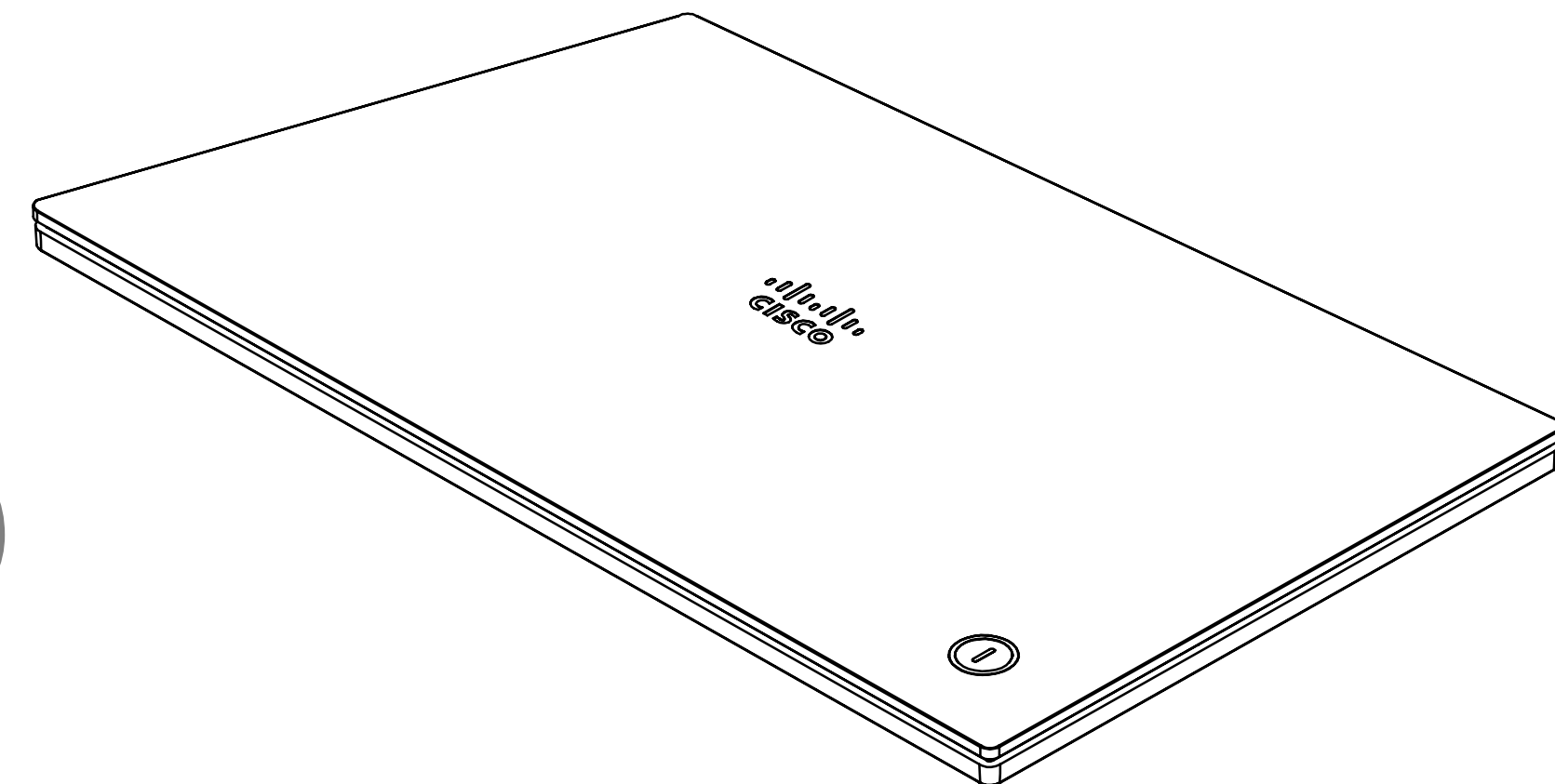
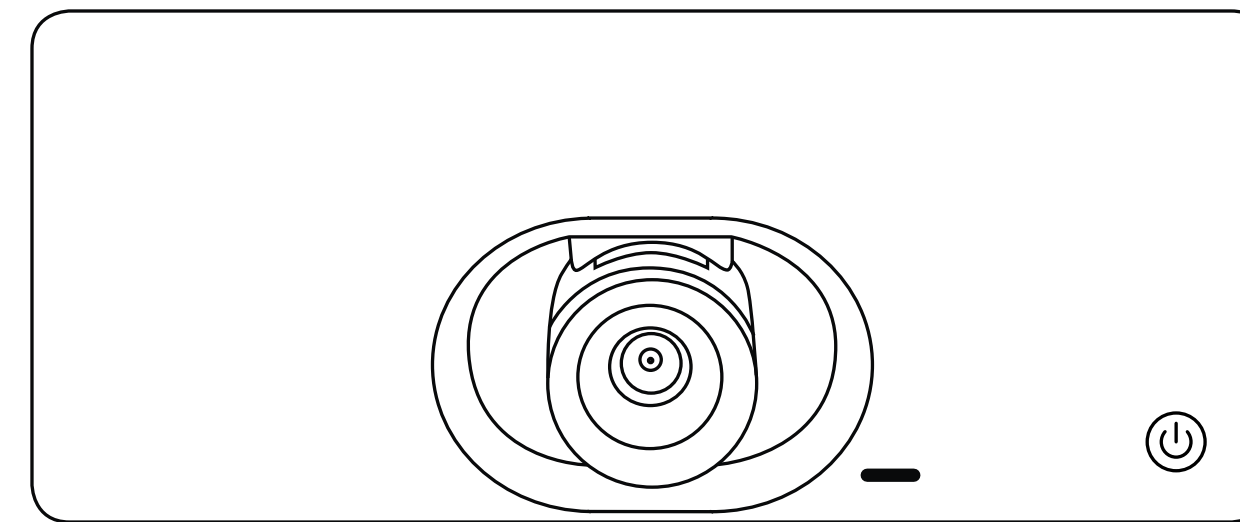
ビデオ会議をスケジュールすることができる管理システムに、ビデオ システムを接続することができます。スケジュールされた会議は左図のように表示されます。

会議に参加するには [参加 (Join)] を使用します。

会議がすでに始まっている場合でも参加をオフアードすることができます。

[スヌーズ (Snooze)] アイコンが利用できる場合もあります。このアイコンを選択すると、参加のオフアードを 5 分後に延期します。

連絡先 (Contacts)



通話中ではないときに [お気に入り(Favorites)] に追加する

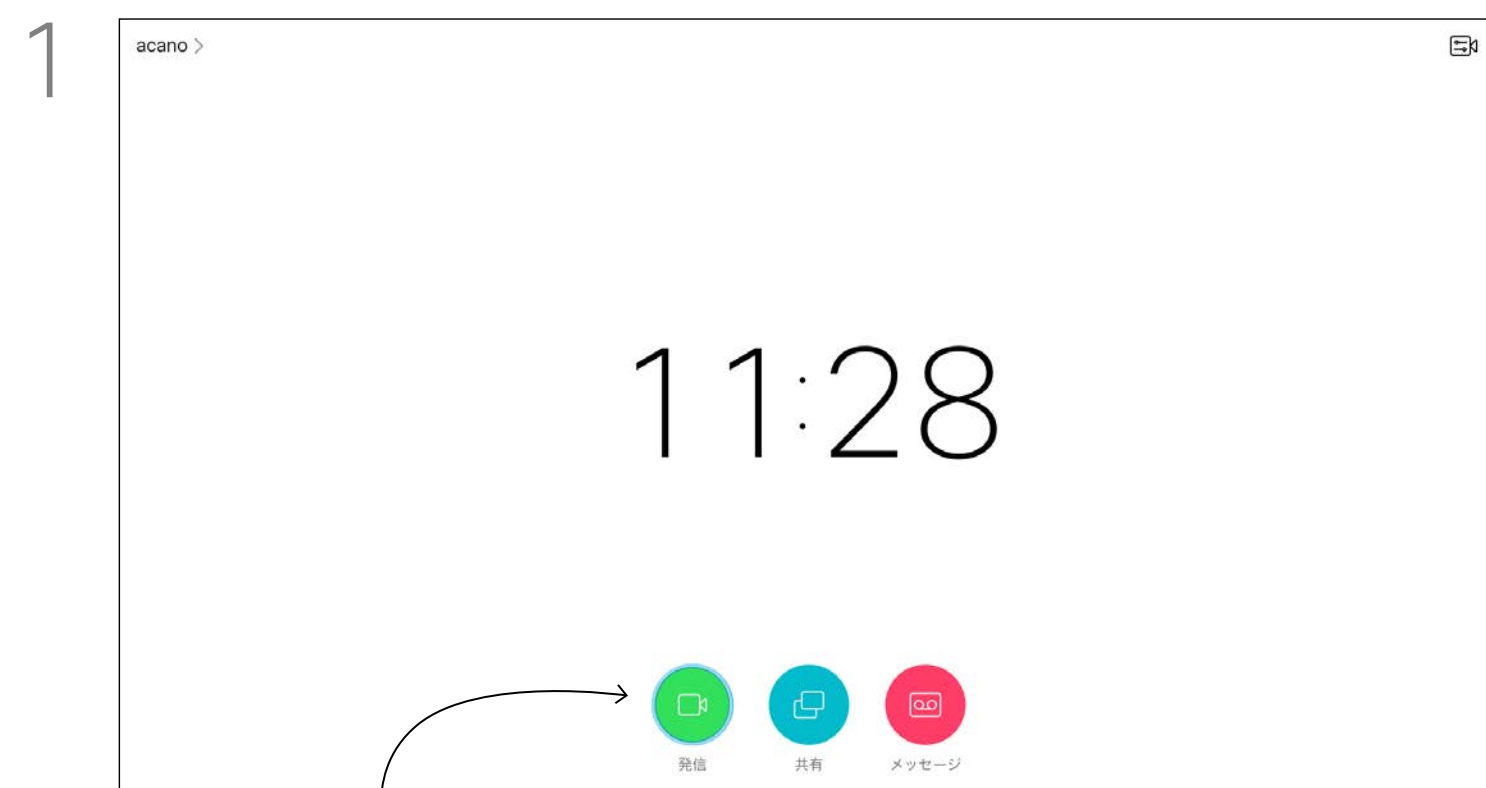
[ディレクトリ(Directory)]、
[発着信履歴(Recents)]、
[お気に入り(Favorites)]
について

[ディレクトリ(Directory)] は、社内電話帳としての役割を果たします。このディレクトリを編集することはできません。ただし、エントリを [お気に入り(Favorites)] のリストにコピーした上で編集することはできます。

フォルダをタップしてそのコンテンツを表示します。必要に応じて、ディレクトリをスクロールしてフォルダやフォルダ内のエントリを探します。

社内ディレクトリ内で検索する場合、検索は現在のディレクトリのフォルダとそのサブフォルダにのみ適用されます。1 つ上のレベルに移動するには、[戻る(Back)] をタップします。検索を社内ディレクトリ全体に適用する場合は、検索を開始する前に、フォルダを入力(タップ)しないでください。

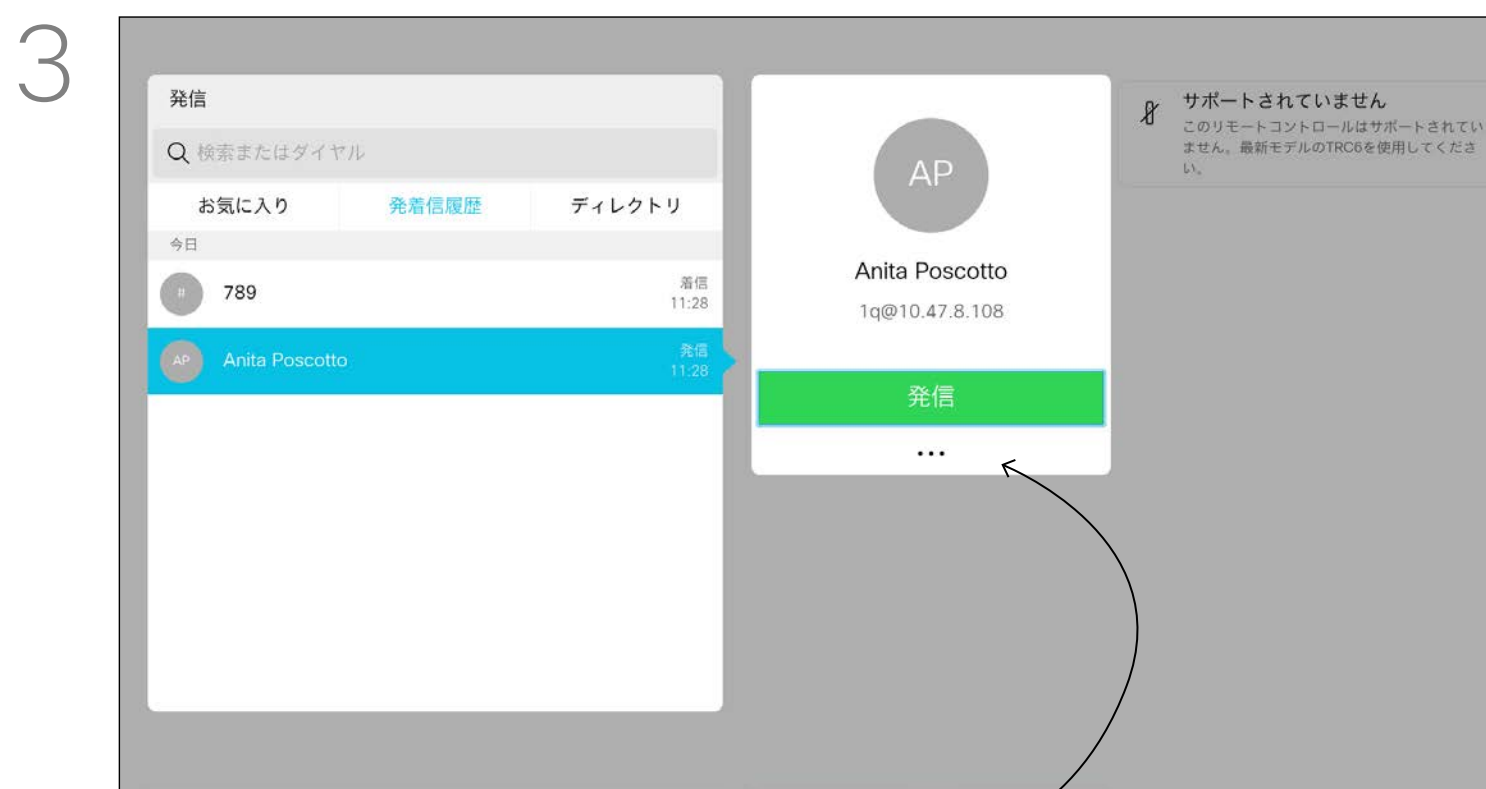
ディレクトリからお気に入りのリストにコピーしたエントリが、その後ディレクトリ内で更新されることがあります。この更新はお気に入りのリストには反映されません。お気に入りのリストのエントリは手動で更新する必要があります。手動の更新には、[編集して通話(Edit and Call)] を使用します。



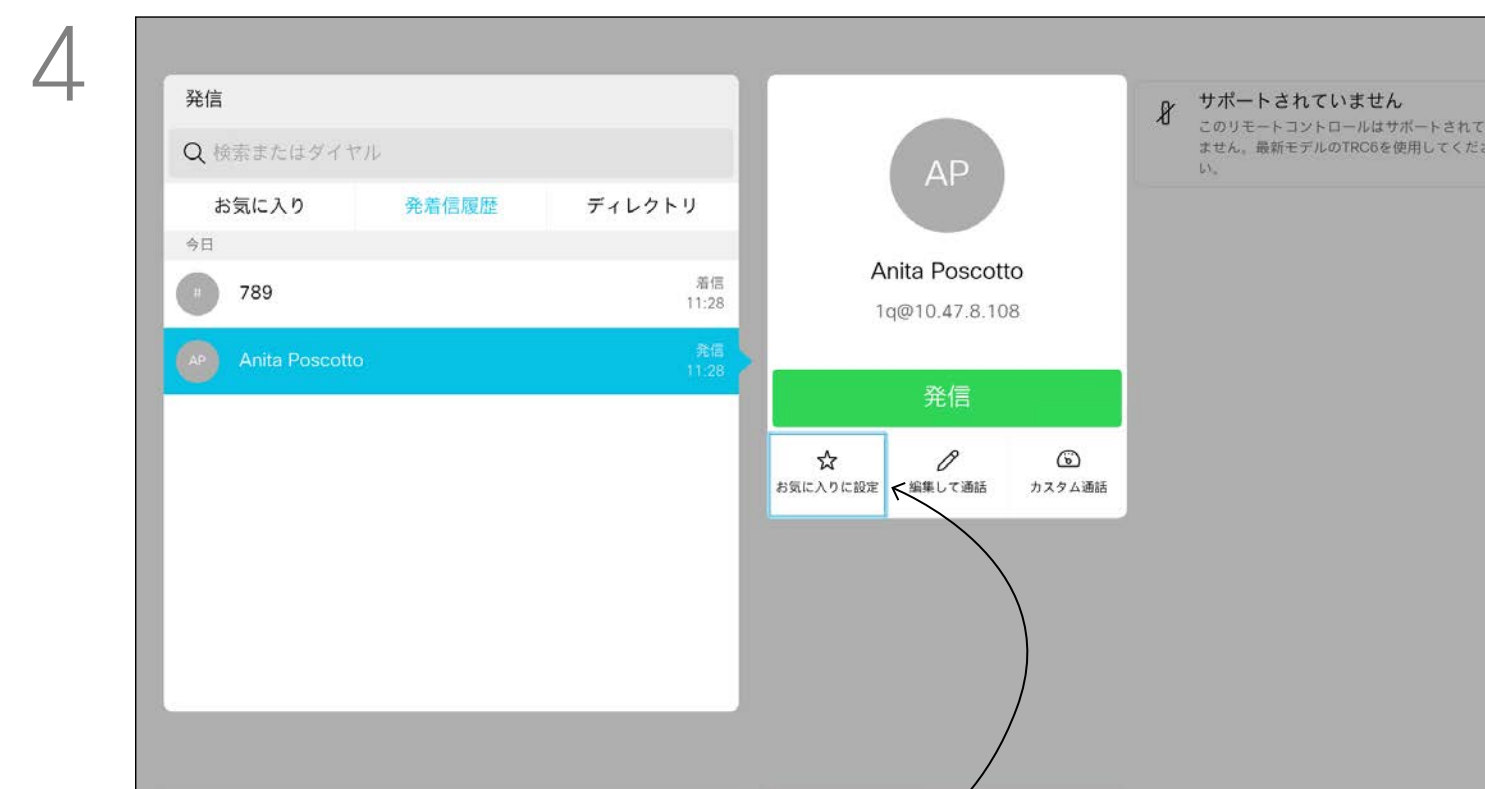
[発信(Call)](画面下部の一番左のフィールド)が選択され、OKが押されているか、またはリモコンの緑色の発信ボタンが押されていることを確認します。



[発信(Call)]メニューが表示されます。方向キーを使用して、[発着信履歴(Recents)]と[ディレクトリ(Directory)]を切り替え(右側の2つ)、いずれかのリストを選択できます。



エントリが見つかったら、リモコンの OK を押して [発信(Call)]メニューを呼び出し、方向キーを使用して、その他(...)に移動します。OKを押します。



方向キーを使用して、[お気に入りとしてマーク(Mark as Favorite)]に移動します。リモートコントロールの OK を押すと、選択したエントリがお気に入りのリストに追加されます。

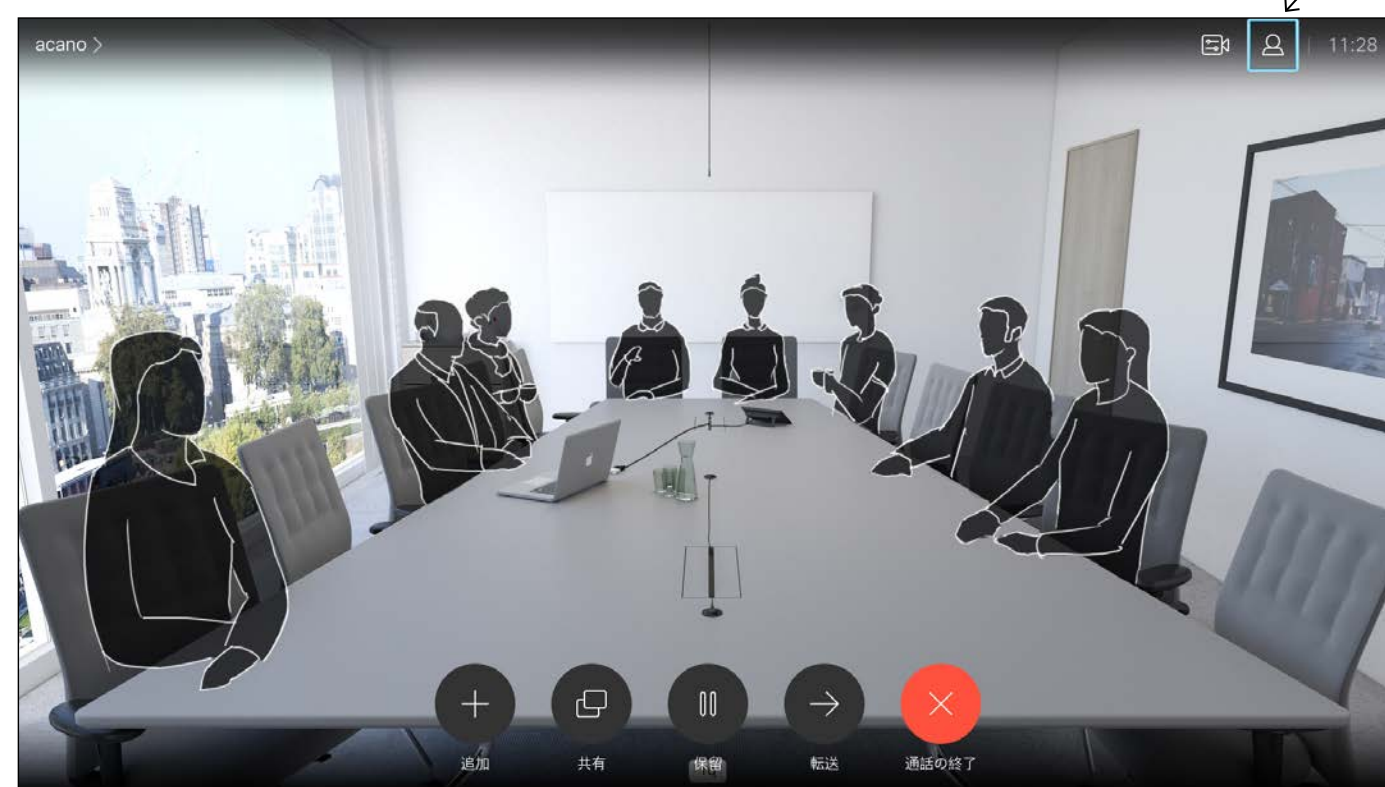
[お気に入り(Favorites)] リストから誰かを削除するには、この手順を繰り返します。

通話中に [お気に入り (Favorite)] に追加する

お気に入りについて

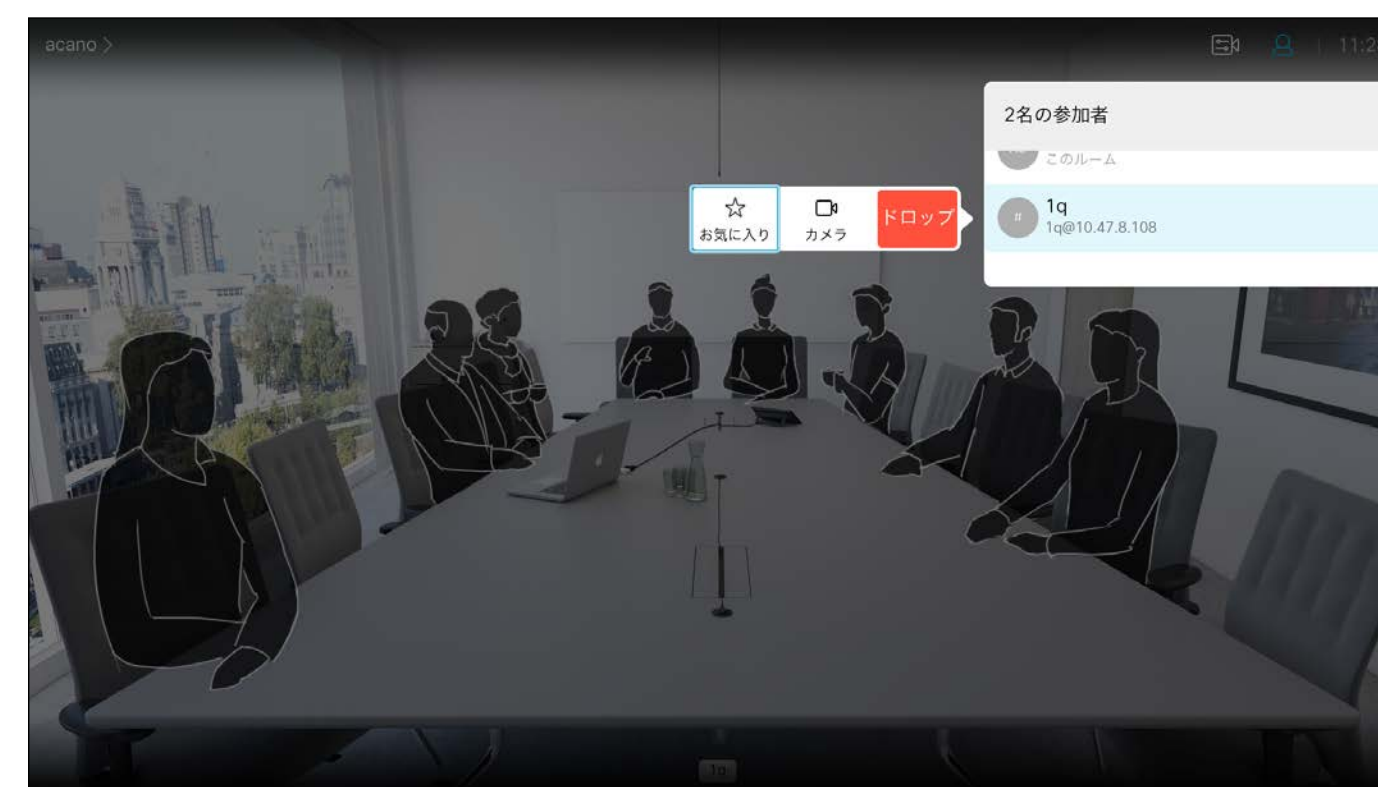
[お気に入り (Favorites)] は、個人用のディレクトリです。エントリは、社内ディレクトリから追加することも (詳細については前のページを参照)、発信先または着信元から追加することもできます。

1



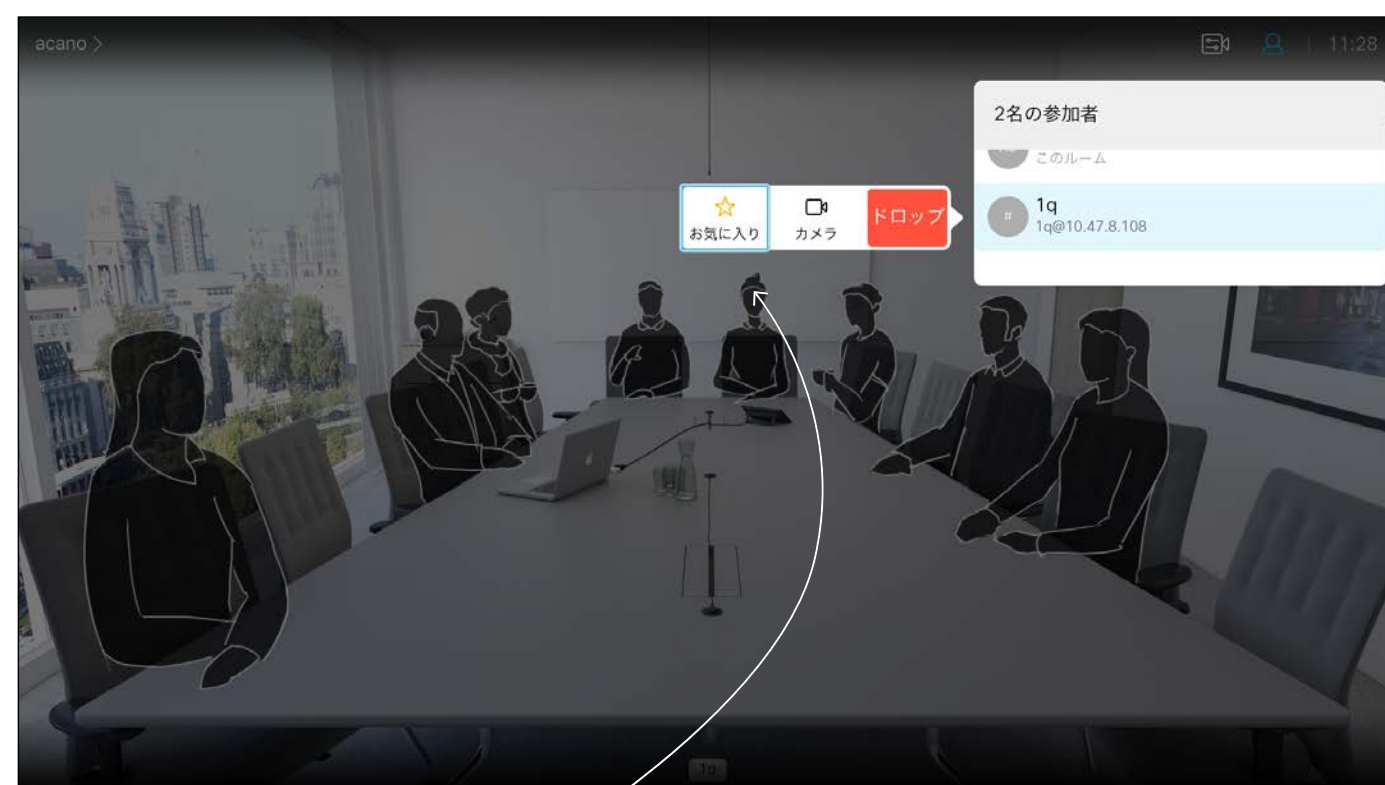
通話中に、リモートコントロールを使用して右上隅の参加者アイコンに移動し、リモートコントロールの OK を押します。

2



通話の参加者のリストを表示するメニューが表示されます。方向キーを使用して [お気に入り (Favorites)] に追加する参加者に移動し、リモコンの OK を押します。サブメニューが表示されます。

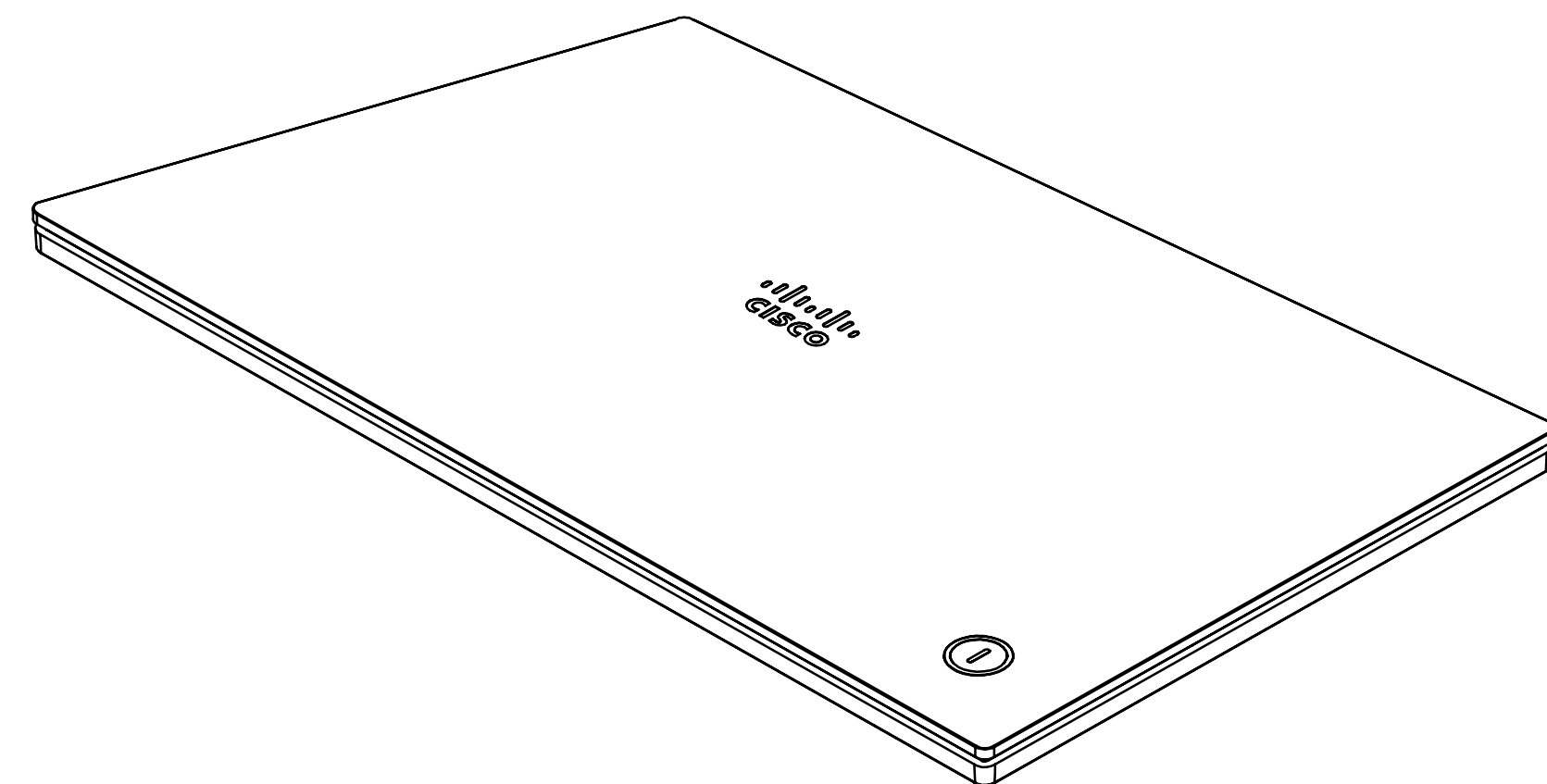
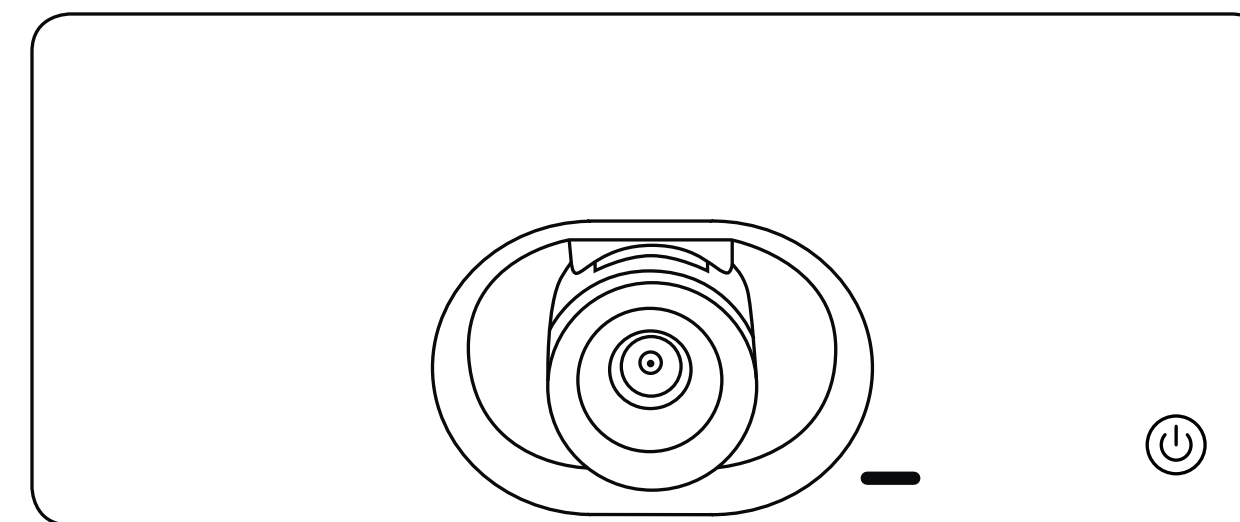
3



次に、このサブメニューの [お気に入り (Favorite)] (一番左) に移動してから、リモートコントロールの OK を押します。選択した参加者が [お気に入り (Favorite)] に追加されます。

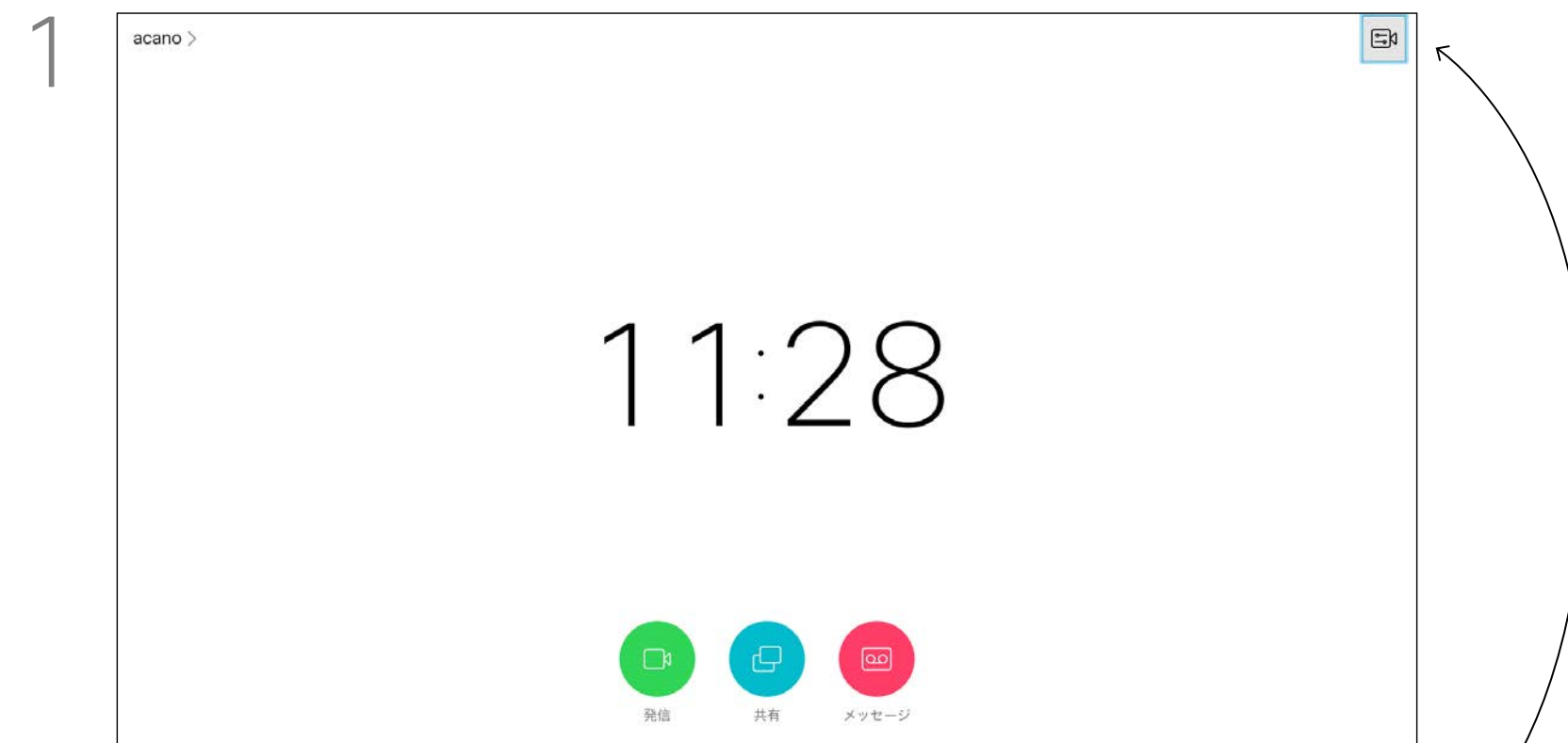
元に戻すには、この手順を繰り返します。

カメラ制御 (Camera Control)

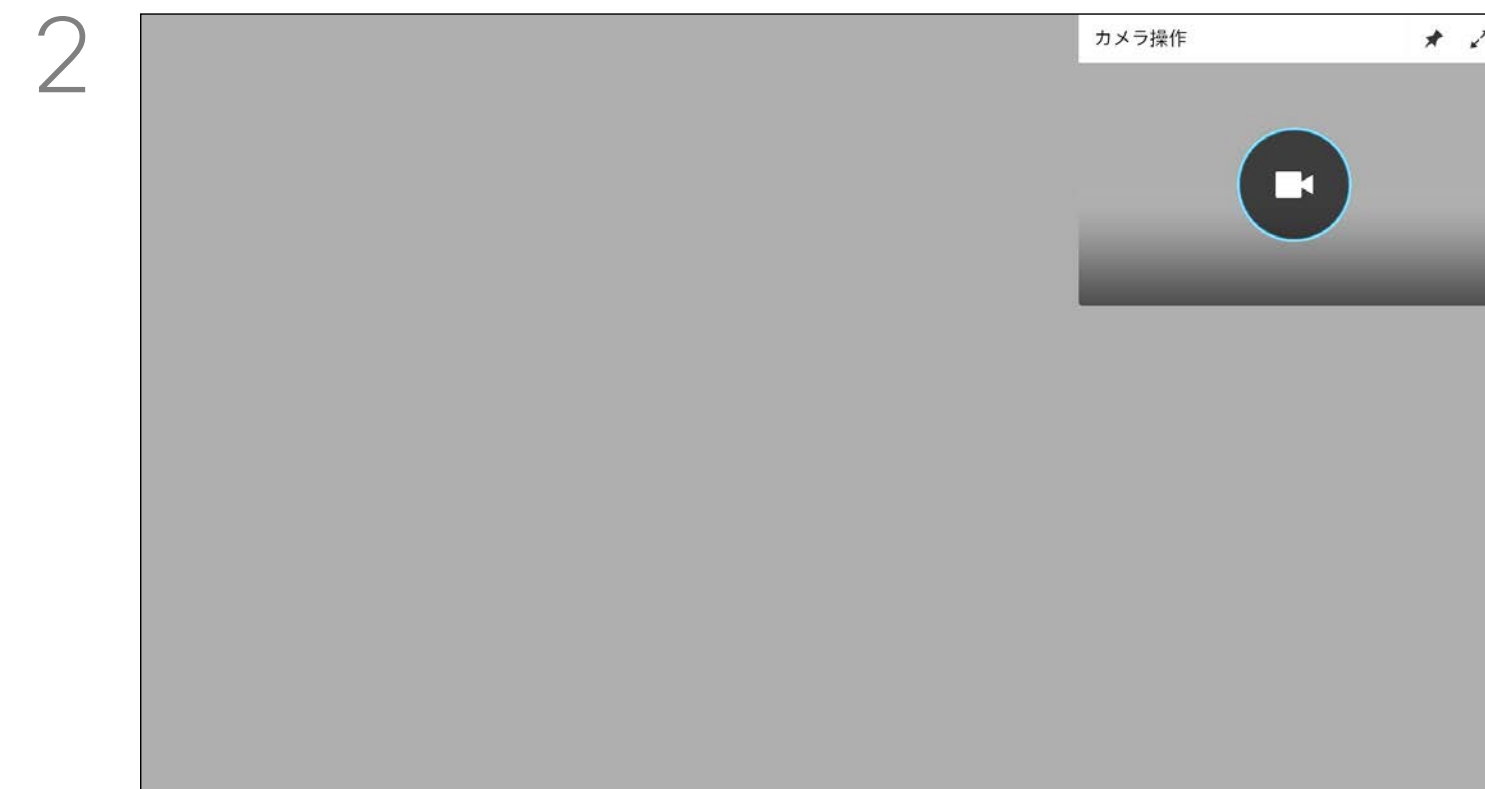


カメラ設定の表示(ローカル カメラ)

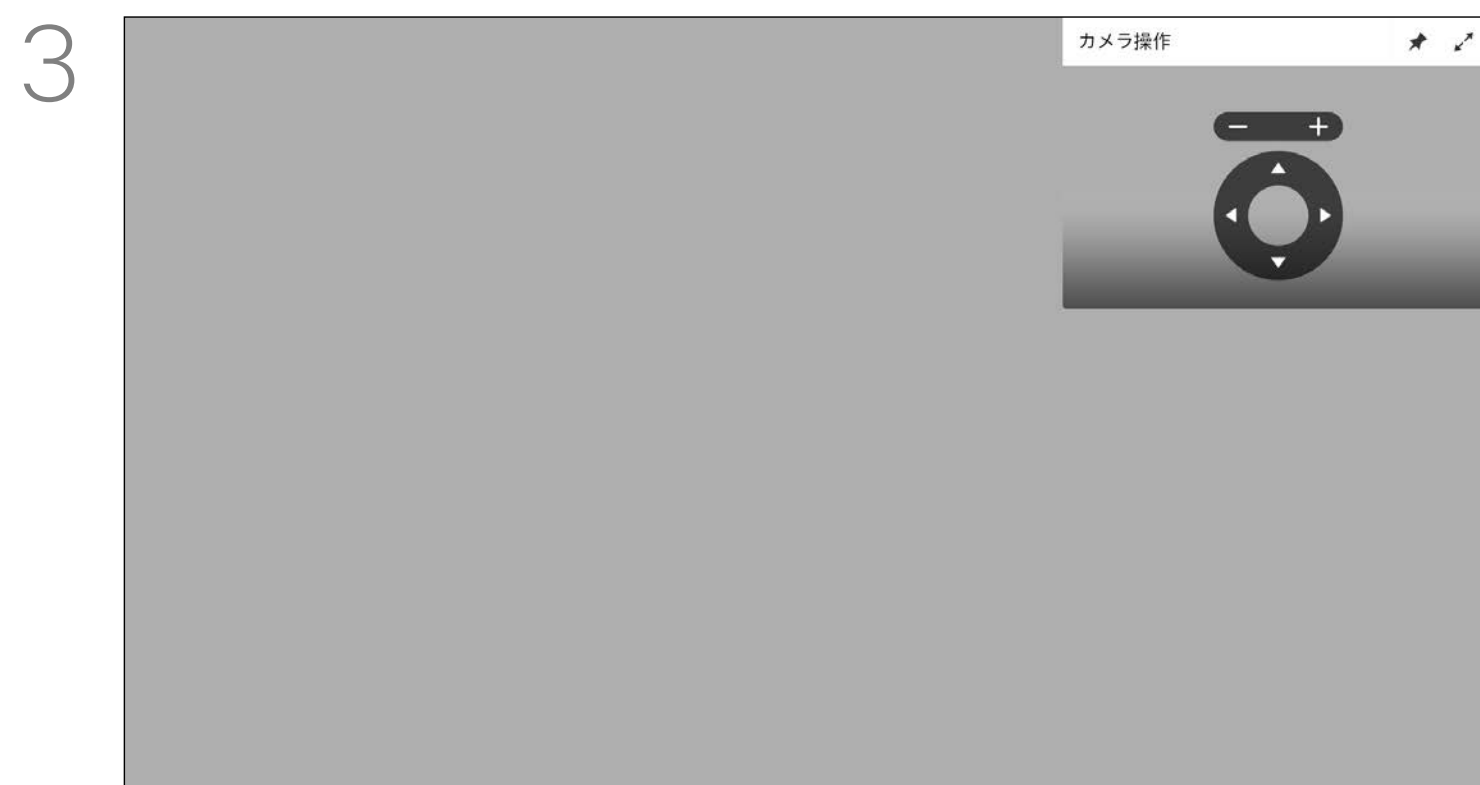
カメラ設定について



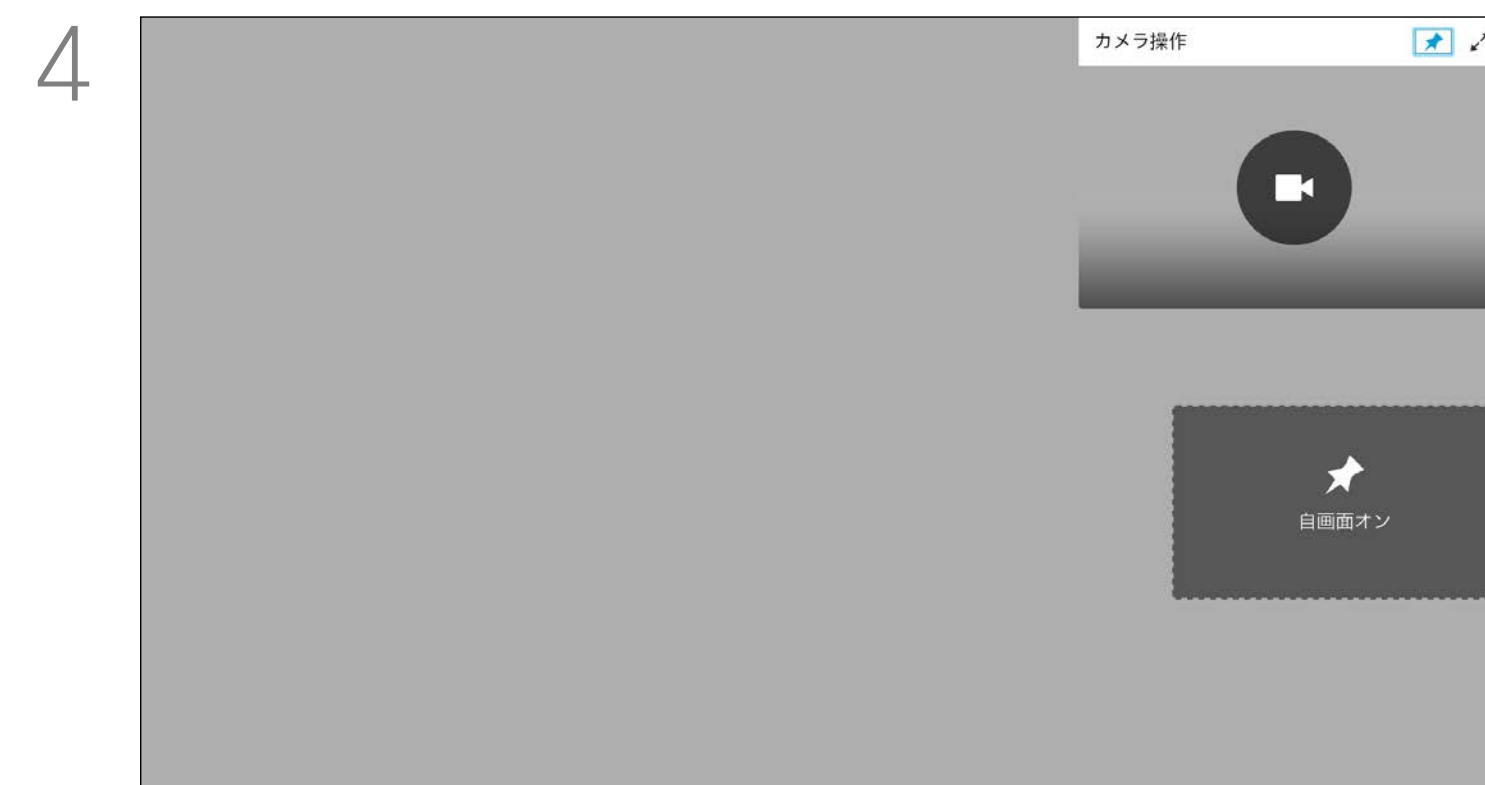
1 通話中または非通話時に(図を参照)、カーソルを右上のカメラアイコンに置きます。リモートコントロールの OK を押します。



2 カメラアイコンが表示されます。リモートコントロールの OK をもう一度押します。



3 カメラのパン、ズーム、傾きを調整できるようになります。リモコンの増/減コントロールを使用してズームを調整し、方向キーを使用してパンと傾きを調整します。

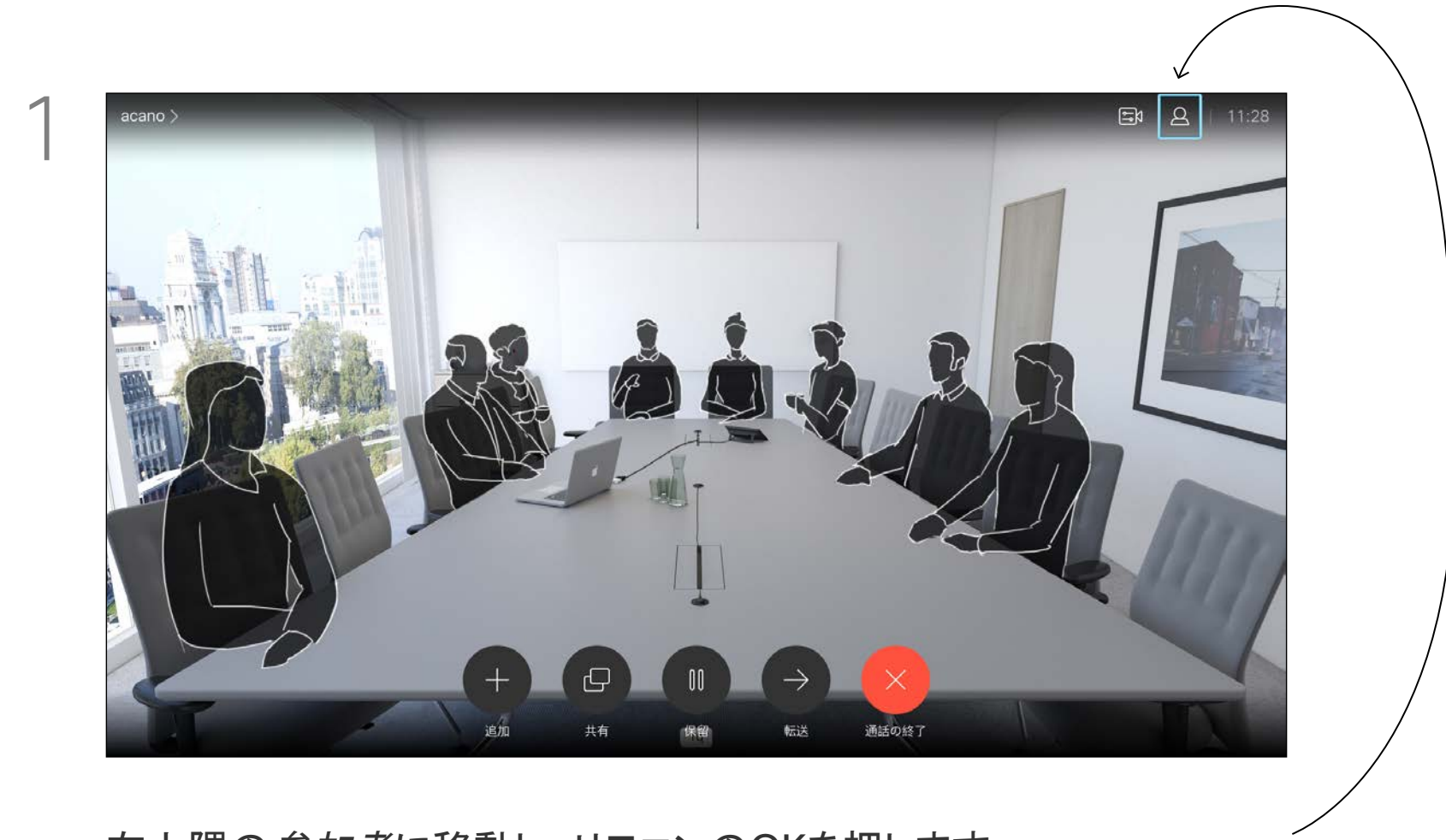


4 このメニューの上部右隅にあるアイコンを選択して、自画面の画像をスティッキ(常に表示)にしたり、最大化したりできます。リモコンの戻るを押してメニューを終了します。

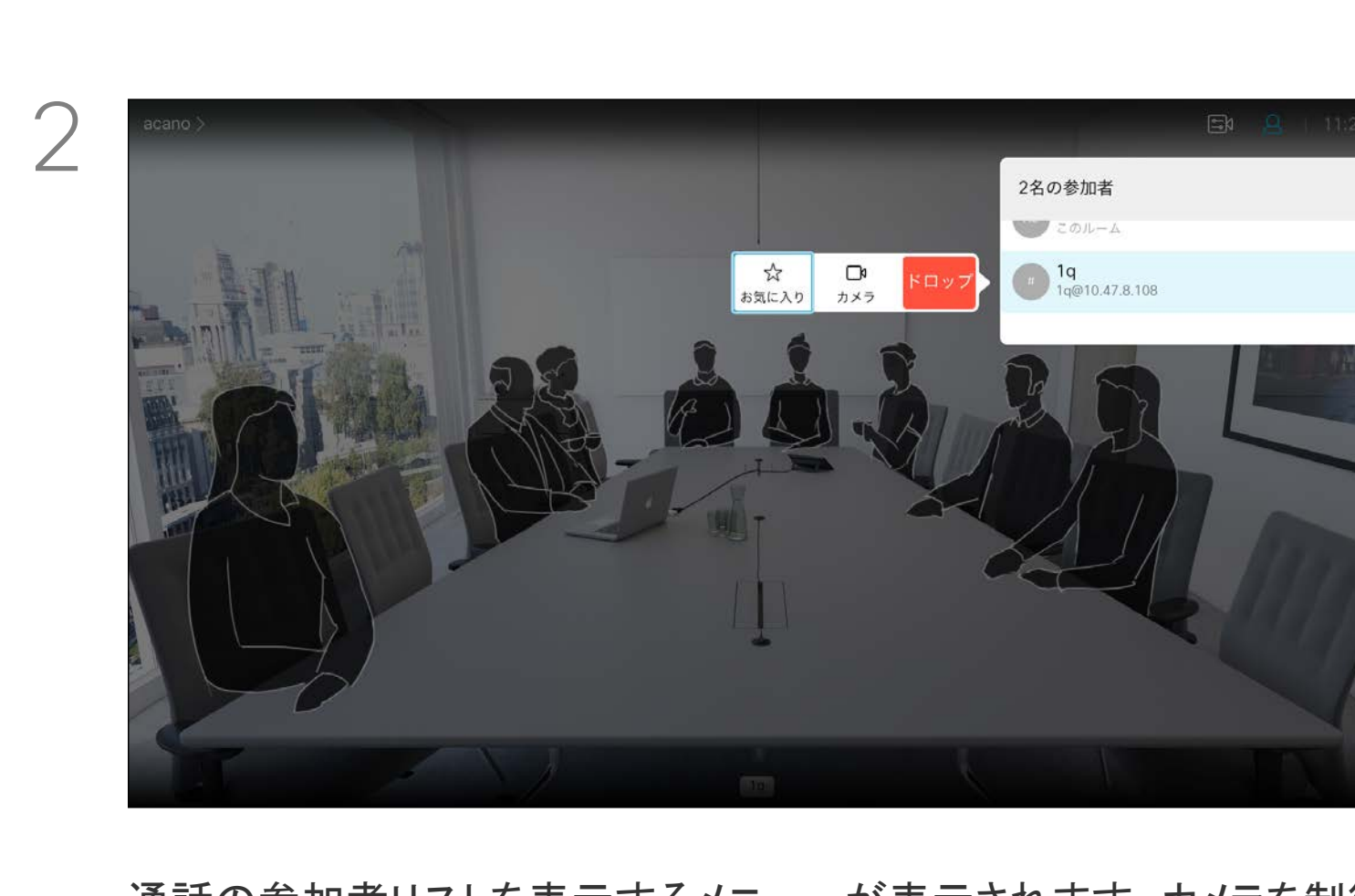
カメラ設定では、カメラのズーム、パン、傾きを制御できます。自画面(システムによって他者に表示される画像)のオン/オフに加えて、自画面の縮小/拡大(全画面)を実行できます。自画面を常に表示することも可能ですが、この操作をスティッキ(sticky)にするといいます。

相手先カメラ操作

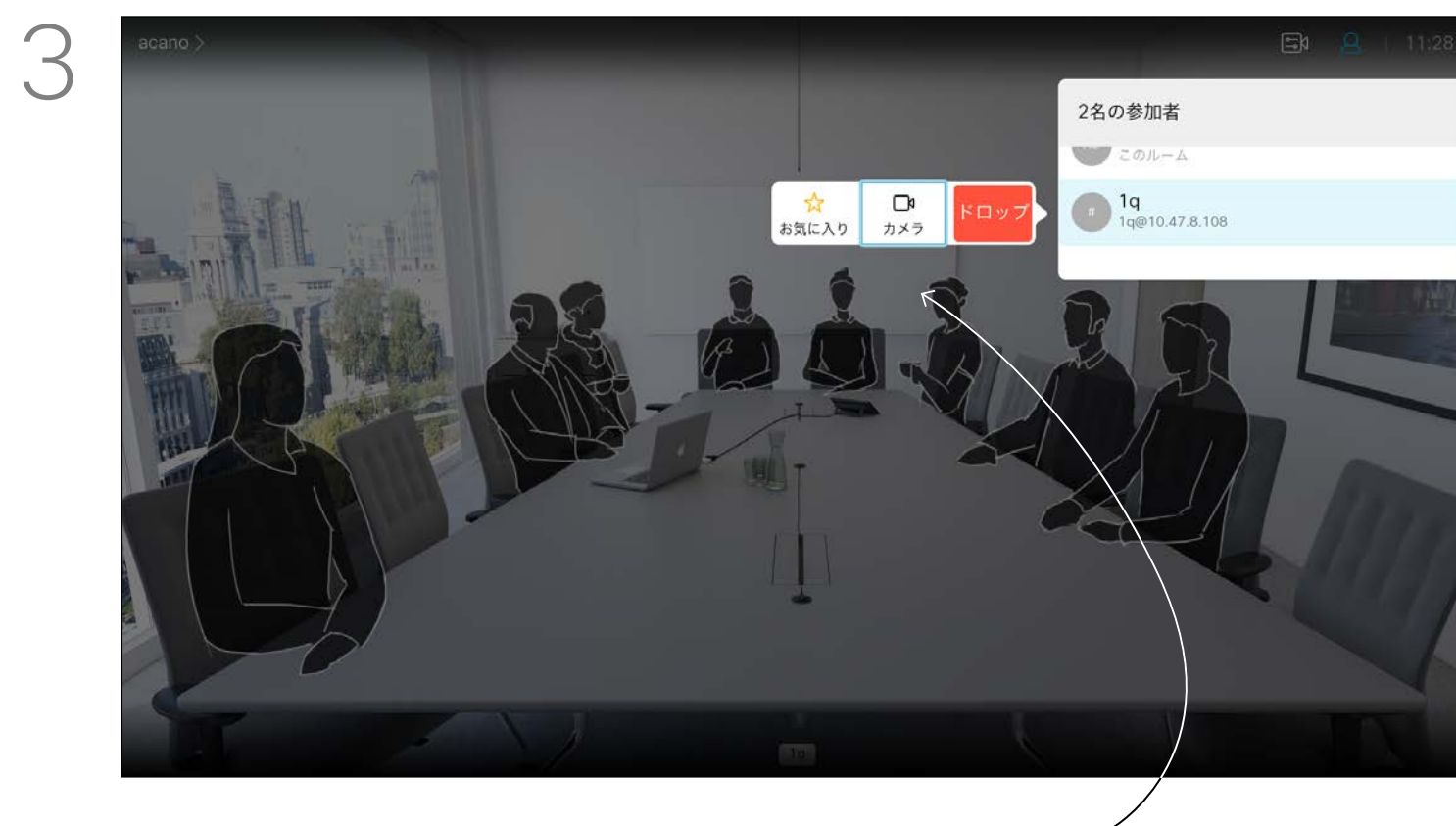
相手先カメラ操作について



右上隅の参加者に移動し、リモコンのOKを押します。



通話の参加者リストを表示するメニューが表示されます。カメラを制御する参加者に移動し、リモートコントロールのOKを押します。サブメニューが表示されます。



相手先カメラを制御するには、[カメラ(Camera)](右から2番目)に移動してから、リモートコントロールのOKをクリックします。

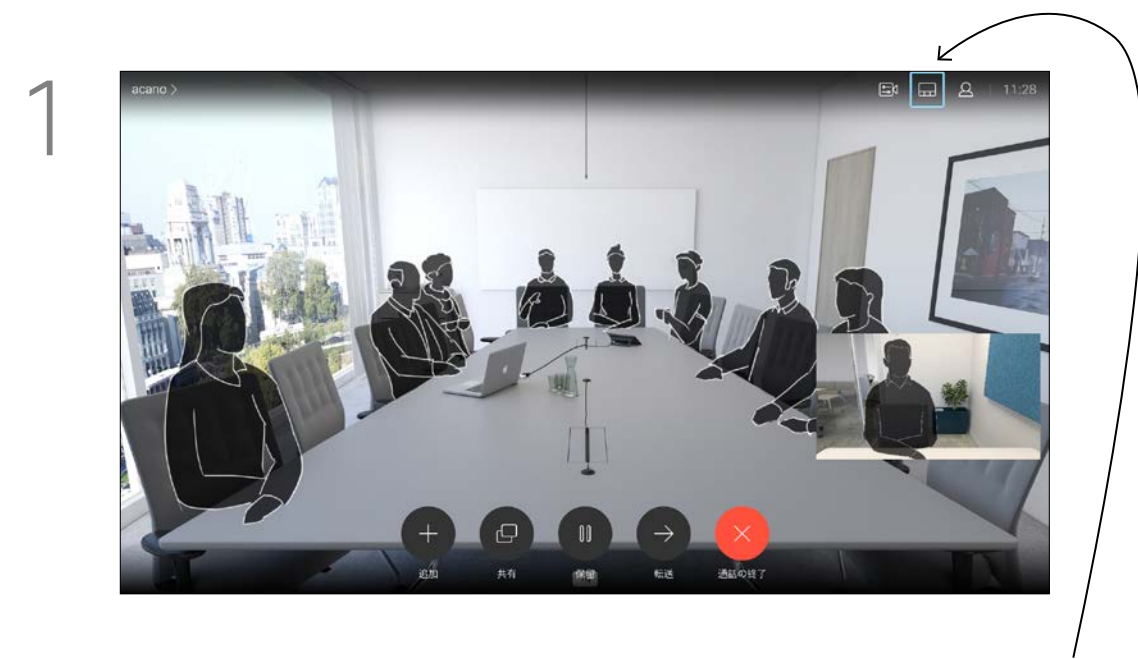


好みに応じて、パン、傾き、およびズームの調整をします。リモートコントロールのOKまたは戻るを使用して終了します。

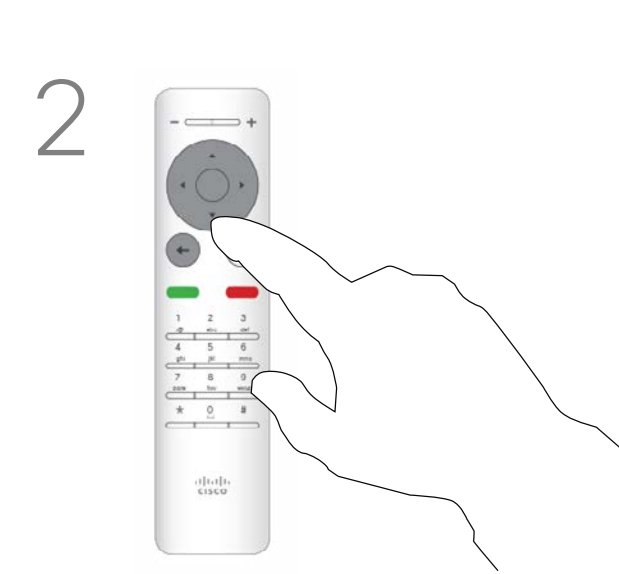
多くのビデオシステムには、リモートで操作できるカメラがあります。このようなシステムでは、リモートコントロールを使用してパン、傾き、およびズームを変更することができます。このようなシステムが相手先(会議の相手)にある場合は、通話中に相手先カメラを制御できます。

自画面 PiP の移動

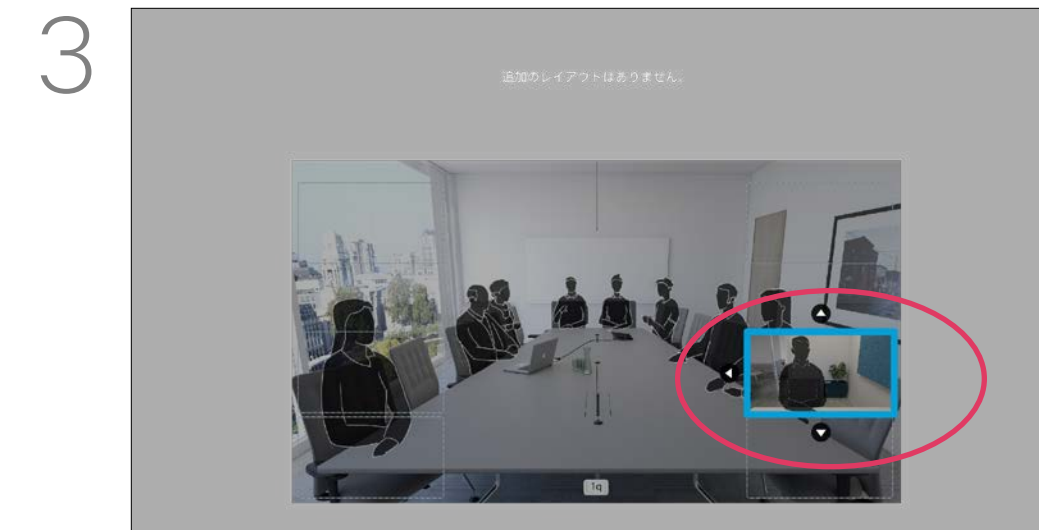
セルフビューを移動する理由



自画面がアクティブである場合、またはピクチャインピクチャが含まれるレイアウトの場合は、右上隅のレイアウトに移動し、リモコンの OK を押します。該当する場合にだけ、[レイアウト(Layout)] アイコンが表示されます。



レイアウトメニューが表示されます。リモコンの方向キーで下矢印を押し、自画面に移動します。



自画面が青色に変わり、選択されていることが表示されます。リモートコントロールの OK を押します。自画面を移動できることを示す矢印が表示されます。移動できる新しい場所が示されます。

自画面には、ビデオシステムから他者に見える内容が表示されます。通常は、こちらが意図しているとおりに他の参加者に見えているかを確認するためにセルフビューを使用します。

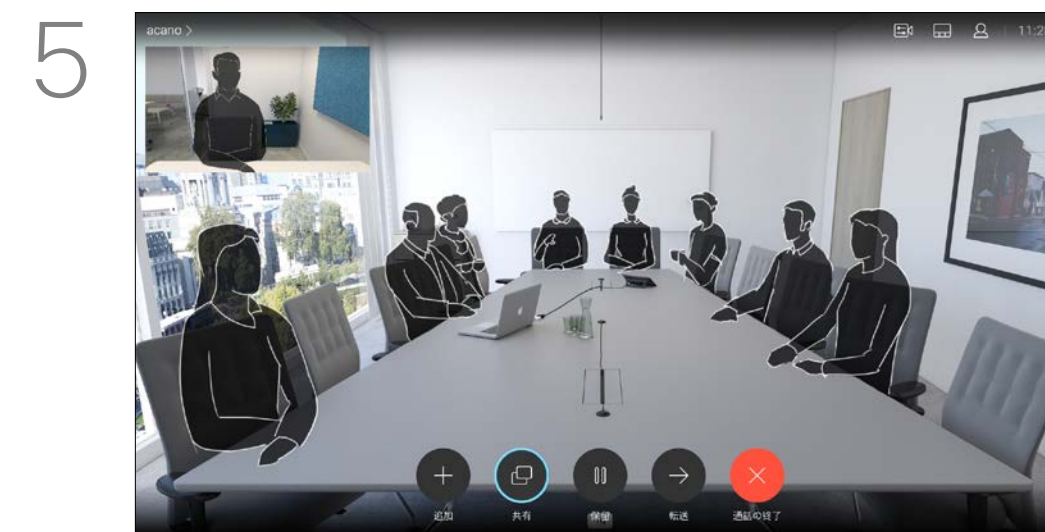
セルフビューは、PiP(ピクチャインピクチャ)として表示されます。

会議中に、セルフビューをアクティブにしたいときがあります。たとえば、画面に自分を表示したままにしたい場合です。

自画面の現在の位置により、画面上で画像の重要な部分が見えなくなる場合があります。このような場合に、自画面を移動することができます。

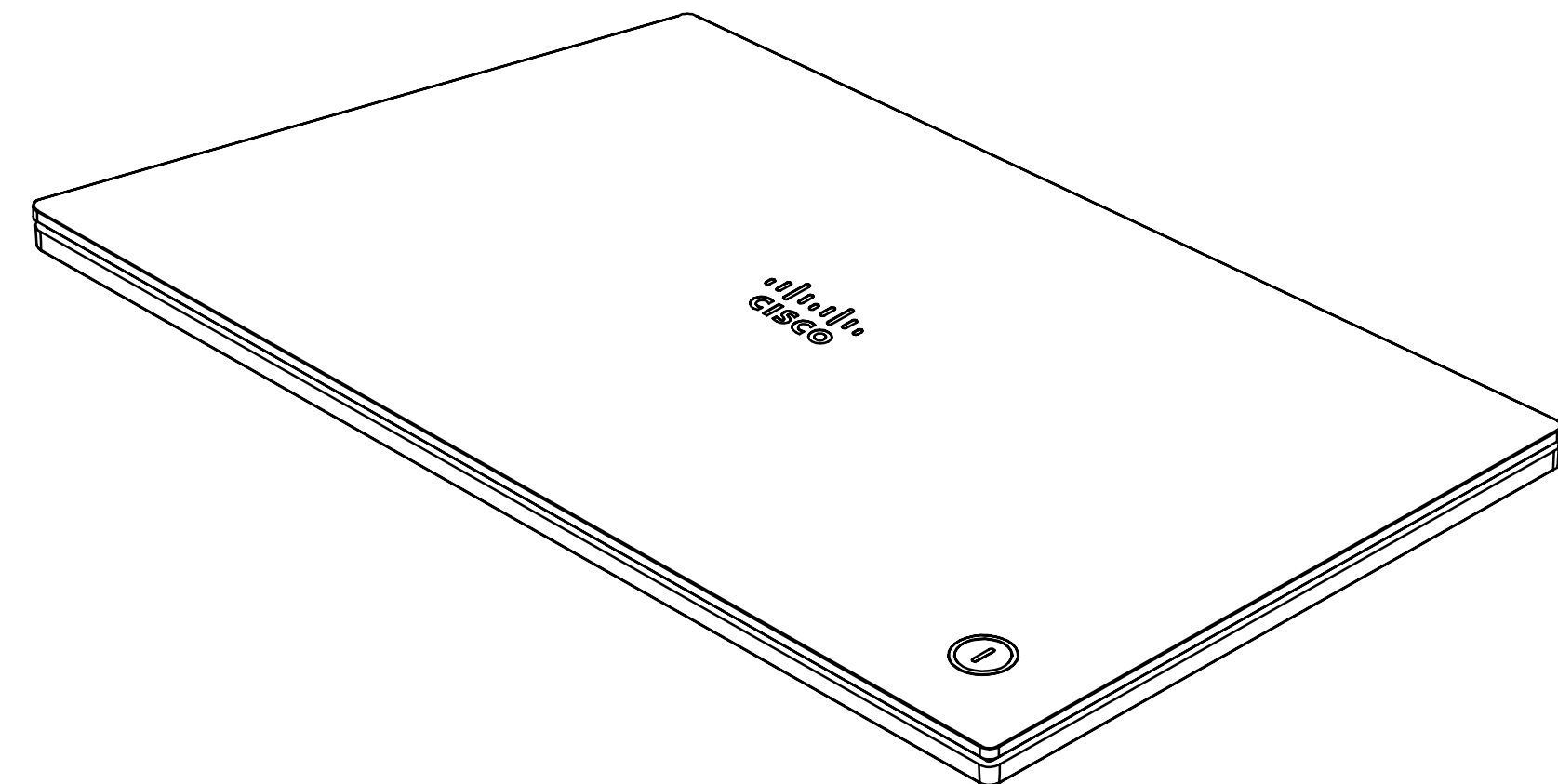
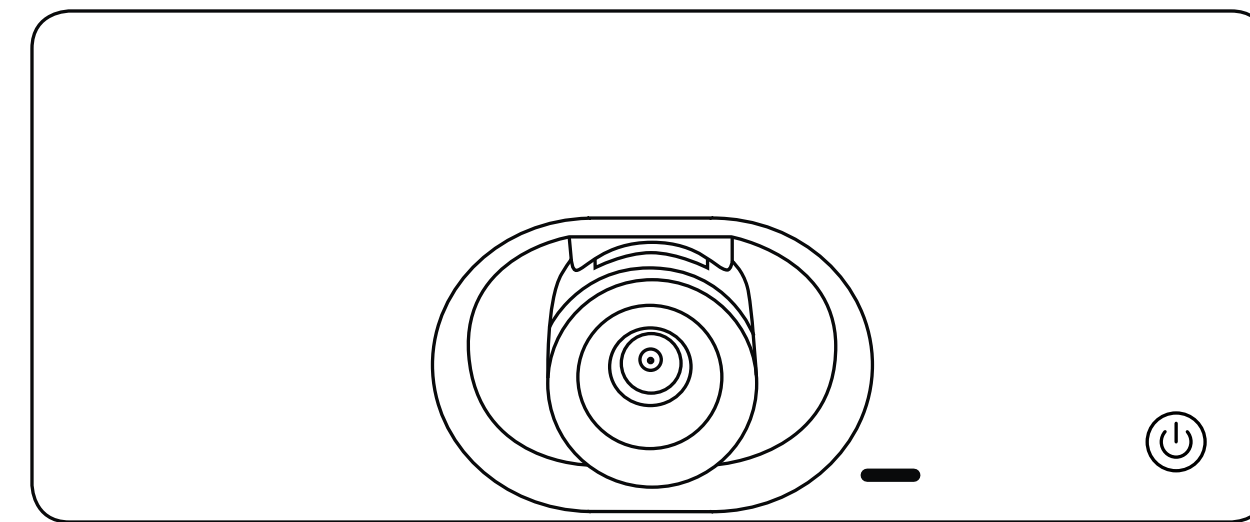


リモコンの方向キーを押して、画像を移動します。終わったら、OK を押します。

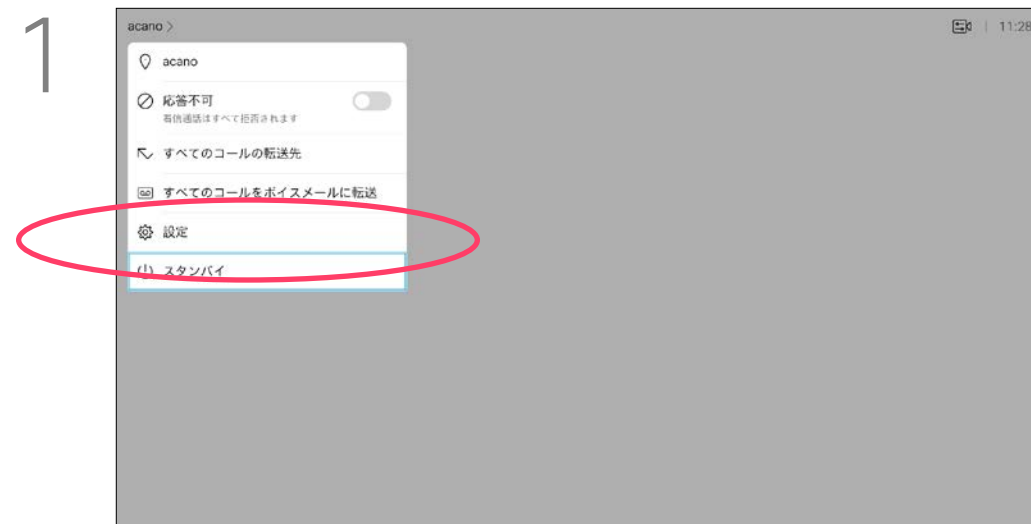


画面の画像は、新しい位置で自画面の元のサイズで表示されます。

設定



設定にアクセスする



1 [設定 (Settings)] メニューにアクセスするには、画面の左上に移動し、リモートコントロールの OK を押します。[システム情報 (System Information)] (メニューの下から 2 番目) に移動し、再度 OK を押します。



2 [設定 (Settings)] にはシステムの基本情報が示されますが、ここではセットアップ ウィザードにアクセスして、システムを再起動することもできます。

[システム情報 (System Information)] ページには、IP アドレス、MAC アドレス、SIP プロキシ、インストールされているソフトウェアのバージョン、デバイス名などの情報が表示されます。

ここではシステムの再起動ができ、[詳細設定 (Advanced settings)] からセットアップ ウィザードを使用できます。このメニューから着信音とボリュームを指定できるようになりました。



Americas Headquarters
Cisco Systems, Inc.
San Jose, CA

アジア太平洋本部
Cisco Systems (USA) Pte. Ltd.
シンガポール

ヨーロッパ本部
Cisco Systems International BV Amsterdam,
The Netherlands

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号はシスコの Web サイト(www.cisco.com/go/offices)をご覧ください。

Cisco および Cisco ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における商標です。Cisco の商標の一覧は、www.cisco.com/go/trademarks でご確認いただけます。掲載されている第三者の商標はそれぞれの権利者の財産です。「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1005R)